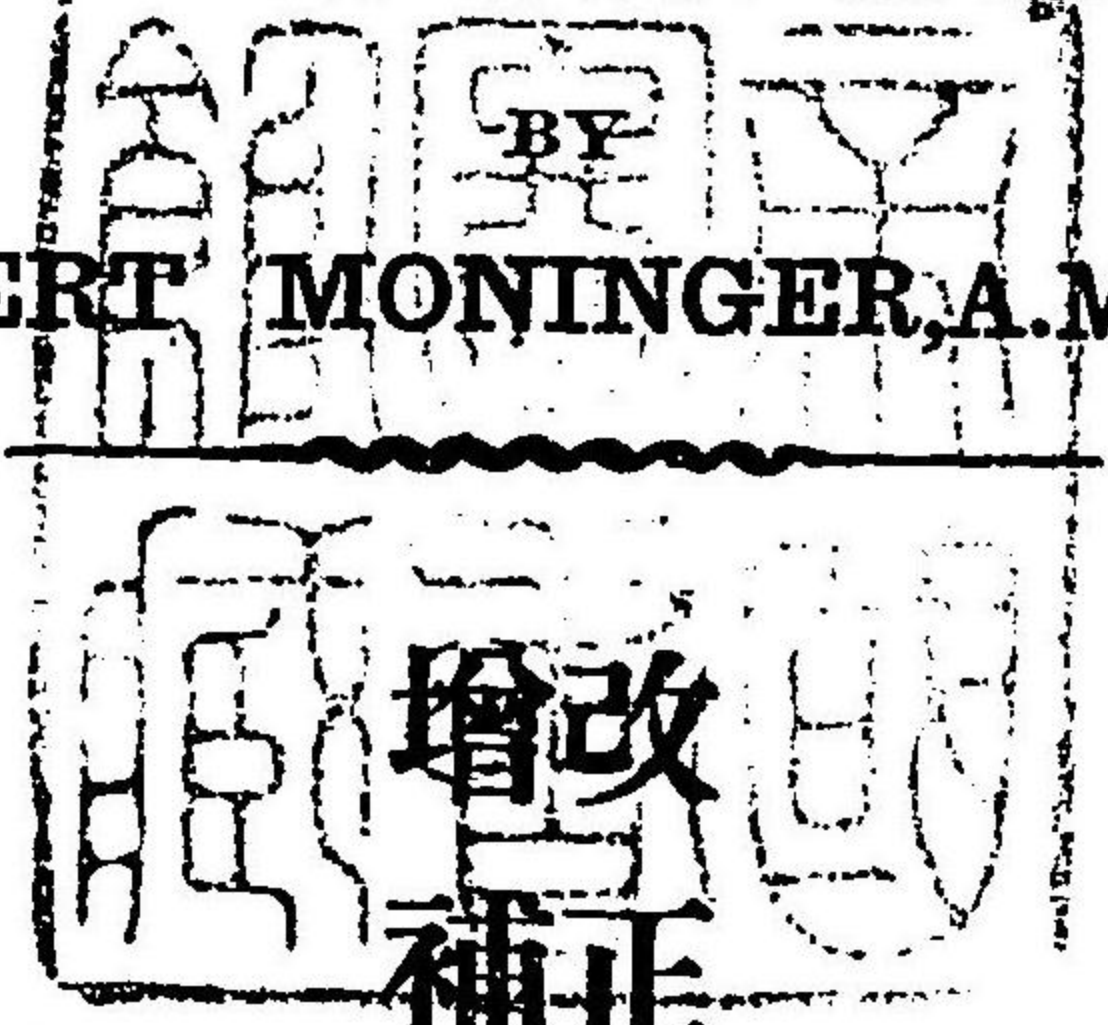


413 421
887

TRAINING FOR SERVICE

BY
HERBERT MONINGER, A.M., B. D.



教務撮要

米國
バスター、オブ、アーツ、
バチエラー、オブ、
デヴィニチー、
ハーバート、
モーニガー著

東京
四谷基督教會發行

全
43. 9. 29
四家

薦書

個人學校ノ如何ヲ問ハズ此書ガ聖書ノ組織的研究ニ對スル無二ノ適書タルハ動カスベカラザル事實ニシテ米國ニ於ケル「バイブルクラス」ニ於テ用ヒラル、モノ其數二十萬部以上ニ達ス。是ニ於テカ著者モ「ニンガー」氏ハ此書ヲ敬愛スル日本ノ諸氏ニモ頒タントス。諸子ヨ乞フ此書ヲ翻テ以テ神言ニ對スル明確ナル見解ト救道ニ達スル崇高ナル智識トヲ得ラレヨ。

譯者不備必ズシモ誤謬ナキヲ保セズ諸子ノ盡力ヲ待ツテ之ヲ再版三版ニ訂正ヲ期ス。

明治四十三年六月

東京ニ於テ ダブルユー、デー、カンニングハム

目次

第壹篇 聖書及其各部分に於ける三學課	一頁
第一章 聖書と各部分	一
第二章 舊約全書の各書	四
第三章 新約全書の各書	六
第貳篇 實證に關する二學課	一〇
第四章 聖書を神の言と信する八個の理由	一〇
第五章 基督を神の子と信する八個の理由	一四
第三篇 舊約歴史に於ける六學課	一八
第六章 列傳としての舊約歴史(其一)	一九
第七章 列傳としての舊約歴史(其二)	二四
第八章 各時代の舊約歴史(其一)	二九
第九章 各時代の舊約歴史(其二)	三二

第十章 各時代の舊約歴史(其三)……………三七

第十一章 舊約歴史の復舊……………四三

第四篇 新約歴史に於ける六學課……………四五

第十二章 時代によれる基督傳研究(其一)……………四六

第十三章 時代によれる基督傳研究(其二)……………五一

第十四章 教會の初め……………五七

第十五章 時代によれるパウロ傳研究……………六二

第十六章 舊約各時期史……………六七

第十七章 新約歴史の復習……………七〇

第五篇 聖書地理に於ける五學課……………七〇

第十八章 舊約世界……………七一

第十九章 新約世界……………七五

第二十章 パレスチンの地……………七九

第二十一章 全聖書世界……………八二

第二十二章 聖書地理の復習……………八八

第六篇 舊約制度に於ける五學課……………八八

第二十三章 祭壇と幕屋……………八八

第二十四章 神殿……………九五

第二十五章 會堂……………九九

第二十六章 ユダヤ人の祭典……………一〇二

第二十七章 舊約制度の復習……………一〇六

第七篇 日曜學校に於ける七學課……………一〇八

第二十八章 日曜學校の歴史……………一〇八

第二十九章 日曜學校の定義……………一一四

第三十章 日曜學校と教會……………一二六

第三十一章 家庭科……………一九

第三十二章 階級制度……………二三

第三十三章 階級的補充學課……………三二

第卅四章 日曜學校の復習……………一三六

第八篇 教師と其事業に關する入學課……………一三六

第卅五章 教師の資格……………一三七

第卅六章 教師の準備……………一四一

第卅七章 教授の原理……………一四八

第卅八章 教授の形式的五段階……………一五四

第卅九章 心理の研究……………一六一

第四十章 質問法……………一六七

第四十一章 説明法……………一七六

第四十二章 教師と其事業に於ける復習……………一八一

第九篇 生徒に關する入學課……………一八一

第四十三章 兒童の性質……………一八一

第四十四章 幼稚科……………一八九

第四十五章 初等科……………一九三

第四十六章 少年科……………二〇〇

第四十七章 中年科……………二〇七

第四十八章 青年科……………二一四

第四十九章 成人科……………二二〇

第五十章 圖表研究……………二二四

練習問題……………二二六

練習問題の答案……………二四九

第壹篇 聖書と其各書に關する三學課

第壹章 聖書と其區分

第貳章 舊約の各書

第參章 新約の各書

第壹章 聖書と其區分

一、聖書(Bible)なる語はギリシヤ語の Biblos 即「書」といふ語より出でたり、世に眞の書と稱すべき價值あるは唯聖書あるのみ。

二、聖書に二個の名あり。(一)神の言葉(弗六〇十七)(二)聖書(Scripture)(太廿一〇四十二約五〇三十九徒十七〇十一提後三〇十五)

三、聖書は普通舊約全書(Old Testament)新約全書(New Testament)と呼ばるゝ二部に區分せらる。パウロは是を舊約(Old Covenant)新約(New Covenant)と云へり(哥後三〇十四哥後三〇六)ギリシヤ語の Diatheta(Covenant)なる言葉をラテン語に譯する時は Testamentum

即ち英語 Testament となるなり。

四、舊約全書に參拾九卷あり。此の卷數の記憶を補くる方法は左の如し。

英語にて Old Testament 換言すれば即 39 なり。

五、新約全書に貳拾七卷あり。此の卷數の記憶を補くる方法は左の如し。

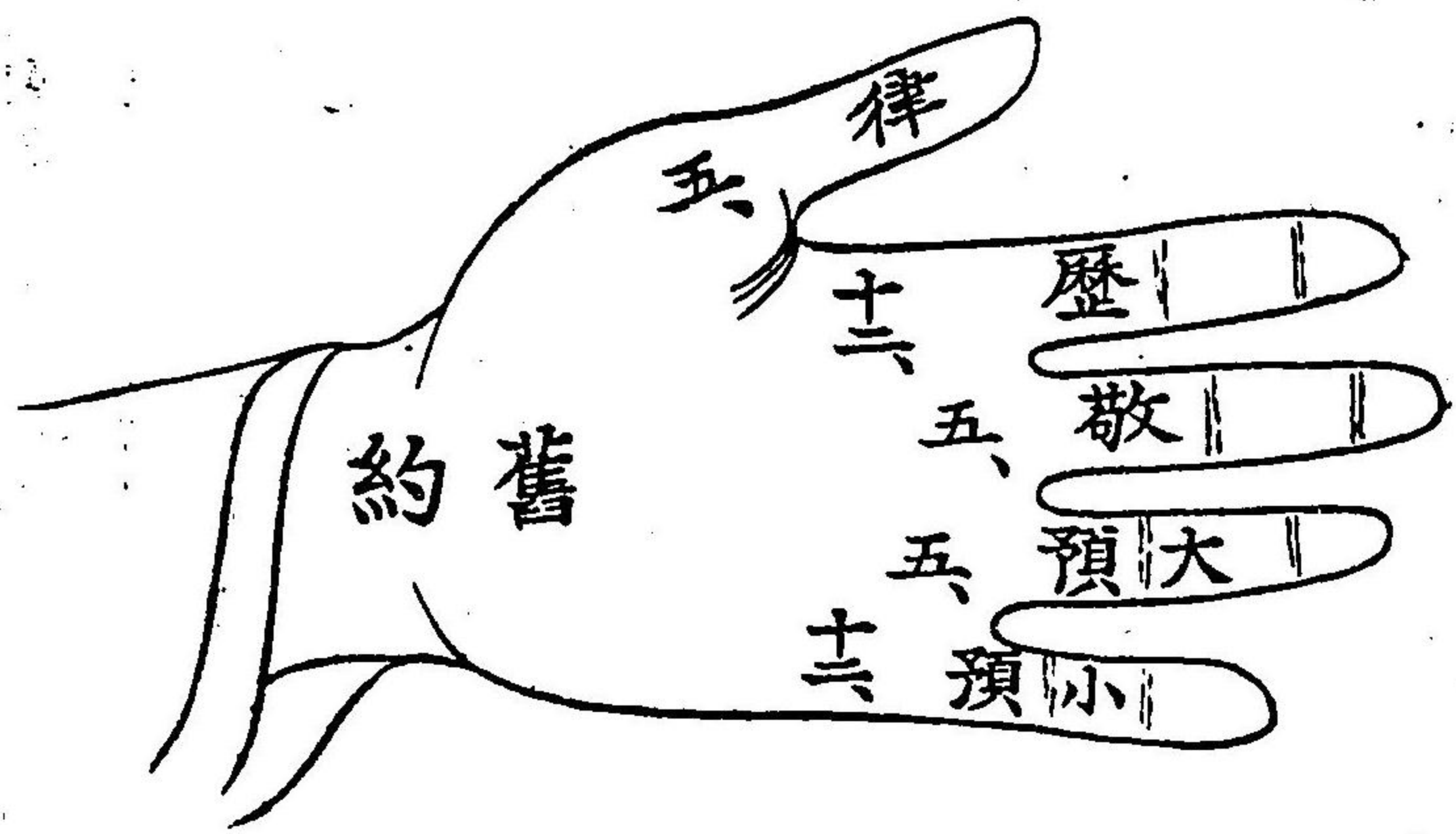
英語にて New Testament 換言すれば即 27 となる。

六、舊約全書を五部に分つ律法の書、歴史の書、敬虔の書、大預言の書、小預言の書、即ち是れなり。

七、律法の書に五卷、歴史の書に拾貳卷、敬虔の書に五卷、大預言の書に五卷、小預言の書に十二卷あり。

八、新約全書を五部に分つ傳記の書、歴史の書、特別の書翰、一般の書翰、預言の書、即ち是なり。

九、傳記に四卷、歴史に一卷、特別の書翰に十四卷、一般の書翰に七卷、預言の書に一卷あり。



黒枚練習

聖書		一、言葉の意義		二、三個の名稱		三、其區分	
舊約	新約						
一、律	一、傳	五	四				
二、歴	二、歴	十二	一				
三、敬	三、特書	五	十四				
四、大預	四、一般の書	五	七				
五、小預	五、預	十二	一				
計	計	三十九	二十七				

試問

- 1、聖書といふ意義は何ぞ？
- 2、聖書の二つの名を挙げよ、

3. 聖書の區分如何、
4. 舊約の中に幾何卷あるか？ 其の記憶法を述べよ、
5. 新約の中に幾何卷あるか？ 其の記憶法を述べよ、
6. 全聖書に幾何卷あるか？
7. 舊約書を區分し、且各部の卷數を擧げよ、
8. 新約書を區分し、且各部の卷數を擧げよ、

第二章 舊約の各書

各信徒は聖書の各書の名稱と順序とを熟知し居るを要す。然らずんば必要の場合に適當に用ゆる事能はず。前章に於て吾人は舊約書の區分を學びたり。即ち律法、歴史、敬虔、大預言、小預言、是れなり。吾人は茲に是等の區分の各書の名稱を學ばんとす。

一、律法の書(Pentateuch)……モーセの五經に五卷あり、即ち創世記、出埃及記、利未記、民數記、申命記。

二、歴史の書に十二卷あり、即ち約書、亞記、士師記、路得記、撒母耳前書、撒母耳後書、列王紀略上、列王紀略下、歷代志上、歷代志下、以士喇書、尼希米亞記、以士帖記。

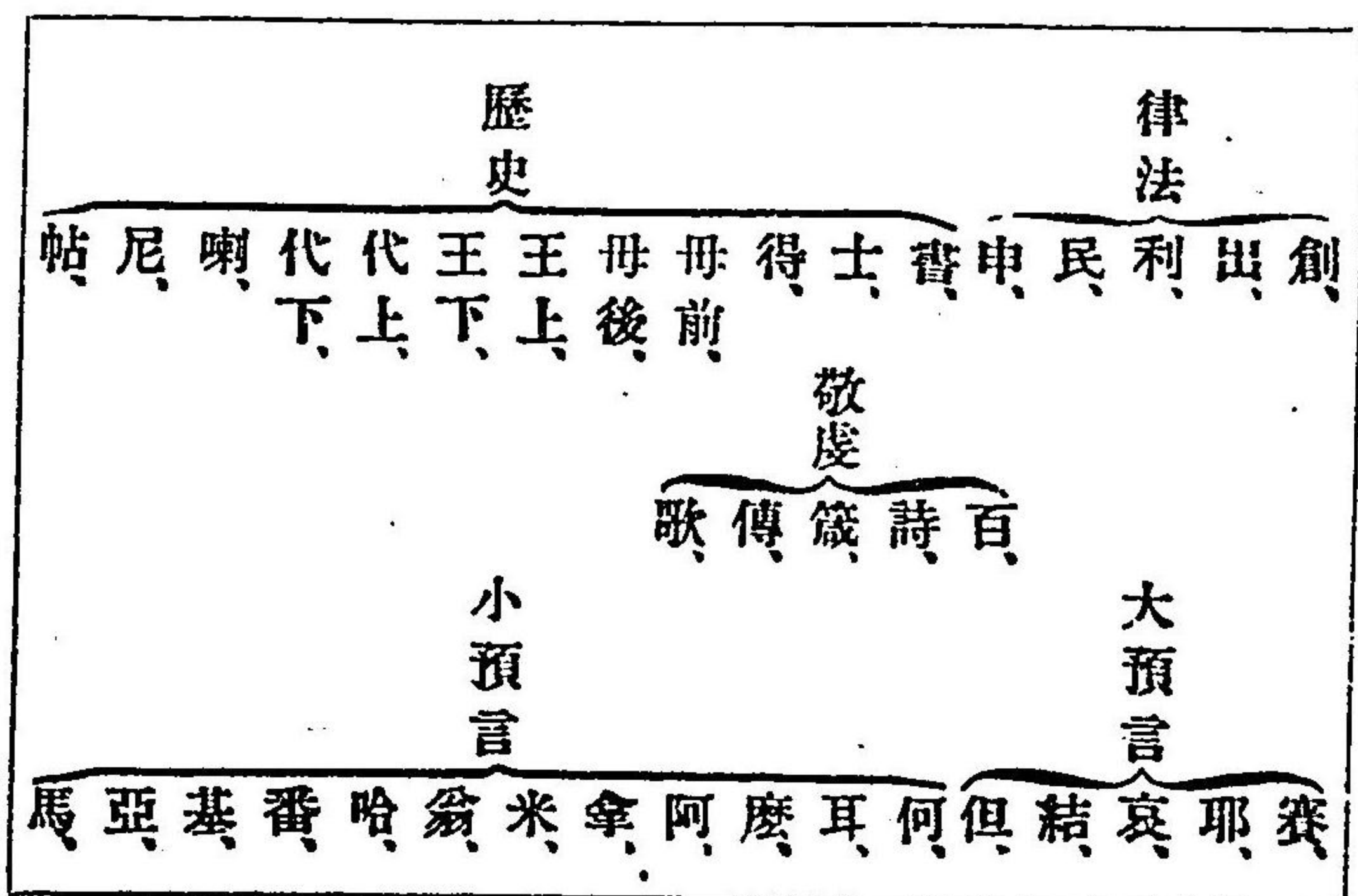
三、敬虔の書に五卷あり、即ち約百記、詩篇、箴言、傳道書、雅歌。

四、大預言に五卷あり、即ち以賽亞書、耶利米亞記、哀歌、以西結書、但以理書。

五、小預言に拾貳卷あり、即ち何西阿書、約耳書、亞麼士書、阿巴底亞書、約拿書、米迦書、拿翁書、哈巴谷書、西番雅書、哈基書、撒加利亞書、馬拉基書。

注意 小預言の順序を記憶するに種々の方法ありと雖も、最良の方法は幾度も暗誦して習熟するにあり。

第壹編 第貳章 舊約の各書



黑板練習

試問

- 1、舊約書の區分を問ふ、
- 2、律法の書の名を挙げよ、
- 3、歴史の書の名を挙げよ、
- 4、敬虔の書の名を挙げよ、
- 5、大預言の書の名をあげよ、
- 6、小預言の書の名をあげよ、
- 7、舊約書を復習するに幾時間を要するが？

第三章 新約の各書

一、新約全書の區分、

其一、傳記……四卷、

其二、歴史……壹卷、

其三、特別書翰……十四卷、

其四、一般の書翰……七卷、

其五、預言……壹卷、

二、新約の書の名稱

其一、傳記の書は馬太傳、馬可傳、路加傳、約翰傳とす。是等を福音書といふ。最初の三卷を共觀福音書といふ。

共觀(Synoptic)なる語は共に見るといふ意味を存するギリシヤ語より出づ。是等の福音書は種々類似せる記述を爲すを以て、吾人は記者等が基督の生涯を共觀せるものなりといふべし。

其二、歴史の書は使徒行傳なり。

其三、特別書翰は羅馬書、哥林多前書、哥林多後書、加拉太書、以弗所書、腓立比書、哥羅西書、帖撒尼迦前書、帖撒尼迦後書、提摩太前書、提摩太後書、提多書、腓利門書、希伯來書。

其四、一般の書翰は雅各書、彼得前書、彼得後書、約翰第一書、約翰第二書、約翰第三書、猶太書。

注意、約翰第二、第三書は個人に向つて書かれたりと雖も、一般の書翰中に數へらる。

其五、預言の書は約翰黙示祿壹卷なり。

三、新約全書の記者

其一、傳記の書は記者の名を其書名となせり。

馬太及び約翰は使徒なり。

其二、使徒行傳は路加の記せしものなり。

其三、特別の書翰は(希伯來書を除く)悉くパウロの記せしものなり。希舊來書の記者は分明ならず、其教義のパウロに似たるを以て、パウロの書翰中に置かる。

其四、一般の書翰は其書に記者の名を附したり。

其五、黙示録は約翰の記せしものなり。

かく新約全書は路加が貳卷、約翰が五卷、パウロが十三卷書し、希伯來書の記者を

黑板練習

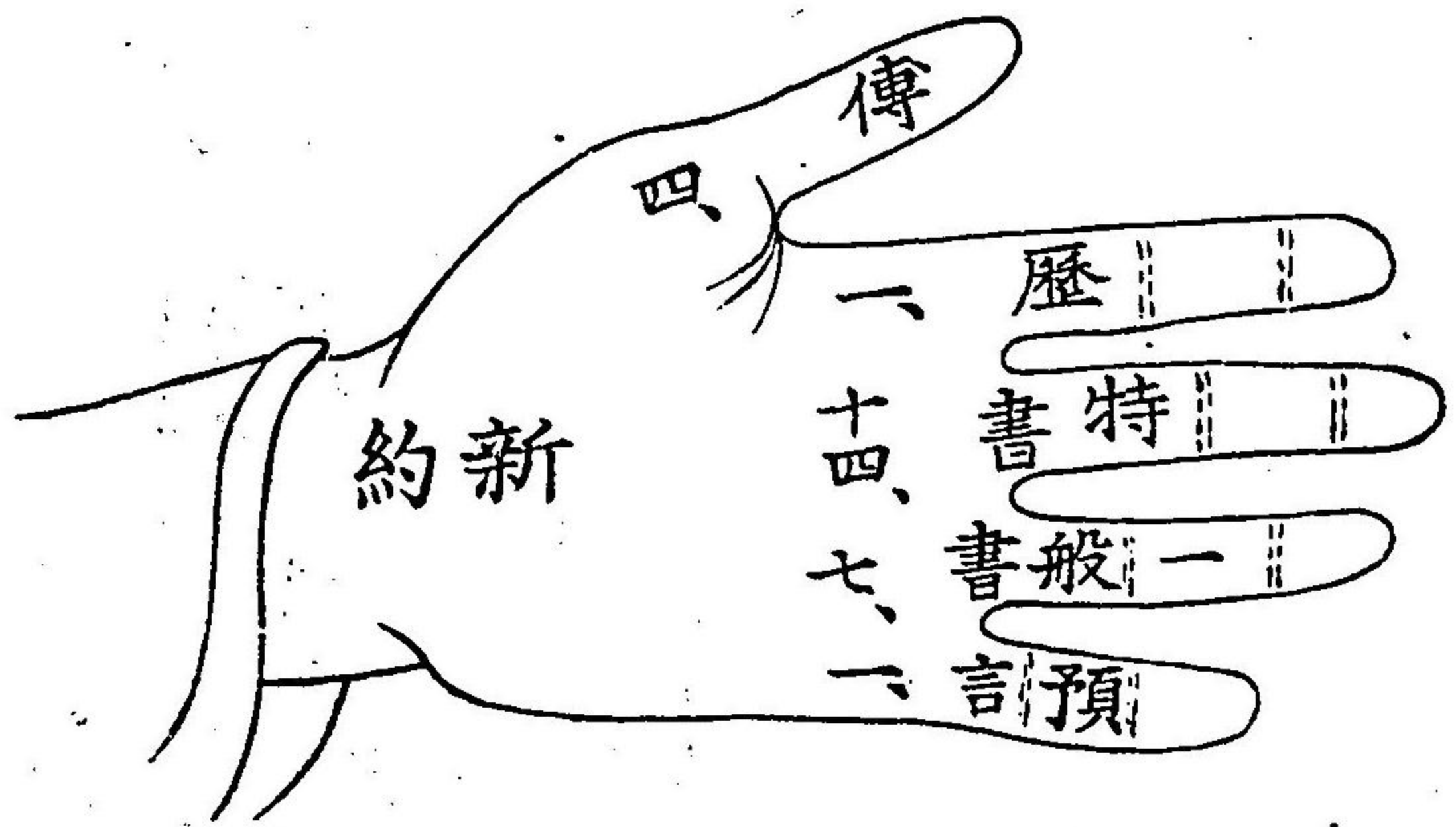
八

傳	記	太	可	路	約
歴	徒	羅	哥	哥	提
特別	史	多	前	後	後
の書	の書	門	來	前	前
一般	の書	雅	彼	約	約
預言	の書	前	後	壹	貳
	の書	默			

パウロとすれば十四卷を記せしなり。

試問

- 1、新約全書の區分を問ふ、
- 2、傳記の書の名を舉げよ、
- 3、歴史の書の名を舉げよ、
- 4、一般の書翰の名をあげよ、
- 5、特別の書翰の名をあげよ、
- 6、預言の書の名を舉げよ、
- 7、共觀福音書の名をあげよ、
- 8、左の人々に由りて書かれたる書の名をあげよ、
馬太、馬可、路加、約翰、彼得、雅各、猶太
- 9、使徒によりて書かれたる二ツの福音書の名を舉げよ、



第貳篇 實證に關する二學課

第四章 聖書を神の言と信する八ヶ條の理由

第五章 耶蘇基督を神の子と信する八ヶ條の理由

第四章 聖書を神の言と信する八ヶ條の理由

希伯來書一〇一二を見るに聖書は神の默示に依る言葉なるを主張す。聖書は「新く主云ひ給ふ」或は「誠に爾曹に告げんと云ふが如き言語に満つ。是等の言語及び主張が神より出でしものたるを信する數多の理由あり。左に多くの人を満足せしむるに充分なりし理由を擧ぐ。

其一、人生の必要に應ずるが爲め。

如何なる状態又は場合に於ても、人聖書に行きて其處に援助を見出すを得。聖書は全く人類の經驗に符合す。

其二、其驚く可き一致あるが爲め。

此書は時日習慣教育言語等甚しく異りたる四十の人に由りて書れたり。時の隔絶書法書式の相違あるに係らず聖書全體が讀者に一致の感を與ふるにより、若し全體より一卷たりとも失はるゝに於ては、吾人は甚しき欠乏を感ずるに至らんや必せり。

其三、凡ての書籍に卓越するが爲め。

世に聖書の如く多方面の人々に廣く熟讀せらるゝものはあらず。世に其時代を過ぎて其價値を落さざる書は蓋し稀なり。

然るに聖書は世界最古の書籍なれども凡ての時代に於て讀者に新らしき興味を以て迎へられる。こは其の永遠に新なる問題を論ずるものあるを示すものと云ふべし。實に聖書は不滅の書なり。英語改正譯の翻譯成りし時、日刊新聞が新約全書全部を其定刊新聞紙上に載せて世に公にしたるに四十八時間内に二百五拾萬卷の販賣を見たり。實に聖書は亡ぼすべからざるものなり。

其四、世界に及ぼす感化の偉大なるが爲め。

「其實に依りて木を知るべし」とは判斷の最も慥かなる基礎なり。世界に自由の美

風吹き、文明の清き花咲き、國榮え人樂しむ國々と、然らざる國々との間に境界線を引きて見よ、必ず基督教を信する國と、僅かに信せらるゝか又は其感化の及ばざる國とを區別するに至らん。聖書の行く所は家庭を幸福ならしめ、婦人の位置を高め、幼兒を清め、人に自由を興ふ。

其五、聖書を受納せし人々の性格に由り。

諸般の事業が單に是に關與する人々の品性の故に由りて蔑視さる事屢々あり。吾人の間に聖書を信じ、是に従つて生活せんと勵むるものは如何なる人々か。又聖書に反抗する人々は如何、其何れがより善にして世と人とを益するか。是を區別するに困難ならざるべし。

其六、救の道を示すが爲め。

此書は我れ救はれん爲めには何を爲す可きかとの靈魂の最重大なる質問に對する答案なり。之によりて智者も愚者も等しく心に平和と満足とを感ず。神、基督、罪人救ひ、正義の如き高尚なる題目を論ずる書は世にあらず、而して斯る題目を講究するは此聖書なり。

其七、何等かの助けなくして人力のみにては聖書を作る能はざるが爲め。

アルフレッド、エム、ハツガードの斯く云へるは宜べなり。我は人薔薇を造る能はず、又夕日の沈み行く美しき空を畫く能はざるを知る、その如く人自らの力のみにては聖書を作る能はず。是儘かにかの花及び天の如く神の働を示すこと明かなり。

其八、聖者となるものは聖書を益々愛撫す。

吾人は發達するに隨ひ一時吾人の助けと成りしものを超越す。吾人は學校書物又時としては友人を超越す。併し聖書を超越せしものなし、或者は聖書の外に發達すれども、聖書にありて聖書に超越せしものあらず。大なる聖者は最も熱心に聖書を信じ且つ研究する人なり、彼等は神聖に趣くに從ひ、聖書を益々愛するものとなる。若し聖書が人の製作物ならば儘かに遠き以前に是に超越し、又は卒業せしものもあらん世に聖書以外に人の超越せざりし書ありや。

試問

1、聖書を神の言と信する五ヶ條の理由を挙げよ。

第五章 基督耶穌を神の子と信する八ヶ條の理由

黑板練習

1. 必要に應ず	5. 受納者の性格
2. 驚く可き一致	6. 救の道を示す
3. 凡ての書に卓越す	7. 人の力のみならず
4. 感化力の偉大	8. 聖書者書を益

由理の條ヶ八るす信と言の神を書聖

基督者には基督は萬のものゝ上にあり、又た萬のものゝ中にあり、彼の名は凡ての人の名に優る、彼の生涯は模範的生涯なり、彼の價値は世界よりも尊し、彼の光りは暗黒を驅逐し、其輝きは太陽よりも明かなり。

基督信者の生涯は超越的生涯なり。信者には死の宣告なし、然り、信者の爲めには死も亦より善き生涯に入るの門なり、耶穌曰く、我は甦りなり、生命なり、我を信するものは死ぬるとも生く可し、凡て生きて我を信するものは決して死ぬることあらじと。

我は耶穌基督は神の子なりと信す。

其一、我は聖書を信す、聖書は彼を神の子なりと宣するが爲め。

聖書中より基督を取除かば天體より太陽を取除くが如し。

太一〇廿一、可一〇一、三〇十一、徒十三〇卅三、詩二〇七、賽五十三〇三、約三〇三十一、太八〇二十九、太三〇十七、多二〇十三、路一〇三十五、徒五〇三十一。

其二、預言に應ふが爲め。

舊約のメシヤ、受膏者たる教主、神の子たるの預言に應へり、左に對照せる聖句に注意せよ。

賽七〇十四、太一〇二十二、二十三、何十一〇一、太二〇十五、耶三十一〇十五、太二〇十六、一十八、賽四十〇三、太三〇三、賽五十三〇四、一六、十二、太二十〇二十八、米五〇二路二〇廿七、廿八、亞十三〇七、太廿六〇五十六、賽五十三〇七、太廿六〇六十三、二十七〇十二、賽五十二〇十四、五十三〇三、約十九〇五、詩廿二〇十六、約十九〇十八、二十〇廿五、詩廿二〇十八、太廿七〇三十五、賽五十三〇十二、可十五〇廿八、賽五十三〇九、太廿七〇五十七、一六十、詩十六〇十、徒二〇三十一。

其三、耶穌は凡ての人類に卓越するが爲め。

左の大なる自證の語に注意せよ。

「我は善き牧者なり。」

約十〇十一、

「我は道なり。」

約十四〇六、

「我は眞なり。」

約十四〇六、

「我は生命なり。」

約十四〇六、

「我は眞の葡萄の樹なり。」

約十五〇一、

「我は輝ける曙の明星なり。」

黙二十二〇十六、

「我は生命のパンなり。」

約六〇三十五、

「我は耶穌なり。」

徒廿六〇十五、太一〇廿一、

「我は甦りなり。」

約十一〇廿五、

其四、何人も彼を罪ありと成す能はざるが爲め。

約八〇四十六、彼は吾人の會ふべき凡ての誘惑に會ひたれども、一點の罪跡なし

來四〇十五、可一〇二十四、約八〇四十六、彼前一〇十九、廿〇廿二、約壹三〇五。

其五、その時代の人に與へたる印象に由り。

約七〇四十六、約三〇二、太七〇二十九、可一〇廿二。

其六、彼の敵さへも彼の主張を誠なりと宣言せし爲め。

ピラト曰く「我は此人に罪あるを見ず」と、(路廿三〇四、約十八〇三十八)

ピラトの妻曰く「此義しき人に觸ること勿れ」と、(太廿七〇十九)

コダ曰く「無幸の血を付し我は罪を犯しぬ」と、(太廿七〇四)

汚れたる靈曰く「我汝は誰なるかを知る、即ち神の聖なる者なり」と、(可一〇廿四)

其七、世に及ぼしたる彼の教訓と彼の生涯との結果は彼を神の子と云ふの外なき

が爲め

一つの假設の物語りが二十世紀間最大なる思想を鼓吹し、變化して最高尙の模

型的生命となれりと云は、最大虚言と謂はざるを得ざるなり凡て人類の歴史

は基督を中心として活動す。

其八、彼は甦りたる救ひ主なるが爲め

是れ基督教の中樞なり、此眞理を繞りて神の自餘の眞理は廻轉す、(太廿八〇六、哥

黑板練習

耶穌基督を神の子と信する理由

- 一、聖書は彼を神の子と宣言す、
- 二、預言に應ふ
- 三、凡ての人に卓越す、
- 四、何人も彼を罪ありとなす能はず、
- 五、其時代の人に與へたる印象、
- 六、敵も彼の主張を是認せり、
- 七、彼の教訓と生涯に由り神の子といふの外なし、
- 八、甦りたる救主なり、

試問

1、耶穌は基督にして神の子と信する五ヶ條の理由を擧げよ、

第三篇 舊約全書の歴史に關する六學課

第六章 列傳としての舊約歴史(其二)

第七章 列傳としての舊約歴史(其二)

第八章 各時代の舊約歴史(其二)

第九章 各時代の舊約歴史(其二)

第十章 各時代の舊約歴史(其三)

第十一章 舊約歴史の復習

第六章 列傳としての舊約歴史

余は凡ての人が舊約歴史の出來事を順序よく記憶すべき爲め何等かの方法を案出すべき必要を感じる所なりと確信す。

此章の中には舊約歴史の出來事の順序に關する疑問を決せんが爲めに、舊約歴史中にて彼等が生存の順序に従つて、十六人を學ばんと欲す。是れ舊約歴史の「いろは」とも云ふべし、此十六の代表的人物と共に關係せる人々の歴史は開闢より舊約の終りに至るまでの凡ての史話を連結すべし。

十六人の代表的人物とは、アダム、ノア、アブラハム、ヨセフ、モーゼ、ヨシユア、ギデオ、サムエル、サウル、ダビデ、ソロモン、エリア、イザヤ、エレミヤ、ダニエル、ネヘミヤ、ナリ。舊約の史話は恐らく是等十六の名によりて回想し得ん。

其一、アダム……創世、人類、罪、贖罪の由来は悉くアダムに關係す。

彼と共に吾人はエバ、カイン、アベル等に連想す。エバは第一の婦人、カインは第一の殺人者にしてアベルは第一の殉教者なり。

其二、ノア……第一の罪は無数の罪惡を誘起したりき聖き記録の告ぐる所に依れば、人類は罪惡に満つるに至りしを以て、神は敬神者以外の人類を絶滅すべきの必要を認め給ひぬ。洪水前に世に悔改を促せし事、方舟の建造、洪水、洪水後の世の再殖は悉くノアに關係す。此處に聯想さるべき人々は彼の子たるセム、ハム、ヤベテの三人なり。

其三、アブラハム……洪水後世界に人類が再び繁殖せし後に人民は全世界に散布するに至れり。此散布はバベル(創十一〇—九)にて行はれたり。ノアに次ぐ歴史上の人物はアブラハムなり。神は其神旨をより完全に世界に告げんが爲め、特に一民族を選抜せんとし給へり。アブラハムは此民族の始祖たらんが爲め、神に召されたり。彼と共に吾人はロト、イサク、ヤコブを聯想す。ロトはアブラハムの甥、イサクは彼の子にして神より燔祭として捧ぐべくアブラハムが命せられしものなり。

其四、ヨセフ……イスラエル民族の埃及に寄寓及び壓制等の凡ての事はヤコブの十

二人の子の一人なるヨセフに關係す。此處に聯想すべき人々はルベン、バロ、ベニヤミンなり。ルベンは彼の最長兄なり。バロは埃及の主權者(此所のバロはラメセス二世。即ち壓制のバロ王を指す)なり。ベニヤミンはヨセフの弟なり。

其五、モーセ……モーセの生れたるは埃及に於て壓制を受けし時なり。イスラエルをしてバロの壓制の下より遁れ出でしめし者はモーセなり。吾人はエテロ、アロン、ナダブを聯想す。エテロはモーゼの外舅なり。アロンは彼の兄、ナダブはアロンの子にしてエホバに異火を捧げて天誅を受けし者なり。

アダム、セツ、エノス、カイナン、マハラレル、ヤレド、エノク、メトセラ、レメク、ノア、セム、アルパクサデ、サラ、エベル、ベレガ、リウ、セルグ、ナホル、テラ、アブラハム。

アブラハム以下の舊約の系圖を検ぶるは比較的容易なり。右圖はアブラハムが

何處に屬するやを示す。

第六、ヨシユア……モーセがイスラエルをカナンの地に導き入るの夕べ死したると
きヨシアは直ちに立ちて彼の事業を受継ぎ、イスラエルを率ゐてヨルダン河を
渡りエリコ城を抜き、カナンの地にイスラエルの殖民事業を助けたり。吾人はカ
ルブ、アカン、エレアザルを聯想す。カルブはモーセがカナンの地を偵察せしめん
として差遣したる十二斥候の一人なり。聖書は彼を稱して全く神に従ふたる者
といふ。アカンは金の楔を盗みしものなり。エレアザルはアロンの子にて父の後
繼者として祭司長たり。

其七、ギデオンはヨシユアの死したる後吾人の士師時代と稱する時の、
十五士師中最偉大の人物なり。吾人は此處にサムソン、デボラ、ルツを聯想す。サ
ムソンは驚くべき體力を有せし人。デボラは婦人の士師たり。他の士師は悉く男子
なり。ルツはナオミの嫁にして救世主の祖先なり。

其八、サムエル……十五士師の最後の士師なり。吾人は此處にハンナ、エリ、ヨエルを聯
想す。ハンナはサムエルの母、エリは祭司の長にして亦最終より第二の士師たり。

ヨエルはサムエルの長子なり。

黑板練習

此章に於て大切なるは最も容易に暗誦するを學ぶにあり。是れ一見要用にあら
ざるが如く見ゆれども、實際甚だ大切なる事は、進むに従つて知るに至らん。全組は
共に此八人の名を暗誦すべし。

八個の人物、ア、ノ、ア、ヨ、モ、ヨ、ギ、サ

試問

- 1、舊約歴史中八人の代表的人物の名を、アダムよりサムエルに至るまで順序を逐
ふて擧げよ。
- 2、アダムと共に如何なる三人の人物を連想するか？
- 3、ノアと共に如何なる異大なる事件を連想するか？
- 4、バベルに於て如何なる事件ありしか？
- 5、ヨセフ其兄弟等に賣られし時に何國へ連れ行かれしか？

- 6、ヨセフの父、長兄、末弟の名を問ふ？
- 7、モーセは如何なる國に生れしか？
- 8、エテロは如何なる人か、アロンは如何なる人か？
- 9、モーセの後継者は誰か、彼は如何なる大業を成せしか？
- 10、ヨシユアの死後如何なる時代となりしか？
- 11、幾人の士師ありしか？
- 12、最終の士師は誰か？

第七章 列傳としての舊約の歴史(結)

此章に於て吾人は舊約歴史の十六の代表的人物と共に關係せる人物の後半を學ぶ事と成れり。

是等の十六の人物を容易に暗誦し得るに至る迄暗記せよ。關係せる三人の人物は今は暗記するを要せず。兎に角生徒の必要の時に、彼等十六人と是れに關係せる人物とを連絡し得るに至る迄習得し置くべし。例へばロトの名が出づれば直ちに

アブラハムと連絡すべく、アカンを指せばヨシアと連絡すべし。

其一、サウル……前章に於て吾人が學びたる八個の代表的人物の最終のものたりしサムエルがユダヤ人の第一の王として油をそゝぎしはサウルなり。サウルと共に吾人はキシ、ヨナタン、アブネルを連想す。キシはサウルの父、ヨナタンはサウルの長子にしてダビデの友人たり、アブネルはサウルの從弟にて彼の軍隊の長なり。

其二、ダビテ……ユダヤ人の第二の王はダビデなり、彼と共に吾人はゴリアテ、ナタン、アブサロムを連想す。ゴリアテはダビデが殺せし巨人なり、ナタンはダビデを繼責せし預言者なり、アブサロムはダビデに反逆せしダビデの子なり。

其三、ソロモン……ユダヤ人の第三の王はソロモンなり、彼と共に連想するものは、シバの女王とレハベヤム、ヤラベヤムなり。シバの女王はソロモンに難問を問はんとして遠國より來りたる女王なり。レハベヤムはソロモンの子にして南朝の第一の王なり、ヤラベヤムは北朝の第一の王なり。南朝即ちユダの王國は南部を占め、北朝即ちイスラエルは北部なり。

其四、エリヤ……シロモン王の死後ユダヤ人の兩王國に大なる王あらざりし故に此時よりは預言者を中心として歴史を研究すべし。第一の偉人としてアハブ王の時世にありしエリヤを擧げん。エリヤと共に吾人はアハブ、エリシヤ、ナーマンを連想す。アハブはイスラエルの第七の王にてイゼベルの夫なり、エリシヤはエリヤの後繼者にして、ナーマンはエリシヤに癒やされんとして來りし所の癩病人なり。

其五、イザヤ……エリヤに續いて吾人は偉大なる福音の預言者イザヤを有す。北朝が捕虜となりし時に預言せしは彼なり。彼と共にヒゼキヤ、マナセ、セナケリブを連想す。ヒゼキヤは北朝が捕虜となりしときの南朝の王なりき、マナセはヒゼキヤの子にして十二才にして南朝の王位に就き、五十五年間王位にありき、セナケリブはアッシリアの王にして其大軍はエホバの怒りに由りて亡ぼされたり。

其六、エレミヤ……吾人はイザヤを思ふ時に自然他の預言者を思はざるを得ず。即其人はエレミヤにして彼は泣哭預言者と呼ばれたり。彼と共に吾人はホルダ、エホヤキン、ゼデキヤを連想す。ホルダは南朝の捕はれに就きヨシヤに告げたる女預

言者なり。エホヤキンは神の言葉を燒きたる南朝の王なり、ゼデキヤは南朝の第二十代の王にして又終りの王なり。

其七、ダニエル……エレミヤの死する前にバビロンの虜囚中の偉人が聖書歴史に加はれり、其人をダニエルとなす。彼と共にチブカドネザル、ベルシザル、クロスを連想す。ネブカドネザルはダニエルが虜となりて、バビロンに移されし時バビロン王たり。ベルシザルは悪しき王なりしを以て神が壁上に文字を書いて其の亡びを告げ給へり。クロスはユダヤ人のエルサレムに歸へる事を許るせしベルシヤの王なり。

其八、ネヘミヤ……クロス王の許しに由りユダヤ人がエルサレムに歸りたる後幾多の重要問題起れり。ネヘミヤの名は多く之れに關係す。彼はエルサレムの石垣再築の時にユダヤ人の總督たり。彼と共に吾人はゼカリヤ、エズラ、マラキを連想す。ゼカリヤは八個の異象を見たる人なり。エズラは祭司にして人民の嚮導者なり。マラキは最後の小預言者なり。

黑板練習

ア、ノ、ア、ヨ、モ、ヨ、ギ、サ、ソ、タ、ソ、エ、イ、エ、
 ダ、ネ、

試問

- 1、舊約歴史の十六の人物の名を順序を追ふて挙げよ、
- 2、サウルの父は誰か其の長子は誰か？
- 3、ユダヤ人の第一の王は誰か？
- 4、ユダヤ人の第二の王は誰か？
- 5、ユダヤ人の第三の王は誰か？
- 6、ユダヤ人の王國が分裂せし時に北部を何と呼びしか南部を何と呼びしか？
- 7、南朝の第一の王は誰か？
- 8、北朝の第一の王は誰か？
- 9、アハブ王の時に如何なる預言者がありしや？

- 10、エリヤの後継者は誰か？
- 11、福音の預言者とは誰か？
- 12、バビロンの壁上の文字を翻譯したるバビロン捕虜中の偉人は誰か？
- 13、エルサレムの再築につきユダヤ人を指揮せし總督は誰か？
- 14、エズラ、マラキは如何なる人々なりしか？

第八章 各時代の舊約歴史 最初の二時代

一、舊約書は其發展によりて至歴史を見れば最も能く了解し得べし。
 二、舊約の歴史は六期に別ち得べし。

- 一、試練、
- 二、準備、
- 三、征服、
- 四、権力、
- 五、傾勢、

六、隸屬

其一、試練時代はアダムより始まりノアにて終る。此の間の時日、年月は不詳なり。ア
ッシャーは此世の創造を紀元前四千令四年とす。然し多くの學者はアダムと基督
との間を四千年以上なりと思量す。創世紀の最初の十一節は此時代に屬するな
り。

(一)事件…此時代の中に三個の注意すべき出來事あり。

其一、此世に罪を來せし人類初めての墮落(創三〇六)

其二、世に希望を來せし贖罪の約束(創三〇十五)

其三、只神に従ひし人々のみ救はれし大洪水(創七〇十一、十二)

(二)人物…此時代に於て特に注意すべき二人の人物あり。

其一、アダム…彼と共に吾人は墮落と贖罪との約束を連想す。

其二、ノア…彼と共に吾人は大洪水を連想す。

注意 是等は十六の偉人中の二人にして、第六及び第七章に於て會得したるもの
なり、各全く暗誦し得るまで書し且學ぶを要す。舊約の歴史の凡ての事件と人物

との關係を連想すべし。

其二、準備時代はノアよりモーセの召にまで及ぶ。即ち大洪水より出埃及記までな
り。此時代の間にはアブラハムは選民の首たるべく召されたり。神は彼等を他の民
族よりも以上に愛し給ふにあらず、只彼等を通じて世を祝福せんが爲め、アブラ
ハム及び其の子孫を選び給へるなり。

(一)事件…此時代に三個の注意すべき事件あり。

其一、散亂(創十一〇九)是はカルデヤのバベルにて起りし出來事なり。

其二、父祖等の旅行(創十二〇十三〇二十〇等)此事件はアブラハム、イサク、ヤコ
ブの旅行に亘る記録なり。

其三、埃及にての經驗(創四十六〇—五十〇等)ヤコブの生涯中彼と其家族埃及
に下り四百年余其處に寄寓せり。寄寓の終りに近づきし頃、其子孫は慘酷なる
束縛を受けしが、遂にモーセの指揮の下に此國を逃るゝに至れり。

(二)人物…此時代に於ては數多の重要な人物あれど、此處に其二人を擧ぐ。

其一、アブラハム…己の家を離るゝべき命を受けし人なり(創十二〇二)

其二、ヨセフ：ヤコブ十二人の子の中最も偉大なる人なり。

黒板練習

人物……	ア. ノ.	ア. ヨ.	モ. ヨ. ギ. サ.	シ. ダ. シ.	ハ. イ. ハ.	ダ. ネ.
時代……	試.	海.				
事件……	隨. 賤. 約.	逃. 旅. 祖. 埃. 築.				

試問

1. 舊約歴史の十六の代表的人物の名を順序を誤らず挙げよ。
2. 舊約歴史の六ヶの時代を挙げよ。
3. 試練の時代は如何程の年月なりしか？
4. 此時代の三ヶの事件を挙げよ。
5. 此時代の三人物を挙げよ。
6. 準備時代の年月は如何程なりしか？
7. 此時代の三ヶの事件を挙げよ。

8. 此時代の二人物を挙げよ。

9. 左の人々各個に關係ある出來事を一ツ挙げよ。

アダム、ノア、アブラハム、ヨセフ、

第九章 各時代の舊約歴史 其二

第三、第四時代

其三、征服……征服時代はモーセの召に始まり、サウルの即位に終る。

此時代中にイスラエルはエジプトを離れ曠野を旅行し、カナンを征服し、困難を経て士師の治世を経過せり。

此處に注意すべきはモーセは準備の時代に生れ、彼の召しの後の働きは悉く征服の時代に成就せる事なり。

(一) 事件……此征服の時代に三ヶの重要な出來事あり。

其一、野に於ける經驗出十三〇以下)モーセはイスラエル人を導きて紅海を渡り荒野を過ぎ、彼等が將にカナンの地に入らんとするときネボ山にて死せり

其二、カナンの征服(書三〇以下)モーセの死後ヨシユアはイスラエル人を指揮してエリコ城を攻畧し進みてカナンを征服し其處にイスラエルの國を建てたり。

其三、士師の治世…十五人の士師中其の最も偉大なるものをテボラ、ギデオンスムソン、サムエルとす。

(二)人物…此時代には多くの英雄あり。

吾人は此處に其四人を擧ぐ。

其一、モーセ…イスラエル人をエジプトより導き出せし人なり(出三〇十)

其二、ヨシユア…モーセの後繼者にしてイスラエル人をカナンに導びきし人なり(書三〇以下)

其三、ギデオン…ギデオンは十五人の師士中最大の人なり(士七〇以下)

其四、サムエル…最終の士師なり、彼はサウルとダビデとを王として裔を沃きたり(母前十〇一、十六〇十三)

其四、權力の時代はサウルの即位を以て始まり、ソロモンの死を以て終る、此

時代の歴史は聯合王國の歴史にて満たさる。

サウルの即位は多分紀元前千〇三十七年、而してソロモンの死は紀元前九百三十七年なり(アッシュトの説に依れば或は紀元前千〇九十五年、紀元前九百七十五年)

(一)事件…此時代に三個の重要な出来あり。

其一、サウルの敗軍…サウルはベリシテ人に敗られて、ギルボアに於て死せり(母前三十一〇一—十三)

其二、神の契約の遷移…ダビデはエブス人の手よりエルサレムを攻取し其所に神の契約の櫃を移せり(母後六〇)

其三、神殿建てらる…ソロモンの治世中に莊嚴なる神殿はモリアの山上に建築せらる(王上六〇以下)神殿に就ては猶後に説く所あらんとす。

(二)人物…此時代に三人の偉人あり。

一、サウル…聯合王國の第一の王なり。

二、ダビデ…聯合王國の第二の王なり。

三、ソロモン……聯合王國の第三の王なり。

黑板練習

人物	ア.ノ.	ア.ヨ.	モ.ヨ.ギ.サ.	サ.ダ.ソ.	エ.イ.エ.ダ.ネ.
時代	試	奪	征	權	
事件	隨.賊	法.散.旅.祖.埃.經.	荒.經.カ.ナン.征.士.治.	サ.ソ.ル.敗.契.移.神.建.	

試問

1. 十六人の代表的人物を順序正しく挙げよ。
2. 舊約歴史の六時代をあげよ。
3. 征服時代の期間は如何?
4. 此時代の三ヶの出来事を挙げよ。
5. 此時代の四人物の名を挙げよ。
6. 権力の時代の期間は如何?
7. 此時代の三個の出来事の名を挙げよ。

8. 此時代の人物の名を挙げよ。
9. エグヤ人の連合王國の最初の三人の王は誰か?
10. 左の人々の各々に就て話せ。
モーセ、ヨシユヤ、ギオン、サムエル、サウル、ダビデ、ソロモン。

第拾章 各時代の舊約歴史 其三

其五、傾勢……傾勢の時代はソロモンの死に始まり、ダエエルの活動の時に終る。即ち王國の分裂よりバビロンの捕虜の日までに到る時なり。王國の分裂したる時はソロモンの子レハベヤムは南朝の王となり、ヤラベヤムは北朝の王となれり。北朝の王國は十九の王によりて治められ、サマリヤの陥落に至りて終れり(紀元前七百二十一年)。其時十支族はアッシリヤに捕虜として遷され、終に其踪跡を失ふ(王下十七○)。南朝の王國はカルデアに捕虜となるまで存し(紀元前五百八十七年)而してバビロンに遷さる(代下三十六○)。

(一) 時期、此時代は自然二時期に分かたる。

其一、分裂の時期は王國の分裂より北朝の終りまでなり(王上十二〇以下、王下十七〇六)

其二、衰頹の時期は北朝の終りより南朝の遷されし時までなり(王下二十四〇)

(二)人物…此時代に於ては吾人は南朝及び北朝の凡ての王を有す、其數多けれども、其大多數は必要抄し、故に此時代の歴史の中心として寧ろ預言者に就いて學ぶを可とす。此處に其三人の名を記すべし。

其一、エリヤ…アハブ王の時に住みし大預言なり(王上十七〇一以下)

其二、イザヤ…北朝が捕虜となりし時に預言せし所の福音の預言者なり。

其三、エレミヤ…南朝がバビロンに捕虜となりし時に預言せし泣哭預言者なり(耶二十一〇以下)

其六、隸屬…隸屬の時代はダニエルを以て始まり基督に至つて終る。即ちバビロンの捕虜より救世主の御降臨に及ぶ。

一、時期…此時代は自然に五つの時期に分たる。

其一、カルデアの統治…は半世紀の間繼續す。此はバビロンの捕虜に始まり紀元前五百八十七年ベルシヤの大王クロスのパビロン征服にて終る(紀元前五百三十六年)代下三十六〇二十)

其二、ベルシヤ統治…ベルシヤの所轄はクロスのパビロン征服に始まり(紀元前五百三十六年)而して亞歷山大王のベルシヤ帝國顛覆を以て終る(紀元前三百三十年)此間ユダヤ人はエルサレムへ歸る事を許され(喇一〇一以下)其所にて彼等はベルシヤ人管轄の下に自治權を與へられ居たり。

其三、ギリシヤの統治…ギリシヤの全盛時代百五十年餘間ユダヤ人はパレスチナに住めり。此時代に於て多くのユダヤ人は埃及のアレキサンデリヤに殖民するに至り、其所に新ユダヤ人の中心點を組織せり。其結果としてユダヤ人の思想はギリシヤ哲學により稍や變更せらるゝに至れり。ユダヤ人のアレキサンドリヤ殖民の最も著しき結果は舊約全書をギリシヤ語に翻譯して諸方に傳播せしめ、基督教宣傳の準備を成せし事なり。

其四、マカビヤスの自由……歴山大王の死後彼の王國は對抗せる部下の將軍等に拘據せられたり。エルサレムが埃及の勢力範圍内にある間は凡べて無事に経過したりと雖、スリアが勢力を得るに及びてユダヤ人は壓制を蒙るに至り、真正の宗教を棄却してギリシヤ的偶像教に改宗せしめられんとせり。此事はユダマカビヤスをしてユダヤ人を率ひて叛起せしむ、此舉に成功したるを以てユダヤ人は百二十五年間アスモニアン或はマカビアンと稱する貴族の下に支配せられ大なる政治的自由を樂しみたり。

其五、羅馬人の統治……ユダヤ人は遂に羅馬人に屈服するの已むなきに至れり。紀元前四十年ヘロデ大王はユダヤの王たる稱號を羅馬政府より附與せらるゝに及び、ユダヤ地方は羅馬帝國の一部と見成さるゝに至れり、然し宗教上の典祭及び儀式等に於てはユダヤ人は其自由を許されたり。基督の生れ給ひし時王たりしヘロデ(太二〇一—十八)は此ヘロデ大王なり、斯くして吾人は新約と舊約の歴史の關係を知るべし。

(二)人物……上に挙げし人物の外に此時代に五人の人物あり。

- 其一、ダニエル……異國に於て堅く正義を守りて生活せし人なり。
- 其二、ニヘミヤ……エルサレムの石垣の再築を指揮せしユダヤの知事なり。
- 其三、ゼカリヤ……ゼカリヤは八ツの異象を見たる人なり。
- 其四、エヅラ……ニヘミヤの同勞者の中最も勳功ある學者なり。
- 其五、マラキ……小豫言者の最後の人なり。

黑板練習

年 代	事 件	時 代	人 物
2348	洪水、贖約、墮落	試練	ア、ノ、
1491	埃、經、祖、旅、散、亂	準備	ア、ヨ、
1037	士、力、野、師、征、經、服	征 服	モ、ヨ、ギ、サ
937	殿、櫃、再、選、敗、力	權 力	ソ、ダ、ソ
587	哀、頽、分、裂、勢	傾 勢	エ、イ、エ
	羅、マ、自、由、統、治、統、治、統、治	隸 屬	ダ、ネ

右はアダムより基督までの歴史の概略を示す

舊約歴史を記憶する八ヶの年代。

洪水、紀元前二千三百四十八年(アツシヤ)

アブラハムの召、同千九百二十一年(アツシヤ)

埃及より拯ひ出さる。同千四百九十一年(アツシヤ)

サウルの即位、同千〇九十五年(アツシヤ)或は千〇三十七年。

王國の分裂、同九百七拾五年(アツシヤ)或は九百三十七年。

サマリアの陥落、同七百貳拾一年。

バビロンへ捕虜、同五百八十七年。

捕虜より歸國、同五百三十六年。

試問

- 1、舊約歴史中の代表的十六人物を順序を誤らず名を挙げよ。
- 2、舊約歴史の六時代を挙げよ。
- 3、傾勢の時代の年間は如何?

4、此章の中の二時期を云へ。

5、此章の中の三人物の名をあげよ。

6、隸屬の時代の期間は如何?

7、此章の中の五ヶの時期をあげよ。

8、此時代の五人の人物の名を指せよ。

9、左に記するものゝ年代を明らかにせよ。洪水、アブラハムの召、埃及より拯出、サウ

ルの即位、王國の分裂、サマリアの陥落、バビロン捕虜、捕虜より歸國。

10、クロス、アレキサンデル大王、エダ、マカビヤス、ヘロデ大王とは誰れか?

11、馬太傳二〇一のヘロデとヘロデ大王とは如何なる關係ありや。

第拾壹章 舊約全書歴史の復習

復習に就ては巻主にある試問を用ひよ。初めの八拾九問を丁寧に幾度も復習せしめよ。殊に第三十一問より第八十九問までを包括して習へ。もし凡て此練習質問に答へ得ば、連続せる試験に及第することを疑ひ無し。

新約歴史の表 アダムより基督まで

人時	物代	第一		第二		第三		第四		第五		第六				
		ア 試	ノ 練	ア 準	モ 備	サ 征	ヨ 野	サ 服	権 一	力 三	ユ 二	ユ 一	グ 二	ホ 五		
事	件	一墮罪の約束落	二洗罪の約束水	一散祖旅行	二父祖及の經驗	一野の經驗	二カナン征服	一サウル敗軍	二權遷る	三神殿建築	二裁類	一カルデア統治	二バビロン統治	三マカベヤ統治	四カビラス自由	五羅馬統治
制	度	祭	壇	集	會	業	屋	神	殿	會	堂	族	民	ヤ	グ	ユ
年	代	二三四八	一四九一	又二〇九五	又二〇九五	九三	三七五	八七	五	五	八七	五	八七	五	八七	五
時	期	ア ダ ム	キ リ ス ト	キ リ ス ト	キ リ ス ト	キ リ ス ト	キ リ ス ト	キ リ ス ト	キ リ ス ト	キ リ ス ト	キ リ ス ト	キ リ ス ト	キ リ ス ト	キ リ ス ト	キ リ ス ト	キ リ ス ト

注意十六の人物六個の時代及び各時代の異りたる事件及び時期五個の年代と共に容易く暗誦し得るまで此表を復習せよ。
 此表の應用により多くの練習質問に答へ得べし。
 第十四章を學びたる後ち此表に歸り時期の部を充たし第廿三、廿四、廿五章を學びたる後制度の部を充たすべし。

第四篇 新約歴史研究 第六章

- 第拾貳章 時代に基ける基督の傳研究
- 第拾參章 時代に基ける基督の傳研究(結)
- 第拾四章 教會の初期
- 第拾五章 時代に基けるパウロ傳の研究
- 第拾六章 時期に基ける聖書歴史の研究
- 第拾七章 新約歴史の復習

第拾貳章 時代に就ての基督傳研究

新約歴史は自然三區分に歸す。

一、基督の生涯、

二、教會の始期、

三、ポウロの生涯、

第一は紀元前四年より紀元三十年に及ぶ。

第二は紀元三十年より三十七年に及ぶ。

第三は紀元三十七年より六十七年に及ぶ。

一、基督の生涯、

基督の生涯は恐らくは七時代に分るべし。

即ち準備第一年、第二年、第三年、最後の三ヶ月、最後の週間、及び四十日なり。

(一) 準備

準備の時代は基督の誕生より彼の傳道の始めに及ぶ。

此時代に五個の重要な事件あり、

其一、誕生、耶穌はヘロデ王の時ユダヤのベツレヘムに於て生る(太二〇一)

其二、避難、耶穌は生るゝや間もなく神の命によりヘロデの手より埃及に遁る

(太二〇十三—十五)

其三、歸國、ヘロデの死後耶穌はナザレに歸り、年大凡そ三十に至るまで同所に止まれり(太二〇十九、—二十三、路二〇三十九)

其四、バプテマス、耶穌年大凡そ三十の時バプテマスのヨハネはヨルダン河にてバプテマスを施しつゝ、ありしが、耶穌も彼の許にバプテマスを受くる爲め集りたるものゝ中に在りき(太三〇十三—十七、可一〇九—十一、路三〇二—二三)

其五、誘惑、基督はバプテスマを受くるや直ちに野に導かれ往き其所にて試みられたり(太四〇一—十一、可一〇十二、十三、路四〇一—十三)

(二) 第一年……基督の傳道の第一年は彼の生涯の第二時代なり。普通此年を不明の年といふ、其の時に起れる五個の事件を擧ぐ。

其一、第一の奇蹟……ガリラヤのカナにて基督は第一奇蹟を行ひ、水を葡萄酒に變はらしめたり(約二〇一—十二)

其二、第一の宮潔め……エルサレムの殿を潔めたりしは此時代中の出来事なり而して基督が十字架に就く前の月曜に爲し給へる宮潔めも此同じ神殿に起れるものなり(約二〇十三—二十五、太二十一〇—十二—十七)

其三、ニコデモ……新約に於て能く知られたる人即ち夜耶蘇に來りて「ラビ、我等爾は神より來りし師なりと知る、そは神もし人と偕ならずば、爾が行せる此休徵は人これを行こと能はざれば也」と云ひし人なり(約三〇—二)
基督の説教の記録せられたるものはニコデモとの談話を第一とす(約三〇一—二十一)

其四、サマリヤの婦人……基督は永生に關してヤコブの井戸の側にてサマリヤの婦人と語れり(約四〇一—四十二)

其五、貴人の子……基督はその居る所に行かずして貴人の子を癒せり(約四〇四—十三—五十四)

(三) 第二年……基督の生涯の第三時代は傳道の第二年なり、此の年は屢々聲名の年と稱へらる。基督の傳道の最初の年の事件に就ては吾人は約翰の記録に由る、第二年の事件に就ては、其觀福音書を参照せざるを得ず、而して第二年の記録は前年よりも多し、其内五個の事件を擧げん。

其一、漁夫の召……ガリラヤ湖畔にて基督は或る弟子等を人を漁るものとして召し給へり(太四〇十八—二十二、可一〇十四—二十、路五〇一—十二)

其二、山上の垂訓……此垂訓は馬太傳五章、六章、七章に分ち詳細に掲げられたり。

其三、寡婦の子……基督はナインの郊外にて寡婦の子を死より甦らせたり(路七〇—十一—十七)

其四、湖畔の譬喩……ガリラヤの湖の邊カペナウンに近き所にて基督は八個の譬喩を語れり(太十三〇—五十三、可四〇—三十四、路八〇—十五)

其五、ヤイロの女……基督はカペナウンの邑に於てヤイロの女を死より甦らせたり(太九〇—十八—二十六、可五〇—二十一—四十三、路八〇—四十一—五十六)

黑板の練習

準備	第一年	第二年
誕生 避難 歸國 パプテスマ 誘惑	第一奇蹟 第一宮潔め ニコデモ サマリヤの婦人 貴人の子	漁夫の召 山上の垂訓 寡婦の子 湖畔の譬喩 ヤイロの女

試問

1. 新約歴史の三時代を挙げよ、
2. 各時代の年限を示せ、
3. 基督の生涯の七つの時代をあげよ、
4. 準備の時代の五事件を挙げよ、
5. 第一年の五事件を挙げよ、
6. 此年は屢々何と稱せらるゝか？

7. 第二左の五事件を挙げよ、
8. 此年は屢々何と稱へらるゝか？
9. 基督の生涯の始めの三時代の十五事件を順次に挙げよ、

第拾參章 時代に就ての基督傳研究(續)

基督傳の準備、第一年、第二年の三時代は前章に於て學びたりしが、次には第三年を學ばんとす。

(四) 第三年…此年は時としては反抗の年と稱へらる、基督の傳道の第三年に五事件あり、

其一、五千人を養ふ…ガリラヤの湖に近き所に耶蘇は五つのパンと二つの魚とを以て五千人を養ひたり、此奇蹟は凡ての福音記者によりて書れたり(太十
四〇十三—廿一、可六〇三十—四十四、路九〇十二—十七、約六〇一—十三、其二、
サイロヒニケの娘…其母の求めによりて耶蘇はサイロヒニケの婦人の娘を
癒せり(太十五〇二十一—廿八、可七〇二十四—三十)

其三、彼得の告白……聖符(太十六〇十三—二十八、可八〇二十七—九〇一、路九〇二十)に記録せられし彼得の告白の如き大切なるものは他にあらず。
其四、變貌……基督は神の子なりてふ彼得の告白の後ち間もなく、耶蘇はヘルモン山に登り、其所にては其貌變りたり(太十七〇一—十三、可九〇二—十三、路九〇二十八—三十六)

其五、善きサマリヤ人……善きサマリヤ人の譬喩は只路加の記録にのみあり(路十〇二十三—三十七)

(五)最後の三ヶ月……基督の生涯の第五時代は彼の最後の三ヶ月なり。此時代に五つの事件あり。

其一、ラザロ……基督はエルサレムに近きベタニヤに於てラザロを死より呼び起せり(約十一〇一—四十六)

其二、拾人の癩病人……耶蘇は十人の癩病人を全く癒やせり、其中只一人のみ彼に謝する爲めに歸り來れり(路十七〇十一—十九)

其三、幼兒……基督ベリヤにありし間、彼は幼兒を輕視せざるべきことを示せり、或

時耶蘇曰けるは嬰兒を容せ、我に來ることを禁むる勿れ、天國に居るものは斯の如きものなり」と(太十九〇十三—十五、路十八〇十五—十七)

其四、富める若き宰……或る時富める若き宰が永生を嗣ぐ爲めに何を爲すべきかを問はんが爲めに基督に來れり(太十九〇十六—三十、可十〇十七—三十一、路十八〇—三十)

其五、ザアカイ……此人は耶蘇を見んとして樹上に攀ぢ登りし身の丈け低き人、後耶蘇を彼の家にて饗應せり(路十九〇一—七)

(六)最後の週間……基督の生涯の第六時代は彼の傳道の最後の週間なり。此時代に五個の事件現はる。

其一、マリヤは主に膏を沃ぐ……土曜日にマリヤ主に膏を沃ぐ(太廿六〇六—十三、可十四〇三—九、約十二〇一—十二)

其二、凱旋の入城……基督のエルサレムに凱旋の入城をなしたりしは、十字架につきく前の日曜なり(太廿一〇一—十一、可十一〇一—十一、路十九〇廿九—四十四、約十二〇十二—十九)

其三、十人の處女……基督は十字架に釘く前の火曜日に十人の處女の譬喩を語り(太二十五〇一—十三)

其四、樓房……エルサレムの樓房に於て耶蘇は其弟子等と會し、其所にて彼等の足を洗ひ、且つ晚餐式を創始せり(太廿六〇十七—二十九、可十四〇十二—二十五路廿二〇七—三十八、約十三〇一—一七、二十六〇)

其五、磔刑……耶蘇は紀元三十年四月七日金曜日、十字架に釘けられたり(太二十七〇三十五—五十六、可十五〇二十四—四十一、路二十三〇二十六—四十九、約十九〇十六—三十七)

(七) 四十日間……基督生涯の第七時代は復活後の四十日間なり、此四十日間に彼は十度或は十一度現はれたり、其中最も重要なる出現五度を擧げん。

其一、二人に現はる……基督は二人の弟子の旅行中、エマオ村にて現はれたり(可十六〇十二、十三、路廿四〇十三—三十五)

其二、十人に現はる……エルサレムに於て耶蘇はトマスを除くの外、使徒凡てに現はれたり(路二十四〇三十六—四十八、約二十〇十九—二十五、哥前十五〇五)

其三、七人に現はる……ガリラヤの湖に於て基督は七人に現はれたり(約十一〇一—十四)

其四、五百人に現はる……哥前十五〇六にガリラヤに於て基督は五百人以上の弟子に現はれたり……とパウロは言ふ、

其五、拾壹人に現はる……橄欖山に於て耶蘇は昇天に際し拾壹人の使徒に顯はれたり(路二十四〇五十、徒一〇一—八)

試問

1. 基督生涯の七時代を擧げよ、
2. 始めの三時代の拾五の事件を逐次に擧げよ、
3. 基督の傳道の第三年の五事件の名を擧げよ、
4. 福音記者の凡ててが書きたる大なる奇蹟は何なるか？
5. 善きサマリヤ人の譬喩は何れの福音記者に書かれたか？
6. 基督の傳記の最後の三ヶ月の五事件を擧げよ、
7. 基督を見る爲め如何なる人か樹の上に登りしか？

8. 基督傳の最後週間の五事件を挙げよ、
9. 基督は何曜日にエルサレムへ凱旋の入城をなせしか?
10. 樓房に就き何市が記念せらるゝか?
11. 復活の後四十日間の五度の出現を挙げよ、
12. 昇天の時に幾人の使徒が其場にありしか?
14. 基督生涯中の三十五事件を順次に挙げよ、

基督の生涯の表

黑板練習は此表を用ゐよ、

時	代	事	件
準備		誕生避難、歸國、バプテスマ、誘惑	
第一年(不明)		第一奇蹟、ニコデモ、第一殿潔	
第二年(聲名)		サマリヤの婦人、貴人の子、 漁夫の召、山上の垂訓、寡婦の子、 湖邊の醫、除、ヤイロの娘	
第三年(反抗)		五千人を養ふ、サイロヒロの娘、 彼得の告白、變貌、善きサマリヤ人、	

最後の三ヶ月(迫害)	ラザロ、嬰兒、富める苦き辛、十人の癩病人、 アカイ
最後の週間(苦難の週間)	マツリヤ、膏を沃ぐ、凱旋入城、十人の處女樓房、 磔刑
四十日間(復活)	二人に現はる、十人に現はる、七人に現はる、 五百人に現はる

注意、全く容易に七時代と三十五事件とを暗誦し得るまで此表を復習せよ、又教授の際は常に用ひよ、基督生涯の事件の凡べてにつき組織的に胸中に留め置く、爲めに大なる益あるが故なり、此の表をよく記憶して、是によりて練習問題の第百二十五に答へよ、

括弧内の語は其時代の性質を示したるものなり、

第拾四章 諸教會の始め

基督の昇天後彼の使徒等は橄欖山よりエルサレムに歸り其所に彼等はペンテコステの日まで滞留せり、

此章は自然二時代に分たる、

一、エルサレムに於ける教會、

二、エルサレム外の教會、

(一)エルサレムに於ける教會……吾人は此處に五事件を擧ぐ、

其一、ペンテコステ……基督は馬太傳第十六章に於て彼は教會を建つべしと言へり。

此教會は彼の死後復活昇天の後までは始まらざりしが、昇天後十日目ペンテコステの日に其門戸は開かれたり(徒二〇一—四十七)

其二、迫害……使徒等は説教を始むるや否や彼等は種々の反對に遭遇せり而して其反對は約翰の外凡べての使徒が殺さるゝまでの迫害に及べり(徒四〇一—三十六、五〇十七—四十二)

其三、偽善者……使徒行傳第四章の終の部分に於て如何に初代の信徒が其の財産を共有にせしかを學ぶ、凡ての財産は使徒に托せられ而して各人の必要に應じて分け與へられたり、此完全なる和合は偽善者に變じたる似而非信者の二人によりて破壊せられたり、二人とはアナニヤとサツゼラなり(徒五〇一—

十六)

其四、執事……弟子等の數増加し始めし時に日々の施しに洩れたる所の或る寡婦等の不平起りしを以て、此働きを爲すべく七人の執事は選舉されたり、其内ステバノ及びピリポは著名なるものなり(徒六〇一—六)

其五、ステバノ……ステバノは基督の爲に長く働かざる中に、反對に遇ひ始めたりしが、此反對は高まつて遂に彼は石にて打ち殺さるゝに至れり(徒六〇八—十五、七〇一—六)

(二)エルサレム以外の教會……初代教會の擴張に關しての多くの事件はピリポ、ペテロ、パウロ等と共に聯想せらるべし。

其一、ピリポの働き……迫害により使徒等は外國に散らされし時に、ピリポはサマリヤの市に行けり(徒八〇四—二十三)後神の命によりガザの方に行き、其所にてエテオピアの寺人を悔改めしむる器となれり(徒八〇二十六—四十一)

其二、彼得の働き……岩なる使徒と稱へらるゝ彼得は初代の教會の中心たり、此人に關係する事件多し、約翰と共にサマリヤ地方を巡廻しルッダに於てアリ

ネヤを癒し、ヨッパに於て彼は死したるダビタを呼び起せり徒八〇十四—二十五、九〇三十二—四十三然し彼得の働きに關し殊に注意すべき事件はコルネリヲを悔改せしめたる事なりカイザリヤに神を畏れ人々に慈善を施し常に祈り居たるコルネリヲと云ふ人あり彼得を通じて此人基督の弟子となれり、コルネリヲは異邦人なりし故に彼の悔改は異邦人に教會の門戸を開きたるなり(徒十〇一—四十四、十一〇一—十八註に曰く生徒は何故此章の始めに教會の始めとせず、諸教會の始めと題詞を設けたるかを了解すべし、ユダヤ人に對しては教會はペンテコステの日に生まれり然しユダヤ人以外の者の爲めには教會はコルネリヲの悔改を以て始めとす。

其三、パウロの悔改…ステパノが石にて撃ち殺さるゝ時、パウロは彼の殺されしを好しとせり、其後彼はダマスコに行き基督信徒を迫害すべく祭司の長より令狀を受けエルサレムよりダマスコに行く途中に彼は峻酷なる迫害者より撰ばれたる聖徒と變じたり(徒九、〇一—三十)

黑板練習

ペンテコステ	エルサレム以外の教會	彼得の働き
迫害者	エルサレムに於ける教會	パウロの悔改
執事	ステパノ	

試問

1. 新約歴史の三區分を挙げよ、
2. 諸教會の始めの二時代をあげよ、
3. エルサレムに於ける教會に關して五個の事件を挙げよ、
4. 初代の教會に於ける二偽善者を挙げよ、
5. 七人の執事中二人の名をあげよ、
6. ステパノは如何なる態度にて死せしか、
7. エルサレム以外に教會の擴張に關して三人の名を挙げよ、
8. コルネリヲは如何なる人なり人か、?

9. 何故彼の悔改は著るしきか?
10. パウロの悔改はし何の市より何の市に行く途中なりしか?

第拾五章 時代に於けるパウロの生涯

前章に於ては基督の昇天とパウロの悔改の間に其連鎖を與ふ吾人は大略諸教會の始め即第一にユダヤ人の教會第二に異邦人の教會の始めに就いて學びたるが、今や異邦人に基督の特別なる使者として撰ばれたる人なる使徒パウロに關する概略を學ばんとす。吾人は彼の生涯の詳細に就き知る事甚だ尠しと雖も彼は如何なる種類の生涯を送りしか、彼は如何なる人物なりしかを徵するに足る記録を存す。

パウロの生涯に於て吾人は六ケの時代を作る是等は或る時は互に重複するの感あるも、又別種のものなり。

(一) 學生たるパウロ……彼は此時代を二個の市にて費せり。

其一、タルソ……パウロはキリキヤのタルソに生れ其所に彼は其生涯の初め

の時代を費せり、凡てのユダヤ人の青年の如く彼は職業を學びたり。其業は天幕造りなり(徒二十二〇三)

其二、エルサレム……彼は少年時代にエルサレム市に行き其所にてガマリエルに依りて教育せられたり(徒二十二〇三)

(二) 迫害者たるパウロ……此處に吾人は二個の事件あるを見る。

其一、ステパノを石にて殺す……エルサレムの學生たる時にパウロはステパノを石にて撃ち殺す場に立會たり。彼が此件に就きて如何程關係あるかは吾人は知らず、然し彼は少なくともステパノの殺されしを好しとせり(徒七〇五十八、二十六〇十)

其二、ダマスコへの旅行……迫害に熱心なるパウロはエルサレムのみならず、せず、基督教徒を迫害する爲め、祭司の長より書を受けダマスコへ旅行したり(徒九〇、二二、二十二〇四、五、二十六〇十一、十二)

二)

(一) 悔改者たるパウロ……パウロは基督教徒を迫害する爲めにエルサレムよりダ

マスコに向つて旅行中彼は無慈悲なる迫害者より聖徒と變じたり。此悔改の下に左の二件を見る。

其一、途中の經驗……パウロが未だマスコに到着せざる時、主は彼に現はれ彼が迫害する所のナザレの耶穌なることを信服せしめたり(徒九〇一八—十二〇五—十一、二十六〇十二—十八)

其二、ダマスコの經驗……此所にパウロは三日間盲目となり、其終りに於て、アナニヤ彼に來り彼は主基督の名を異邦人諸王及びイスラエルの子孫にまで證すべき器として撰れたる事を彼に告げ立ちてベンテスマを受くる事を勸告せり(徒九〇九—十八、二十二〇十二—十六)

(四) 宣教師たるパウロ……

其三、第一傳道之行……アンテオケより小亞細亞を巡りてアンテオケに歸れり(徒一三〇—一五〇)

其二、第二傳道旅行……此度は唯亞細亞地方のみならず、パウロは歐羅巴にまで達せり(徒十五〇—十八)

其三、第三傳道旅行……パウロの第三傳道旅行の地方は第二旅行と同じ(徒十八二)彼は三箇の傳道旅行の間に二度、第三旅行の後に一度エルサレムに旅行せり。

(五) 著者たるパウロ

其一、諸教會に贈れる書……是等は羅馬書、前後哥林多書、加拉太書、以弗所書、腓立比書、哥羅西書、前後帖撒羅尼迦書なり。

其二、個人に贈れる書……是等は前後提摩太書、提多書、腓立門書なり。恐らくは希伯來書もパウロが書きしなるべし、其筋法はパウロ的なるが故に多く人はパウロを其記者とせり。

(六) 囚人たるパウロ、

其一、カイザリヤ……最後のエルサレム旅行に於て、パウロは逮捕せられ、カイザリアに護送され、其所にて入獄し二年間在獄せり(徒二三〇—二六〇)

其二、羅馬……パウロにカイザリヤより羅馬へ護送せられ、其所にて拘禁されしが遂にネロ帝の時殺されたり(徒二七〇—二八〇)

- | | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| 一、學生 | タル、エル | 二、迫害者 | ステ、石、旅 |
| 三、悔改者 | 途經、ダ經 | 四、傳道 | 三、旅 |
| 五、著者 | 教書、個書 | 六、囚人 | 力、口 |

試問

1. 新約歴史の三つの區分を擧げよ。
2. パウロの生涯に於ける六時代をあげよ。
3. 如何なる二市にて彼は學生たりしか？
4. パウロの悔改の狀を説け。
5. 幾度傳道旅行を爲せしか？
6. 彼が書を贈りし教會の名を擧げよ。
7. 彼が書を贈りし個人の名をあげよ。
8. 彼が囚人として繋がれし二つの市の名を擧げよ。

9. パウロは何帝の在位中に死刑に處せられしか？
 パウロ生涯の七期

- 悔改..... 紀元三十七年
- 第一傳道旅行の始め..... 紀元四十六年
- 第二傳道旅行の始め..... 紀元五十一年
- 第三傳道旅行の始め..... 同 五十四年
- エルサレムにて逮捕せられカイザリヤにて入獄..... 同 五十八年
- 羅馬へ旅行..... 同 六十年
- 死..... 同 六十七年

第拾六章 聖書各時期史

吾人は舊約歴史を六區分に、新約歴史を三區分に、基督の生涯を七時代に、諸教會の始めを二時代に、而してパウロの生涯を六時代に分てり、今や全聖書歴史を時期に分たんとす、即ち三時期なり。

其一、父祖の時期……是はアダムに始まり、シナイ山に於て律法を與へられし時を以て終となす。此間に於て禮拜の爲め設立せられたるものは祭壇なり。

其二、ユダヤ人の時期……是は律法を與へられし時に始まり、基督の死を以て終とす。此時代の間に禮拜の爲め設立せられたるもの三あり、集會の幕屋、宮殿、會堂是なり。集會の幕屋はモーセに、宮殿はソロモンに、會堂はエズラに始まりたり。

イスラエルの子孫が荒野に流浪中、彼等は禮拜の爲めに運搬の便ある家を要せり。集會の幕屋は此必要に應じたるものなり。彼等が遂にカナンに殖民の基礎を定めたる時は、禮拜の爲めに一定の建築物を持つ事を希望せり。此希望に對して宮殿は建設せられたるなり。此宮殿はバビロンの虜囚たりし時破壊せられたり。然しながらエホバを禮拜する事は囚虜の間も繼續せられ、其結果として會堂は設立せられたるなり。會堂は舊約と新約との歴史の間の、比較的靜穩の年間に存在し、基督降世の頃は諸方に散在せり。

其三、基督教徒時期……基督の生涯と働きとは新時期の基礎を据へたり、基督

教徒時期の始めに會堂は教會に變せり、吾人は今日基督教徒時期の下に生活しつゝありなり。

黑板練習

- 一、父祖の時期……
- 二、ユダヤ人の時期……幕屋、宮殿、會堂
- 三、基督教徒の時期……教會

試問

- 1、舊約歴史の六區分の名を挙げよ、
- 2、新約歴史の三區分の名を挙げよ、
- 3、聖書歴史の三時期の名をあげよ、
- 4、父祖の時期、ユダヤ人の時期、基督教徒の時期、年限をあげよ、
- 5、各時期に禮拜の爲めに制定されたるものは何々なるか？
- 6、何れの時期の下に吾人はあるか？

注意 此章は悉く新約歴史に属するものにあらず、然も性質上舊新約兩歴史を
學びたる後に來るべきものなり、故に聖書の時期は爰にて學ぶを適當とす。若
し此章が餘りに短しとせば第十七章と併せて教授するも可なり。

第拾七章 新約歴史の復習

此練習に就いては卷尾の練習問題九十より百五十三迄を用ひよ。

第五篇 聖書地理研究五章

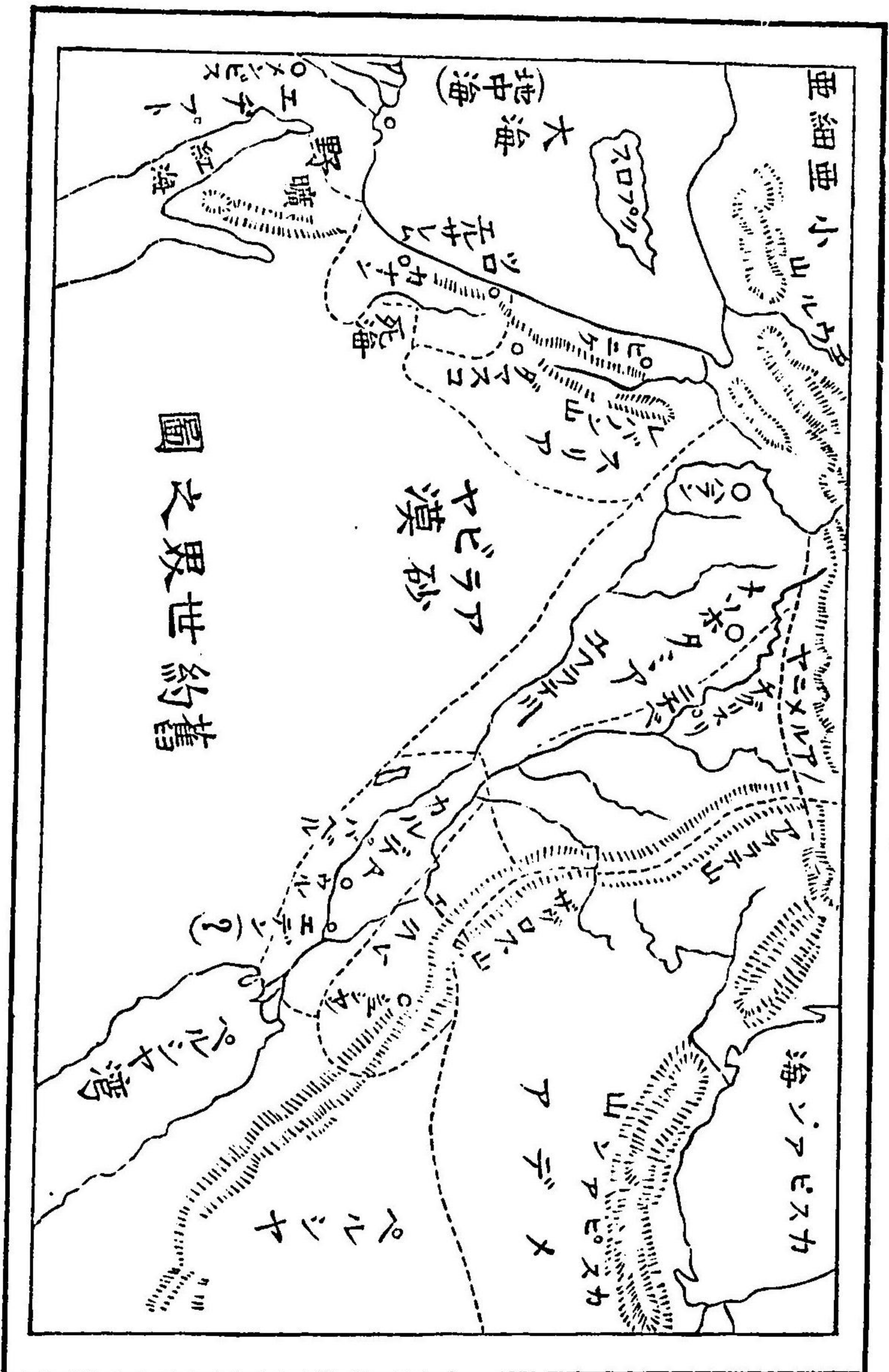
第拾八章 舊約世界

第拾九章 新約世界

第貳拾章 パルステンの地

第貳拾壹章 全聖書世界

第貳拾貳章 聖書地理復習



聖書地理復習 圖之界世約舊

第拾八章 舊約世界

舊約世界の疆域は北米合衆國の手よりも狭小なり。ナイル河よりペルシア海に至り、而して地中海の北部より裏海の南部にまで及ぶ。舊約世界は東西大凡そ一千貳百哩、南北大凡九百哩なり。其面積は殆んど壹百萬方哩に及ぶ。

第二、海…吾人は六個の海を示して、聖書の地圖を造ることを初めんとす。

其一、裏海…其一部は地圖の東北隅に見るを得。

其二、ペルシヤ海…東南隅に位す。

其三、紅海…西南にあり、此海を渡りてイスラエル民族は埃及より避難せり

(出一四〇二—三一)

其四、死海…カナンの地にあり、ヨルダン河は此海に注ぐ、(創十四〇三、申四〇四九)

其五、ガリラヤの海…死海の北にあり、(民三四〇一、書一三〇二七)此は海と

いふよりも湖と稱するを適當とす。然し昔時に於ては湖と海との區別は、近世の地理に見る如く明瞭ならざりしが故に此稱あるなり。

其六、地中海或は大海……聖書世界の西部にあり。

第三、山……舊約世界の山は左の如し。

其一、裏海山脈……此はアララテ山より起りて、裏海の沿岸に在り。

其二、ザクロス山脈……此はアララテ山より延びて、ペルシヤ灣の東岸に及ぶ。

其三、レバノン山脈……此はアララテ山より紅海に及ぶ、ヘルモン山及びシナイ山は此連山の中にあり。

其四、タウル山脈……アララテ山より發して地中海の北岸に沿ひて蟠ま

る。

第四、河

其一、ナイル……亞弗利加にあり、北流して地中海に入る(創一五〇一八、四一〇

一、出埃二〇三)

其二、ユフラテ……亞細亞にあり、其源をアララテ山に發し、略東南方に流れて

ペルシヤ灣に入る。テグリス河はアララテ山より發し、アブラハムが神の召を受けし所なるカルデアのウルより遠からざる所に於てユフラテ河に合す(創

二〇一四、一一〇三一、一五〇一八)

其三、ヨルダン……パレスチナにあり、レバノン山脈に屬せる並行せる兩山脈

の間を流れ、ガリラヤ湖を通過して死海に入る。

其五、國

其一、アルメニヤは、裏海の西にあり(王下一九〇三七)

其二、メデアはカスピアン海の南にあり(王下一七〇六)

其三、ペルシヤはメデアの南にあり(但五〇二八)

其四、メソポタミヤはユフラテとテグリス河との間にあり(創二四〇十、申二

三〇四)

其五、カルデアはメソポタミヤの東南にあり(耶五一〇二四、賽五〇一二)

其六、エラムはメデアとカルデアとの間にあり(創十〇二二、一四〇二)

其七、アッスリヤはメデアとメソポタミヤとの間にあり(王下一五〇一九、一七

〇三)

- 其八、 ビニケはカナンの北地中海の東にあり。
 - 其九、 スリヤはビニケの東にあり(母後八〇六、王上二二〇二)
 - 其十、 カナンは地中海の東南にあり(創十二〇五)
 - 其十一、 荒野はカナンと埃及との間の沙漠なり(出二三〇一八、申一〇一九)
 - 其十二、 埃及は亞弗利加の東北隅にあり(創一二〇十三、七〇二八)
- 黑板練習

<p>海</p> <p>一、 裏海 二、 ペルシヤ灣 三、 紅海 四、 カリヤ(湖) 五、 地中海</p>	<p>山脈</p> <p>一、 裏海 二、 ザグロス 三、 タウルス 四、 ノス</p>
<p>河</p> <p>一、 ナイル 二、 ユフラテ 三、 ヨルダン</p>	<p>國</p> <p>一、 ア 二、 メ 三、 ベ 四、 ソ 五、 カ 六、 エ ラル</p>
	<p>七、 ア 八、 ビ 九、 カ 十、 ナ 十一、 ア 十二、 ナ 十三、 ア 十四、 ナ 十五、 ア 十六、 ナ 十七、 ア 十八、 ナ 十九、 ア 二十、 ナ 二十一、 ア 二十二、 ナ 二十三、 ア 二十四、 ナ 二十五、 ア 二十六、 ナ 二十七、 ア 二十八、 ナ 二十九、 ア 三十、 ナ</p>



試回

- 1、舊約世界の長さ、と廣さとの概畧を擧げよ、
 - 2、四個の海の名と其位置とを示せ、
 - 3、四個の山脉の名と其位置とを示せ、
 - 4、三個の河の名と其位置とを擧げよ、
 - 5、六個の舊約の地名と位置とを擧げよ、
- 此章中に示されたる場所の或るものは必要のものにあらざれば唯記憶を確かむる爲め此試問に答へ得ば足れりとす。

第拾九章 新約世界

舊約世界の地圖の上にはエルサレムは西部に位するを見る、然れども新約世界の地圖には其の東南部に位す、而して吾人の地圖を壹哩程西方に移すの要あるなり。

(一)海……舊約世界にて吾人が學びたる海に三個を追加するの要あり。

其一、黒海……小亞細亞の北にあり、
 其二、多島海……小亞細亞とギリシヤとの間にあり(徒一六〇十一、一八〇一八、
 二〇〇十三—十五)

其三、アデリア海……ギリシヤとイタリヤとの中間にあり(徒二七〇二七)

(一) 島嶼

其一、クプロ……地中海の東北隅にあり(徒四〇三六、一三〇四)

其二、バトモス……エペソ市に近き多島海の中にあり(黙一〇九)

其三、クレネ……多島海の南地中海にあり、

其四、シ、リ……イタリヤの南にあり、

其五、メリタ(今のマルタ)……シ、リの正南にあり(徒二八〇二)

(三) 地方 (一) 歐羅巴大陸に屬するもの左の如し、

其一、テラス、

其二、マケドニヤ(徒一六〇九、二十〇一—三)

其三、イルリコ(羅一五〇一九)

其四、ギリシヤ一名アカヤ(徒一八〇一二、二十〇二)

其五、イタリヤ(徒二七〇二)

(二) 亞弗利加大陸に屬するもの左の如し、

其一、リブエ(徒二〇十)

其二、埃及(太二〇十一—十三)

(三) 小亞細亞以外の亞細亞大陸に屬するもの左の如し、

其一、ユダヤ(ユダヤ人はパレスチナを斯く呼べり)

其二、ビニケ、

其三、アラビヤ(加一〇七四)

(四) 小亞細亞地方、

其一、カリヤ、キリキヤ(徒二一〇三九、カバドキヤ(徒二〇九)

其二、リデア、ルシア、ルカオニヤ(徒一四〇六)

其三、ポント(徒一八〇二) バフラゴニヤ、ピシデヤ(徒一三〇一四) フルギヤ(徒一
 六〇六) バンフリヤ(徒一三〇一三)

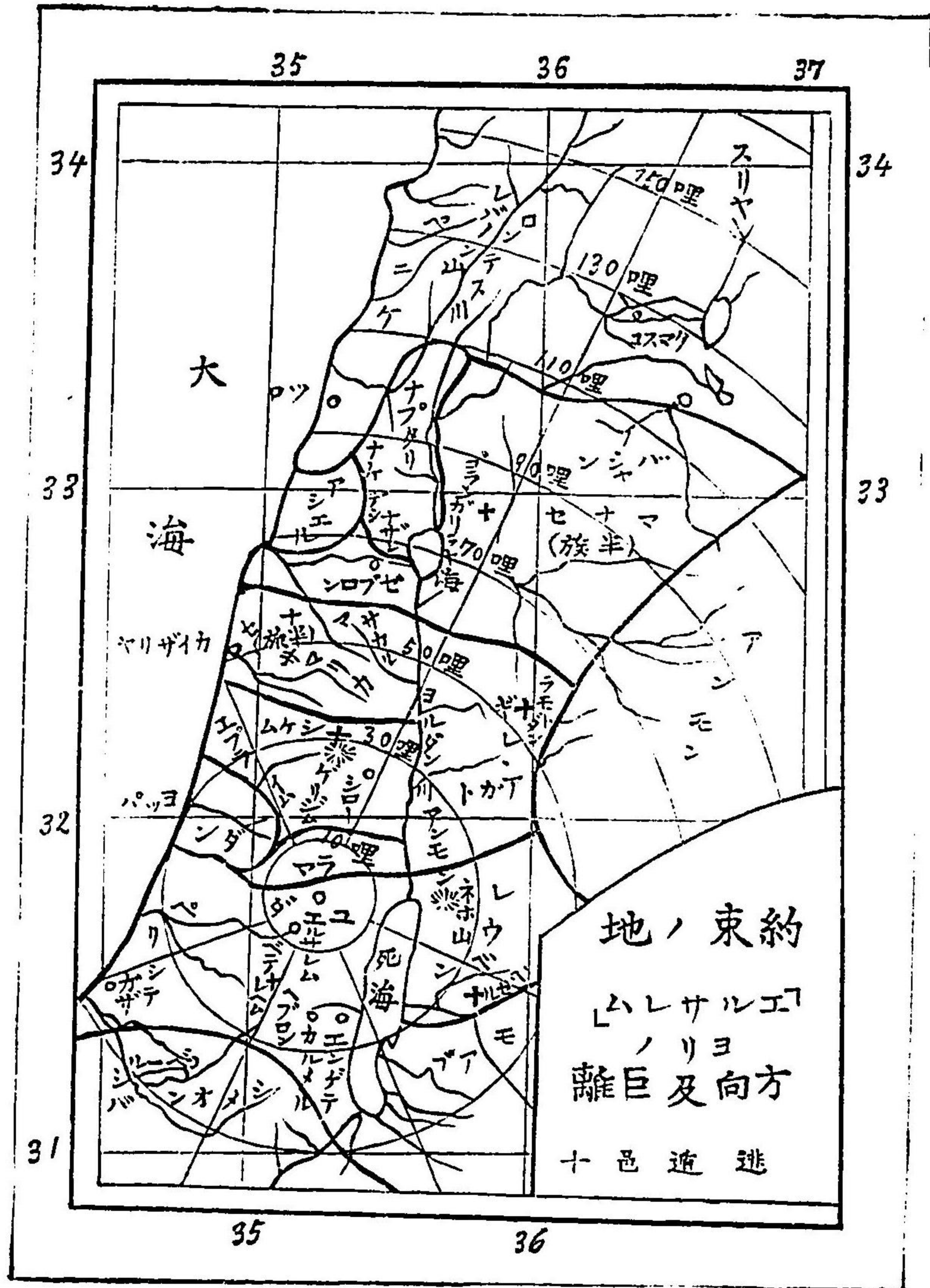
其四、ビテナヤ(彼前一〇二)ムシヤ、ガラテア、

黑板練習

海	黒海	アデリア海	多島海
亞弗	リブエ	埃及	ユダヤ
亞細	アラビヤ	ビニケ	アラト
及	バフ	バシ	パフ
行	フ	リア	リア
其他	ムシヤ	ガラテア	ビデニヤ
島嶼	クプロ	バトモ	シク
亞小亞	カリヤ	カリヤ	カリヤ
地方	カバド	キリ	カバド
行	ラ	ル	ル
歐	イタ	イタ	イタ
	マテ	マテ	マテ
	イリ	イリ	イリ
	イタ	イタ	イタ
	ルカ	ルカ	ルカ
	オニ	オニ	オニ

試問

i. 左の海的位置を問ふ、
黒海、多島海、アデリア、



2. 新約世界の五個の嶋の名を擧げよ、
3. 左の各大陸に於ける二地方を指名せよ、
 (一) 歐羅巴、(二) 亞弗利加、(三) 亞細亞、
4. 左の都會は小亞細亞何れの地方にあるの？
 (一) タルソ、(二) トロアス、(三) エベソ
5. 地中海に沿ふ小亞細亞地方の名と、多島海に沿ふ地方の名とを擧げよ、

第貳拾章 パレスチナ

(一) 名稱

其一、カナン(此語は低地といふ意味なり)……此は地中海とヨルダン河との中間にして住民は低地に住むカナン人として能く知らる(創十二〇五)

其二、イスラエル……ヨシアの征服より後著名となりし名なり。

其三、ユダヤ……此はバビロンの虜囚後に起れる政治的名稱なり、又其樞要の地方も此の名を有す(可一〇五)

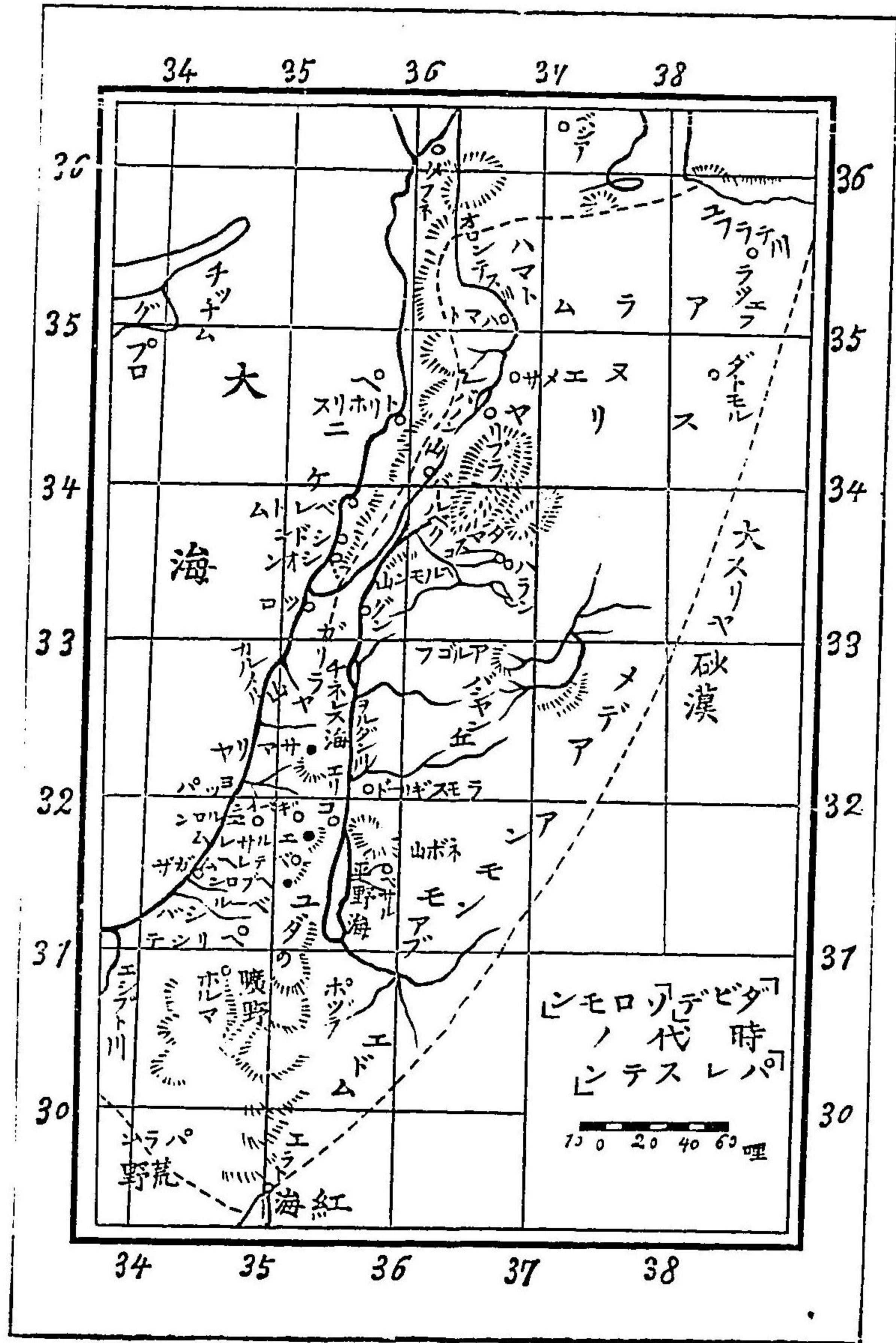
其四、ペレスチナ…基督の時代以來此名を以て知らるゝに至れり。此名はペリシテの轉訛にして曾て其他の西南の部を領せし事ありし民族の名稱なり (表一四〇二九)

(二)面積

- 其一、ペレスチナの面積はペリヤを加へて一萬二千方哩、ペリヤを除けば九千方哩とす。
- 其二、海岸…南ガザより北シドンに至るまで約百九十哩なり。
- 其三、ヨルダン河線…ヘルモン山より死海の南端まで約百八十哩なり。
- 其四、ペレスチナは其の幅二十五哩より七十哩なり。

(三)自然的區分

- 其一、海岸平野…地中海に沿ふたる平地にして廣さは八哩より二十哩の間にあり。
- 其二、山麓地方…三百尺より五百尺の山脈なり。
- 其三、山地…二千尺より二千尺の山より成る。



其四、ヨルダンの谷……ガリラヤ湖及び死海を連ぬる深き谷なり。
其五、東方の高原……ヨルダン河の東にありて、ペレヤと呼ばれる。

(四) 政治的區分、

- 其一、ユダヤ……最南の地方なり。
- 其二、サマリヤ……獨立の政治機關なく、ユダヤに附屬し、其の北に位す。
- 其三、ガリラヤ……ヨルダンの西、サマリヤの北に位す。
- 其四、ペレヤ……ペレヤはヨルダンの東、ハイロマックス河の北に位す。
- 其五、バシヤン……バシヤンはハイロマックス河の北、ヨルダン河の東に位す、普通、ピリポの分封地と稱せらる(路三〇一)

黑板練習

名稱	一、カナン
	二、イスラエル
	三、ユダヤ
	四、パレスチナ

面積	一、海岸線
	二、ヨルダン河線
	三、幅

自然的區分		政治的區分	
一、海岸	二、山麓	一、ユダヤ	二、サマリヤ
三、山地	四、ヨルダン谷	三、ガリラヤ	四、ペレヤ
五、東方の高原		五、バシヤン	

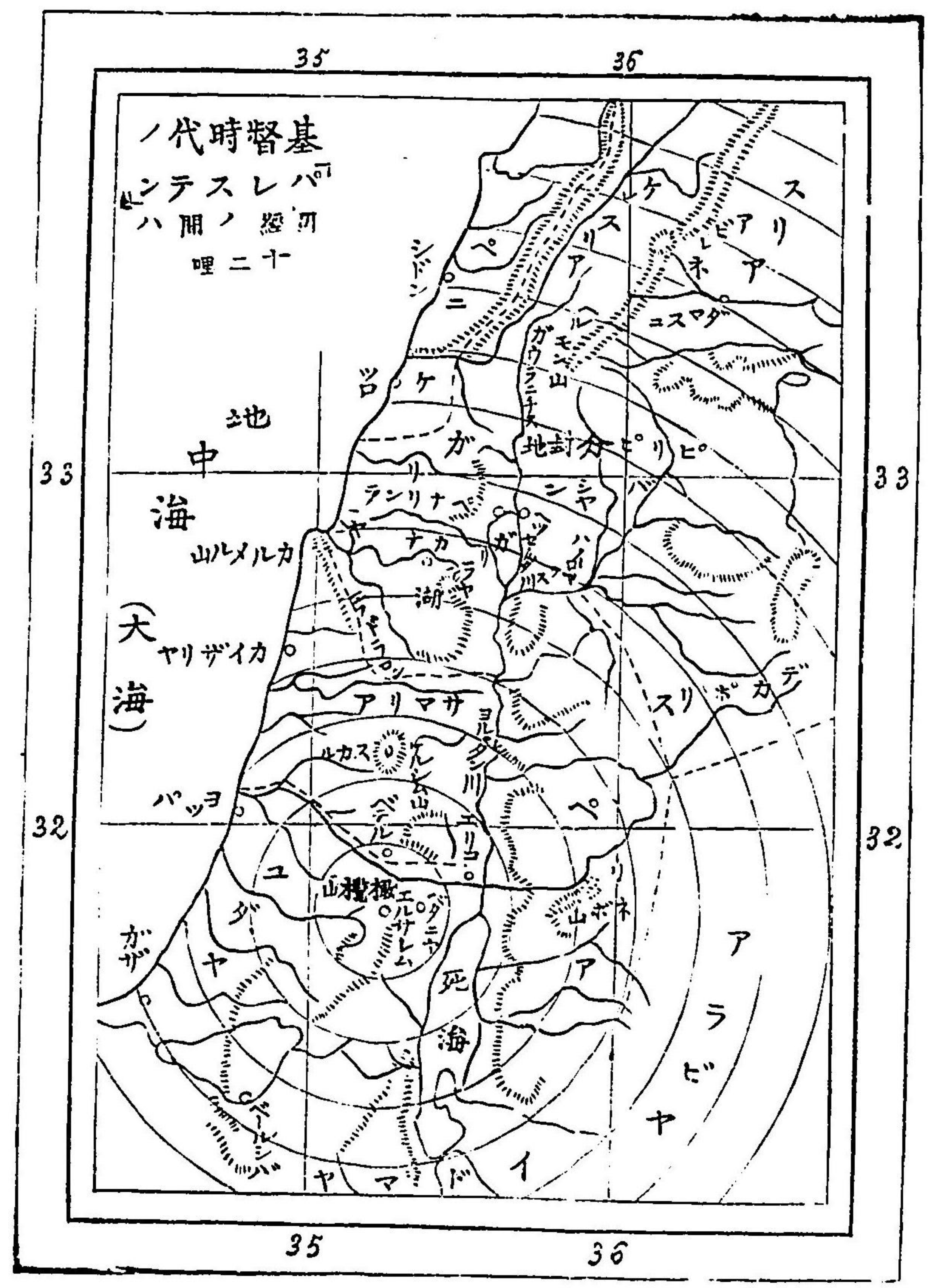
試問

1. 聖地に附せる四つの地名を挙げよ。
2. ヘルモン山より死海の南端まで幾何哩あるか？
3. パレスチナの五個の自然區分を挙げよ。
4. パレスチナの五個の政治的區分を挙げよ。

第貳拾壹章 全聖書世界

聖書地誌略

聖書の河、山、市、地の位置を教ふる時に各生徒は自身の爲めに地圖を製すべし。始めに沿岸線を引き、次に逐次其他の名稱を與へらるゝと共に其線内に書き入るべし。



し。而して第一に河河線を引かれたる時に、其が通過又は注ぐ所の湖若しくは海をも教へよ。次に市等に及ぶべし。

問、聖書中の三河を問ふ。

答、ナイル、ユフラテ、ヨルダン。

問、ナイル河に関する一事件を挙げよ。

答、モーセの誕生(出二〇一—十)

問、ユフラテ河に関する一事件を挙げよ。

答、ユダヤ人の捕虜。

問、ヨルダン河に関する一事件を挙げよ。

答、耶蘇のバプテスマ(太三〇一—一七)

問、聖書の山を指名せよ。

答、シナイ、ネボ、カルメル、ヘルモン、橄欖山。

問、シナイ山には如何なる事件が関係せしか。

答、律法を與へられたり(出二十〇以下)

問、如何なる事件がネボ山に關係せるか？

答、モーセの死(申三四〇一—七)

問、カルメル山に就き如何なる事件が關係せるか？

答、エリヤの犠牲(王上一八〇一九—三九)

問、ヘルモン山上に於て如何なる事ありしか

答、耶蘇の變貌(太一七〇二—九)

問、橄欖山上に於て如何なる事ありしか？

答、基督の昇天(徒一〇九—十二)

問、パ行の音にて初まる聖書の市の名三を挙げよ。

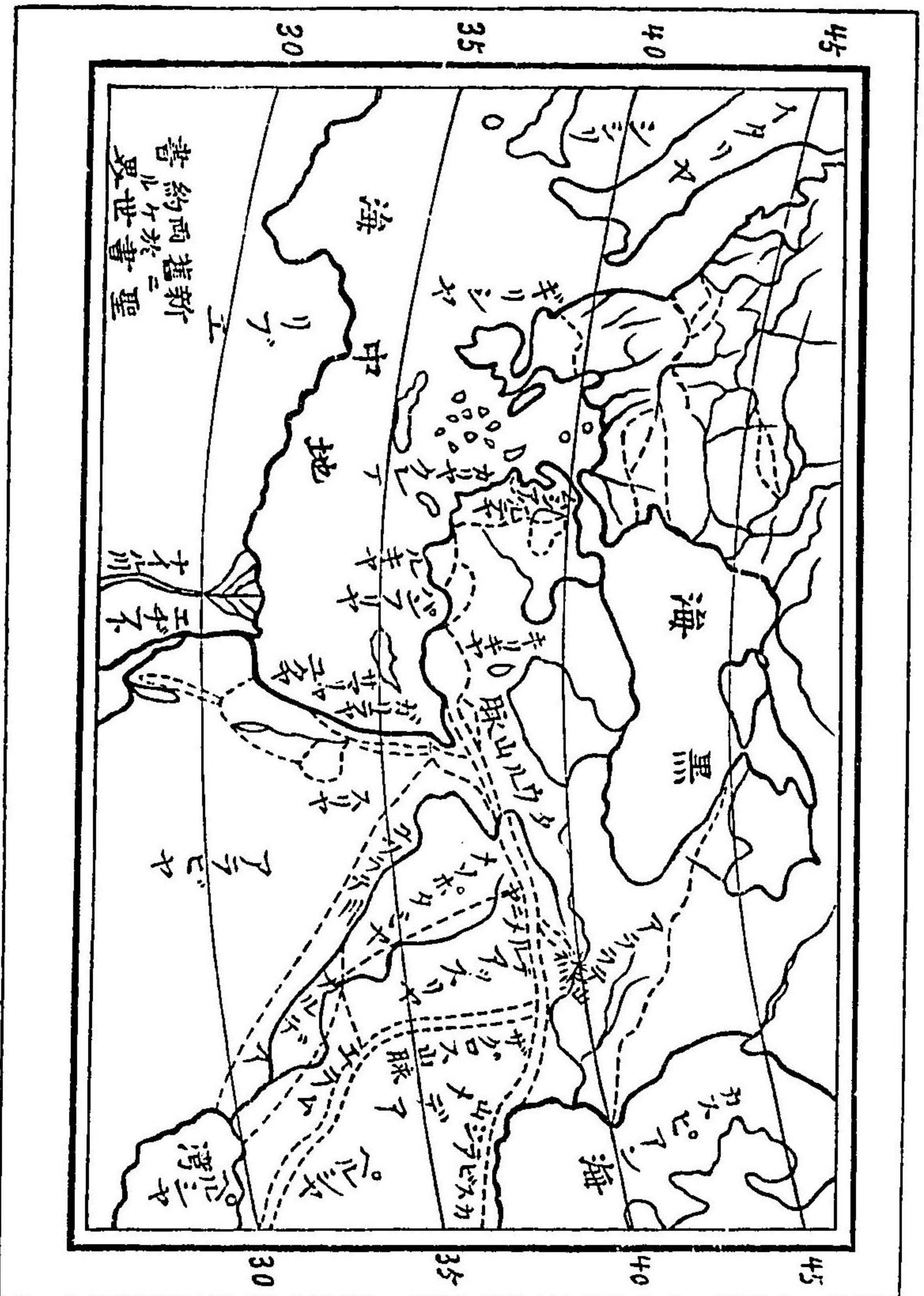
答、バビロン、ベツレヘム、ベタニヤ。

問、バビロンに關する一事件を問ふ。

答、獅子の穴に於けるダニエル(但六〇)

問、ベツレヘムに關して如何なる事件あるか？

答、基督の誕生(太一〇一八—二五)



問、ベタニヤに住みし基督の親しき友は誰か？

答、ラザロ(約十一〇二)

問、カ行の音にて始まる聖書中の三つの地名は何々か？

答、カナ、カペナウン、コリント、

問、カナに關しては如何なる事件あるか？

答、基督第一の奇蹟(約二〇一—十二)

問、カペナウンは何故著名なるか？

答、基督のガリヤ傳道の時其の住ひ給ひし所なればなり、

問、パウロがコリントの人民宛に書きし書翰二個は新約全書中の何れなるか？

答、哥林多前書、全後書、

問、ヤ行の音にて始まる聖書の市の名三つを挙げよ、

答、エルサレム、エリコ、ヨッパ、

問、エルサレムに關する一事件を挙げよ、

答、基督の凱旋入城(可十一〇一—十二)

問 エリコに關する一人物の名を擧げよ、

答 ザアカイ路一九〇一—十

問 ヨッパに就て如何なる事件關係せるか？

答 異邦人に對する義務に關する彼得の異象徒十〇

問 タ行の音にて初まる三個の聖書の市名を擧げよ、

答 ツロ、タルソ、トロアス、

問 ツロに近き所に於て基督の御生涯中如何なる事ありしか？

答 基督はツロの附近に於て、サイロピニケの婦人の娘を癒せり、(太一五〇二—

二八)

問 タルソに如何なる重要な人物生れしか？

答 パウロ徒二一〇三九

問 トロアスに關して如何なる事件關係せるか

答 トロアスに於てパウロは一人のマケドニヤ人來りて、マケドニヤに涉りて我

儕を助よといふ幻を見たり(徒一六〇九)

黑板練習

河	一、	ナイル	山	一、	シナイ	市	バ、
	二、	ユフラテ		二、	ネボ		カ、
	三、	ヨルダン		三、	カルメル		カ、
				四、	ヘルモン		エ、
				五、	橄欖		タ、
							エ、
							ヨ、
							コ、
							ベ

試問

1、聖書中にある三個の河を指名し其位置を示せ、

2、聖書の五個の山を指名し其位置を示せ、

3、バ行、カ行、ヤ行及びタ行にて始まる三個の市を擧げ其位置を示せ、

4、ヨルダン河は何湖を通過せるか、

5、ヨルダン河は何海に注ぐか？

6、ナイル河は何海に注ぐか？

7、ユフラテ河は何海に入るか？

注意、此章を教授するに際し、左の地圖を使用せよ、此章に於ける山、河、海、市等の

名稱位置を記憶するは、聖書歴史に現はるゝ地名と其位置等を知らん爲めの目標を作るにありとす。

第貳拾貳章 聖書地理の復習

聖書地理の復習には練習問題百五十四より百八十五までを用ゐよ。又最初より百五十三迄の問題をも復習せよ。

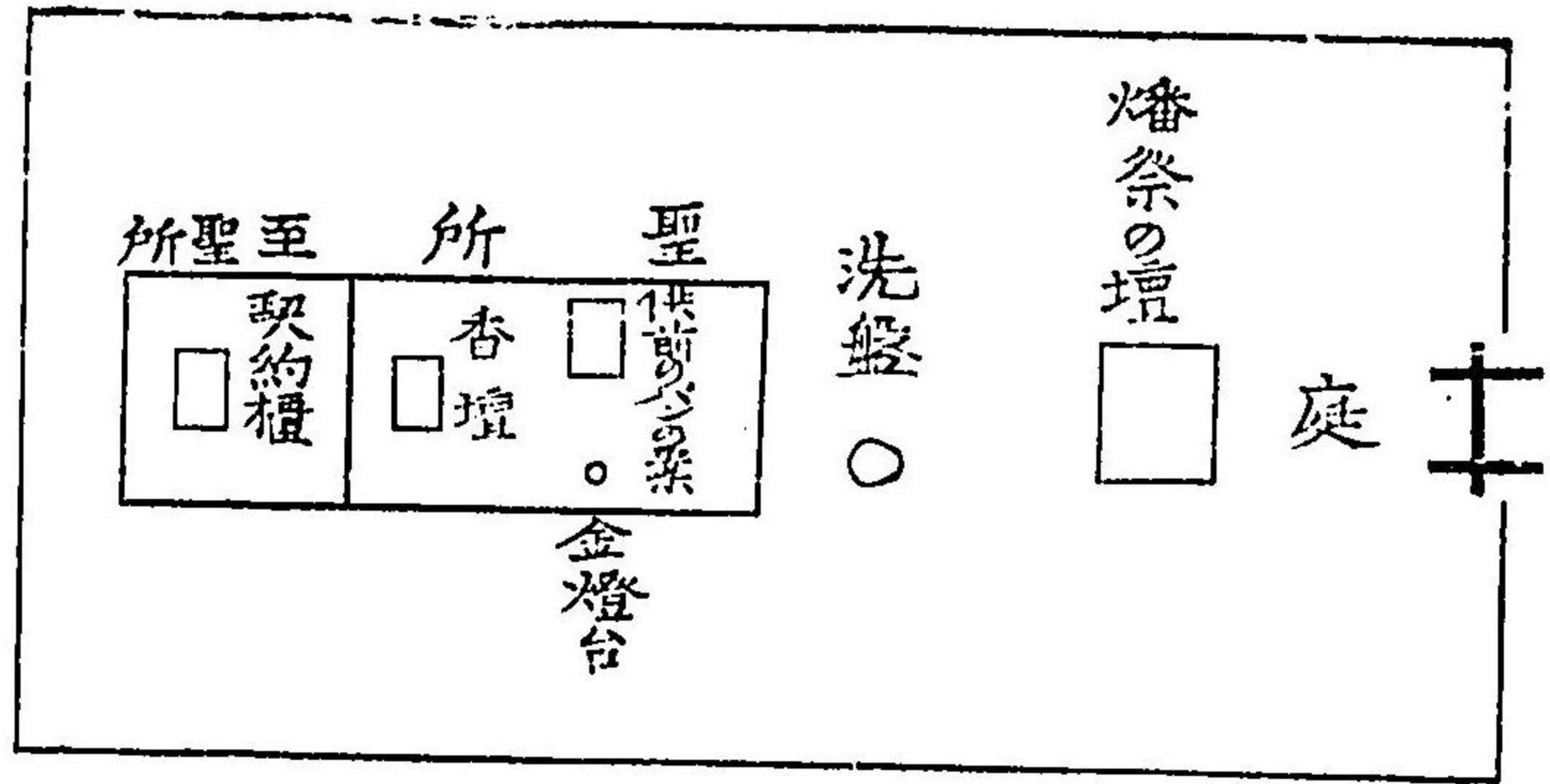
第六篇 舊約制度の研究六章

第貳拾參章 祭壇と幕屋

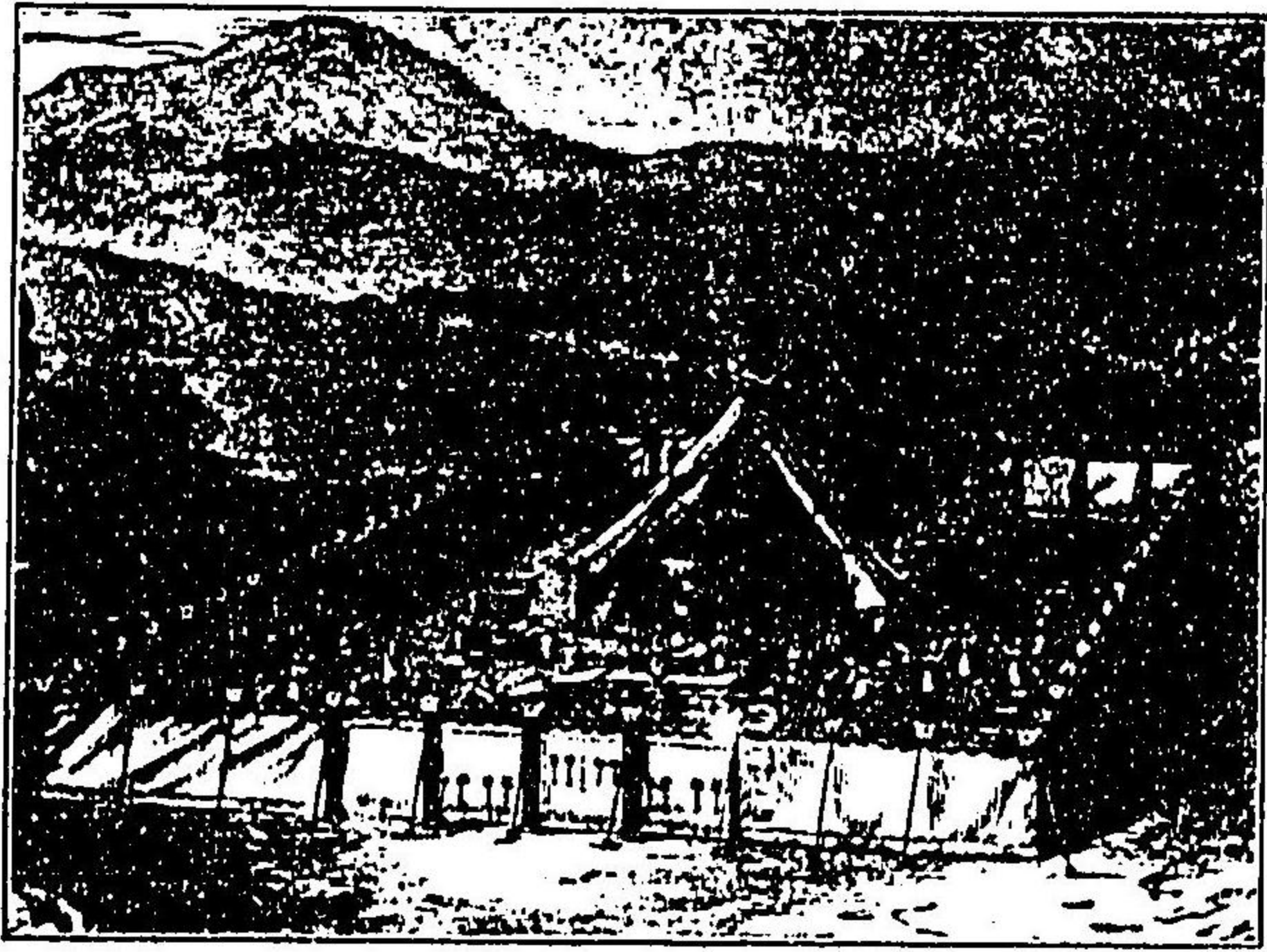
基督以前のエホバ神の歴史中、四つの大なる制度あるを見る、而して其制度たるや種々なる時代々々の要求に應せしものにして、且相互間に或る關係を有せるものなり、即ち(一)祭壇(二)幕屋(三)神殿(四)會堂の四なり。

此章に於ては右の中最初の三制度に就いて學ばんとす。

祭壇



幕屋の庭に於ける各部の位置



幕屋の圖

其一、其起源……祭壇の禮拜は歴史の初期に於て既に神の嘉納あるを見る(創四〇四、八〇二十、十二〇八)

其二、其目的……祭壇は神と人との相會する所にして禮拜者は其神に獻ぐべき犠牲を此處に携へ來りしなり。

其三、其材料……或は土を用ひ、或は一の巨石をもて造り、或は數多の石を積み、或は金屬を以て造る。父祖時代に於ては禮拜者は自己の天幕を張りし何處にも祭壇を築けり(創八〇二十、十二〇七、二十二〇九、三十五〇一七、出埃十七〇十五、二十四〇四)其四、其の預言的意味……耶蘇の十字架を前兆せるものなり(彼前三〇十八、來九〇二十二、約一〇二十九)

幕屋

一、モーセがイスラエル人を埃及より導き出せし迄は家族の祭壇が禮拜の中心なりしが、幕屋の設置と共に、十二支派は只一つの祭壇を有するのみとなれり、
二、シナイ山に於て神は幕屋の様式を示し給ひしにより、祭壇は幕屋に變化せり、(玉埃二五〇—四十〇)

幕屋を研究せんとするに當り、先づ其の三部分及び其内に供へられたる器具並に其の意味を學び、然る後五種の犠牲及び其意味に就いて學ばんとす。

其一、庭…幕屋の周圍には東西百五十尺、南北七十五尺の庭あり、庭の圍ひ及び幕屋の總ての部分は漂泊の民に適して容易に組立を解きて携へらるべき材料を以て作らる、即ち圍ひは精巧なる織物にして、合歡木の柱に掛けらる、柱は頂銀を着け、銅の座の上に置かる、而して柱と柱とを連ぐものは銀の綱なり、幕屋の戸も庭の戸も皆東に開く、庭は世界の象なり、此の庭の中に燔祭の壇と洗盤とあり。

(一) 燔祭壇…其大サ七尺半四方、高サ四尺半にして銅を着せたる合歡木の板をもて造り、中には削りしことなき石或は土を滿す、此の壇に捧げられし種々なる犠牲に就いては後に學ぶべし、此の壇は其の犠牲と共に、基督の犠牲の型なり。

(二) 洗盤…此處に凡ての犠牲を洗ふべき水を供ふ、祭司は聖所及び祭壇に至る毎に此處にて其手足を洗ふ、又贖罪の日には祭司の長、此處にて全身を洗ひて

後至聖所に入る、其大サは不明なれど、可成大なるものなりしに相違なかるべし、出埃三十〇以下此洗盤はパブテスマの型なり。

其二、聖所…洗盤の直ぐ後に幕屋あり、長サ四十五尺、幅十五尺にして、二つの室に分たる、前方即ち東方の室を聖所と呼びて、長サ三十尺、高サ十五尺、幅十五尺の面積を有す、後方即ち西方の室は至聖所と呼びて、十五尺四方、高サも同じく十五尺の面積なり、聖所は教會の象にして、其内に三つの器具を備ふ即ち、

(一) 金の燭台…聖所の入口の左側に置く、七つの枝即ち中央に一つ、兩側に三ツ、の枝に各々一ツを置く、出埃二五〇三一—四〇二

(二) 供前のパンの案…長サ三尺、高サ二十七尺、幅十八尺にして、合歡の木にて造り、鈍金を着す、七日目毎に交換して此上に十二の新しきパンを置く、之は聖晩餐の象なり、出埃三十七〇十一—十六

(三) 香壇…高サ三尺、長サ幅共に約一尺五寸にして金を着せたる木にて作らる中は空なり、上に金の皿ありて、燔祭の壇より取り來れる火を供へ、其庭に香を焚き、香の煙を室に充たす、香壇は祈禱の象なり、出埃三十〇

其三、至聖所…天國の型なり。此室には唯一つの器具あるのみ。即ち、

(一) 契約の櫃…なり。長サ約三尺八寸、高サ幅共に約二尺二寸五分にして兩面に金を着せたる合歡木をもて造らる。是に贖罪所と名づくる堅き金の蓋あり。其上に二つのケルビム立つ。又櫃の兩側に各二つの環あり、其のに杠をさし入れて櫃を昇ぐ。うちに神と人との契約の律法を記し、石板二枚を納めし故、契約の櫃と名く。出埃二十五〇十以下尙櫃の内には、マナを入れたる壺とアロンの芽さし、杖とを納む。贖罪の日に祭司の長は蓋の上に血を注ぐ。五埃十五〇十七以下、來九〇七

契約の櫃は、幔のうちに屬するものなれば其意義、象等に就いては解釋を試みざる方よかるべし。

其四、禮物

(一) 罪祭…動物の犠牲にして、罪の贖を願ふこと、神と和ぐ手段を表す(利未四〇三以下)動物は殺されて、營の外にて焼かる。而して其血は香壇に注がる(利未四〇三以下)

(二) 燔祭…動物の犠牲にして、禮拜者の富の度によりて相違あり。是は罪の贖として受けらる(利未一〇二以下)

(三) 愆祭…動物の犠牲なれども、麥粉を代用とする事を得。是は現在犯したる罪の赦を乞はんが爲めに捧ぐるものにして、罪祭を捧ぐべき罪人の状態と區別さる(利未五〇一以下)

(四) 素祭…果實或は穀物の禮物にして、感謝の意を表す(利未二〇一以下)

(五) 酬恩祭…動物及び野菜の禮物にして、神との交通の表なり(利未三〇一以下)以上學びし所によりて考ふるに、五の禮物は(一)神と和ぐこと、(二)贖罪、(三)赦罪、(四)感謝、(五)神との交通を表はすものとなすを得べし。尤も是等の言葉は其充分なる意味を表はすものにあらず。只記憶の便を計りたるものなり。

黑板練習

四制度—祭壇、幕屋、神殿、會堂



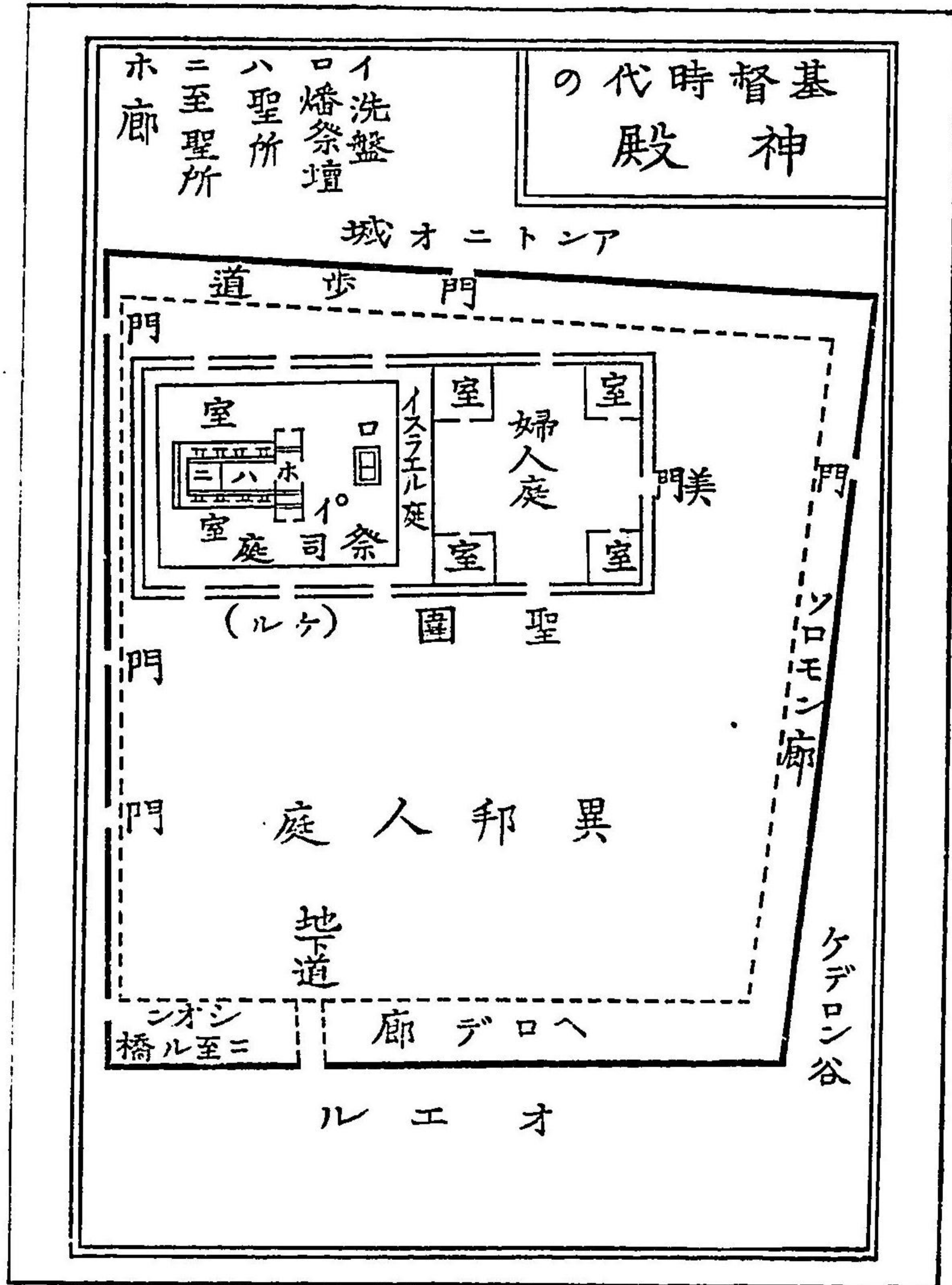
禮物
 酬索愆燔罪
 交感赦贖和
 通謝罪罪

幕屋の
 象徴的
 意味

庭聖所 | 世界
 至聖所 | 教會
 燔祭の壇 | 天
 洗盤 | 基督の犠牲
 金燈臺 | バプテスマ
 供の | 聖書
 壇の | 案
 祈禱 | 聖晚餐

試問

1. 舊約の禮拜に於ける四制度を問ふ、
2. 祭壇の目的如何?
3. 幕屋の三部分を問ふ、
4. 如何なる物が庭に供へあるか?
5. 如何なるものが聖所に供へあるか? 至聖所に供へあるか?
6. 庭聖所、至聖所、燔祭の壇、洗盤、金燭臺、供のパンの案、香壇以上の象徴的意味を問ふ
7. 五種の禮物をあげよ、
8. 各禮物の表はす種々なる意味を一つづゝ舉げよ、

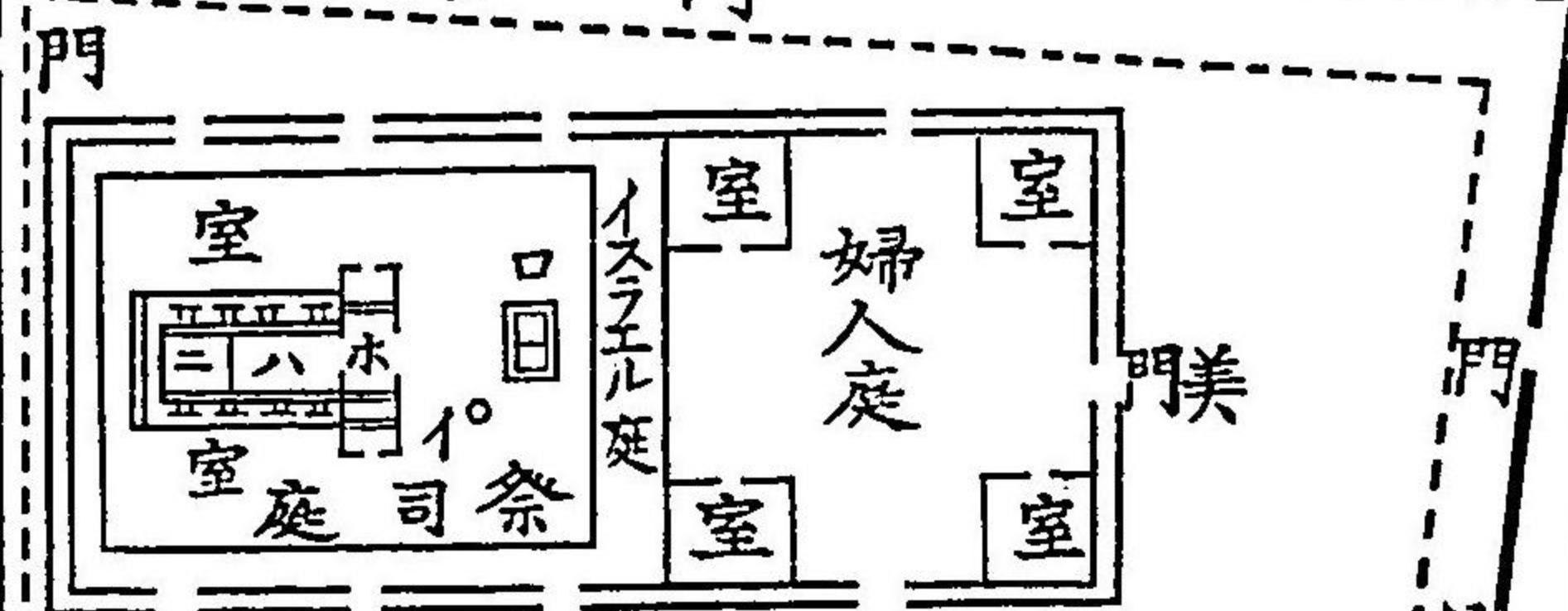


基督時代の
神殿

イ洗盤
 ロ燔祭壇
 ハ聖所
 ニ至聖所
 ホ廊

アトニオ城

門 歩道



異邦人庭

地下道

シロモン橋

ヘロデ廊

オエ

第貳拾四章 神殿

一、イスラエル人が荒野にありし時は、遷搬し得らるゝ拜殿即ち幕屋を必要とせしが、カナンの地に永住し、王國を建設するに至るや、永久的なる拜殿を建立したりきはを神殿といふ。

二、其建立に際し、準備に與つて力ありしはダビデなれど、建立の事業は全く其子ソロモンに委任されたりき。時凡そ紀元前一千年なり、其後紀元前五百八十七年にネブカトネザルの爲めに破壊せられしが、バビロンの虜囚より歸りて後、ゼルバベル新たに工を起し、紀元前五百十五年に出來せり。後五百年を経て漸く壞頽に趣きしを以て、紀元前二十年へロデ大王は是が改造を企て、規模を一府大にせり。紀元六十年に其工事全く終りしが、五年の後羅馬の將軍タイタスの爲に破壊されたりぬ。

三、此三つの神殿は大體に於ては等しき計畫によりて建てられたるものにして、其詳細に至りては基督當時のものを知り得るのみされども、其によりてソロモンの神殿の状態を窺ふを得べし。即ち神殿に六區分あり。

- (一) 異邦人の庭…其廣サ北九百九十尺、東一千尺、南九百十尺、西千〇六十尺なり、西北隅はアントニオの塔にして、東にケデロンの谷、西にタイロフエオンの谷あり、南に境する地方をオスルと呼ぶ、基督御在世中に、免銀するもの、牛鳩を賣るもの、居りしは此庭なり、(太二十一〇十二、約二〇十四)東の墻壁に四つの門あり、北に寄りたる二つは郊外に行く路にして、次の一つはタイロスオンの谷を横切るべく、最南の門は其谷に至る路にして、階段によりて庭に通ず。
- (二) 聖園…異邦人の庭の西北に位せるケルと呼ばれし堤防の如きものにして、以下に擧ぐる建物を包容せる、其外壁にイスラエル人以外の入るを禁ずてふ文字あり、其幅は二十四尺にして、四十尺より六十尺に至る内壁を圍む、内壁には南北に各四ツ、東に一ツ、總て九ツの門あり。
- (三) 婦人の庭…聖園の東端を占め、廣さ二百四十尺方にして、其床は聖園の高さより五階高し、廻らすに高壁を以てし、四方に一ツづつ、門を附けたり、庭の四隅に六十尺四方の室ありて、婦人は其處より犠牲を伺ふ事を得よりて其名あり。
- (四) イスラエルの庭…聖園の西端を占む、男子の庭なる是は祭司の庭を廻れる廻廊にして、婦人の庭より十五階高く、面積東西兩側各々長さ二百四十尺、幅二十四尺、南北兩側各々長さ三百二十尺、幅六十尺あり、男子は此庭より犠牲を目撃す、其外壁は高く且廣くして、南北に各三つ、東に一つ、總て七つの門を有す、此庭と祭司の庭は柵を以て隔てらる。

- (五) 祭司の庭…イスラエルの庭の内にありて、數尺高し、面積は長さ二百八十尺、幅二百尺なりしならん、内に燔祭の壇、洗盤及び本殿あり。
- (六) 本殿…前部にある廊と、左右及び後部にある部屋の外に聖所と至聖所あり。
- 其一、聖所…面積は幕屋に於けるもの、二倍、即ち長さ六十尺、幅三十尺なり、内に金の燭臺、供のパンの案、香壇あり。
- 其二、至聖所…面積は幕屋に於けるもの、二倍、即ち三十尺四方なり、聖所と至聖所の間に幕あり、基督の死に給へる時裂けたるは是なり、(太二十七〇五十一、來十〇二十)當時契約の櫃なかりしを以て、只大理石の塊を置きしのみ、贖の日には其上に血を注ぐ。

黑板練習

建立者
ソロモン
ゼルバベル
ヘロデ大王

区分
一、異邦人の庭
二、聖園
三、婦人の庭
四、イリスラエルの庭
五、祭司の庭
六、本殿

試問

- 1、神殿建立の準備に力をつくし、王は誰か？
- 2、最初の神殿を建てしは誰か？
- 3、最初に破壊せしは誰か？
- 4、神殿を改造せしは誰か？
- 5、其後何事が起りしか？
- 6、再び神殿を改造せしは誰か？何時工を竣へしや？
- 7、誰が何年に最終の破壊を爲せしや？
- 8、神殿の六区分を問ふ、
- 9、舊約史の如何なる時代に第一、第二、第三の神殿は建てられしや？

- 10、基督御在世當時に異邦人の庭に入るを許されしは何人なりや？
- 11、婦人の庭なる名稱のよりにて來る所如何、
- 12、祭司の庭には何がありしや？
- 13、聖所、至聖所にありし器物を擧げよ、

第貳拾五章 會堂

一、其意義……會堂即ち英語のシナゴグなる言葉はギリシヤ語のスナゲイン(Synagoga)あり來りしものにして、原語はスン(共に)アゲイン(導く)の二語より成る、即ち共に導く、或は集るの意なり。

二、其起源……會堂は神殿の衰頹に越きし、バビロン囚虜中に起りしものなり。當時ユダヤ人は禮拜と交際の爲めに所々に集會をなしたりき。其起源に就いて、吾人はエヅラの名を聯想す得べし。

三、其重大なること。

(一)聖書が其處にて讀まれ、又講義せられし故に、舊約書の研究を盛ならしめ、且忠

實なるユダヤ人をして其に通曉せしめぬ。

(二) 會堂は禮拜の場所なりしを以て唯一眞神の禮拜を保全するを得たり。

(三) 又常日は兒童の學校となりしを以て總ての教育をして宗教を中心となさしむるを得たり。

(四) 世界が基督を迎ふる準備を爲すに當りて、會堂は其重大なる部分を勤めたり只にパレスチナのみならず、何處に至るも、ユダヤ人の居る所として會堂のあらざる所なく、エルサレムのみにも其數四百六十ありしといふ。要するに會堂は基督の福音を宣傳する爲めに、地と人とを供給せしものなり。

四、其役員

(一) 三人の會堂の宰……事務を處理し、禮拜を掌るもの、うち一人は長官にして、宰と呼ばれる、會堂に就いての聖書の引證は路七〇五、可五〇二十二、約九〇二十二、約九〇二十八、徒十三〇十五、十五〇二十一を見るべし。

(二) 役者(路四〇二十……書記會堂守衛、町村吏學校教師を兼ねし如きものなるべし)

(三) 七公選者(パトラニムと呼ばれる……) 閑の人現定されたる會衆ともいふべき七人

の人ありて、定まりたる集會には必ず出席すべしてふ誓約を守る。時としては是等の人は僅少の給料を受くることあり。

黑板練習

一、意味—共に導く	二、起源—バビロンの囚虜
三、聖書朗讀の家の學校	四、役員—宰、役者、七公撰者
地と人とを基督に供ふ	

試問

1. 會堂(シナゴグ)なる意義如何、
2. 何處に廢はれし時に始まりしや?
3. 誰を其起源と聯想するか?
4. 會堂は如何にして舊約研究を盛ならしめしや?
5. 如何にして一般の教育を盛ならしめしか?
6. 會堂が世界の基督を迎ふる準備を助けし二つの方法あり、如何、

7. カザンの職務は何なりしか？
8. 閑の人とは誰をいふか？
9. エルサレムにありし會堂の數を問ふ。

第貳拾六章 ユダヤ人の節筵

ユダヤ人の節筵は神の撰民の禮拜の部分なるを以て、其を論ずるには勢ひ、禮拜の制度の研究に伴はざるべからざるなり。ユダヤ人の歴史に於て、三大節、三小節あるを見る、其等に就いて吾人は、(一)何時守りしや、(二)如何なる様に守りしや、(三)何を紀念せしやの三點に注意せんとす。

(一) 三大節 (一) 逾越節

- 其一、ニサンの月の十四日に守る、即ち我が三月の末又は四月の初めに當る節筵の期間は一週間なり(路二十二〇十二)
- 其二、重なる儀式は逾越の羔を食することなり(出埃十二〇十九—四十二、路

二十二〇十二)

其三、死の使の逾越せし事と、埃及より出でし事とを紀念す。

(二) 五旬節

- 其一、逾越節の五十日以後、シガンの月に守る(我が五、六月に當る)
- 其二、收穫の初穂を捧ぐる祭なり(利未二十三〇十五—十七)
- 其三、普通にシナイ山に於て律法を與へられたる事を紀念するものと見な

(三) 結茅節

- 其一、エタ、ニムの月(我が九、十月に當る)十五日より一週間にして終る(利未二十三〇三十四)
- 其二、小舎に住み特殊なる犠牲を捧ぐる祭なり(利未二十三〇四十二)
- 其三、荒野に於ける生活を紀念す(利未二十三〇四十三)

(二) 三小節

(一) 喇叭節

其一、エタニム(即ちユダヤ人の第七月)の一日に守らる(利未二十三〇二十四
其二、此日には全國に於て喇叭を吹き、特殊なる犠牲を捧ぐ(民數二十九〇二
一六)

其三、ユダヤ暦の新年を記念するものとみなさる。

(二) 修殿節

其一、キスレツ(我が十二月)の月の二十五日に始り、八日間にして終る。

其二、節筵の間神殿は燈火を以て輝く、故に光の節の名あり。

其三、紀元前百六十六年アンテオカス、エビファニスが豚を壇に捧げて汚した
る神殿を、ユダ、マカビアスが潔めて、神に奉りし出来事を記念するものなり。

(三) プリム節

其一、アダル(我が三月)の月の十四日と十五日に施行さる。

其二、國中舉りて酒宴をなして喜び樂む日なり。

其三、ユダヤ人がハマンの謀計によりて、殺されんとせしとき、王妃エステル
によりて救はれし事を記念するものなり(帖九〇二十一—二八)

三、特殊なる斷食

(一) 第七月即ちエタニムの月の十日は贖罪の日なり。

(二) 其は斷食の日にして、祭司の長は白き衣を着け、至聖所に入り、契約の櫃の上な
る贖罪所の上に犠牲の血を注ぐ。

黑板練習

逾越	何時か? 如何にしてか? 何故?	五筵節	何時か? 如何にしてか? 何故?
結茅節	何時か? 如何にしてか? 何故?	喇叭節	何時か? 如何にしてか? 何故?
修殿節	何時か? 如何にしてか? 何故?	プリム節	何時か? 如何にしてか? 何故?
一年一度の斷食	何時か? 如何なる特殊の事が行はれしか		

試問

1、ユダヤ人の三大節を擧げよ、又如何なる様に其を守りしかを語れ。

- 2、此三大節は各々何を記念せしや？
- 3、ユダヤ人の三小節をあげよ、又如何なる様に其を守りしかを語れ、
- 4、此三小節は各々何を記念せしや？
- 5、ユダヤ人の律法に定められたる唯一の斷食とは何なりしや？
- 6、其日には如何なる特殊の事行はれしや？

第貳拾七章 舊約制度の復習

- 1、祭壇に就いて、其起源、其目的、其材料、其預象的意義を語れ、
- 2、幕屋の三部とは何ぞや？
- 3、如何なるものが庭にありしや？
- 4、如何なるものが聖所にありしや？
- 5、如何なるものが至聖所にありしや？
- 6、庭、聖所、至聖所、燔祭の壇、洗盤、金燭臺、供のパンの案、香壇以上の象徴的意味を問ふ
- 7、イスラエル人の五の禮物とは何ぞ、

- 8、各禮物が表はす意味の中各々一つを挙げよ、
 - 9、神殿の六部分を問ふ、
 - 10、三つの神殿を挙げ、且つ誰が建てしか、如何にして破壊せられしかを語れ、
 - 11、會堂に就いて(一)言葉の意義、(二)何の虜囚の時に起りしか、(三)如何なる人物を聯想するか、(四)其役員、(五)其重大なる制度となりし三つの理由——を問ふ、
 - 12、ユダヤ人の大なる節筵を挙げよ、
 - 13、(一)何時其を守りしか、(二)如何に其を守りしか、(三)何を記念せしやに就て語れ、
 - 14、ユダヤ人の三小節を挙げ、且つ(一)何時其を守りしか、(二)如何に其を守りしか、(三)何を記念せしかに就て語れ、
 - 15、贖罪の日に就いて、何時其を守りしか、其日には如何なる事が行はれしやを問ふ
- 注意、練習問題に就て百八十六より二百十二迄を練習すべし。

第七篇 日曜學校研究七章

第二十八章 日曜學校の歴史

第二十九章 日曜學校の定義

第三十章 日曜學校と教會

第三十一章 家庭科

第三十二章 階級制度

第三十三章 階級的補充學課

第三十四章 日曜學校に就いての復習

第二十八章 日曜學校の歴史

一、日曜學校は神の聖旨を教ふる所なるを以て、此處に聖書の三時期に於て神の聖旨を教ふるてふ事が、宗教的生活の如何に重大なる部分なりしかを想記するは適

當の事なるべし。

(一) 教師としてのアブラハム(創十八〇十九)

(二) 教師としてのモーセ(申命四〇九、十一〇十九)

(三) 教師としての基督、基督は御自身が大教師たりしのみならず、屢々其弟子に教へよと勧め給へり(太五〇十九、二十八〇十九、二十)基督の十二弟子を訓育し給ふ有様を見るに、實に驚くべき學校教師の模範なり。

二、近世日曜學校

(一) 英國グロチェスター市の人、ロバート、レイキスが千七百八十年に始めて日曜學校を設立す、千七百八十三年彼は至る所に於て日曜學校を設立すべき事を説

きり。

(二) 千七百八十五年ロンドンに、日曜學校獎勵協會の組織成る。

(三) 教師は最初は有給なりしが、間もなく有志の無給教師採用せらるゝに至れり、課目は重に讀書に限られたれど、後に聖句の暗誦を加へ、又次第に種々なる計畫方法採用せられ、遂に年齢及び教育によれる粗雑なる分級制度、週を追ふて

一定の學課に就いて其組織的研究採用せらるゝに至れり。是今日の具備せる日曜學校の始めなり。

(四) ジョーン、ウエスレーは此の新らしき日曜學校なる機關の有力なるを認めて、之を其大なる事業の政略のうち採用せり。其弟チャールズに送りし書翰のうち曰く「日曜學校は此數世紀の内に歐洲に起りし事業中最高のものなり。若し教師が忠實に其義務を果すならば益々盛大に趣くならん」と。

(五) 千七百八十七年には英國に於ける日曜學校生徒二十五萬に上れり。

(六) 千八百三年ロンドン日曜學校同盟の組織成る。

(七) 千八百二十四年亞米利加日曜學校同盟の組織成る。

(八) 千八百三十二年ニューヨークに於て第一回内國大會開かる。

(九) 千八百八十九年ロンドンに於て第一回世界大會開かる。

(十) 千八百七十五年バルチモアに於て第一回萬國大會開かる。

(十一) 千九百五年カナダのトロントに於て第十一回萬國大會開かる。

(十二) 千八百七十三年萬國日曜學課制度起る。

(十三) 千九百三年シカゴに宗教教育協會創立さる。

(十四) 千八百七十年ニューヨーク州ネワーク市のエス、ダブルユー、クラーク夫人宅に於て最初の初等科同盟組織さる。クラーク夫人十四年間是が會長及び教師たり。千八百七十一年の始めにニューヨーク同盟の組織成り、ダブルユー、エフ、クラフト夫人を會長とす。夫人の盡力の結果千八百八十四年に内國初等同盟組織せらる。

(十五) 教師館成の事業は千八百六十二年に始まりしと雖も、團體の組織は千八百九十年イリノイス日曜學校協會の事業として起りしものを始めとす。千九百〇三年萬國日曜學校協會は教育委員を任命して、教師養成監督を撰舉せり。千九百七年の報告に依れば五十五の州縣の協會は教師養成部を賛成せり。

(十六) 千九百七年教師養成事業の良好に進歩しつゝありし時、千九百三年以後萬國教育養成監督たりしシダブルユー、シー、ピアース氏は萬國日曜學校協會の成人部監督の職に就かん事を勧められたり。是れ實に成人部團體組織運動の起源を成すものなり。

三、日曜學校團體事業の結果

- (一) 日曜學校團は今や其人員二千九百二十萬に達す。即ち米國千四百萬、カナダ百二十萬、其他の諸國千四百萬なり。
- (二) 毎年大會の開かるゝ數、北米のみにて一萬五千あり。
- (三) 日曜學校は正則傳道主義を掲表す。信者の八割五分は日曜學校より來るものなるが、其八割五分は實に教會の根本的活動力の八割五分以上を形成す。
- (四) 團體運動は貴重なる宗教書類の圖書館を産出せり。而して又年々其需要は増加しつゝあり。
- (五) 團體にて發行さるゝ、教導的又學者的なる學課註釋の類は皆團體運動の結果なり。
- (六) 日曜學校は聖書の需要を著しく増加せしめたり。百年間に於ける英國及び諸外國の聖書會社の聖書(全部のもの、又一部のもの)發行部數は一億八千萬にして、三百七十の異りたる言語に別つを得べし。英國聖書會社のみにても一時間二千部、一年に六百萬部發行せり。

七) 團體事業の目的は教授の改良、管理の改良、建物の改良、設備の改良、家庭の改良、社會の改良、以して全世界を基督に獻ぐる事にあり。

黑板練習

一	二	三	四	五	六	七
ロバート・トレーキス	自給教師	ジョン・マクニール	萬國日曜學校	最初の初等科同盟	教師の養成	大人間の働き
一九〇〇	一五〇〇	二〇〇〇	三〇〇〇	四〇〇〇	五〇〇〇	六〇〇〇
二	三	四	五	六	七	八
正則傳道主義	圖書館	學課註釋	聖書	改良		
二九	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
結果						

試問

- 1、聖書の三時期に於て宗教生活の重大なる部分をなせしものは何なるか?
- 2、始めに近世日曜學校を設けしものは誰か?
- 3、萬國日曜學校制度の起りしは何時か?
- 4、最初の初等科同盟のなりしは何時か?
- 5、教師養成事業の團體組織は何時始まりしか?

- 6. 日曜學校軍に於ける大凡の人員は幾何なるか？
- 7. 毎年北米に開かるゝ大會數は幾何なりや？
- 8. 日曜學校團體事業の五の結果をあげよ。

第二十九章 日曜學校の定義

日曜學校の事業を成功せしめんには先づ其が如何なるものなるかを明確に了解せしめざるべからず。日曜學校は教會の幼稚園なるか又は育兒所の如きものか又は兒童の來るべき場所なるか。然り日曜學校は其等にして而も其以上の價値を存するものなり。日曜學校を單に幼稚園或は育兒所なりと思はゞ或人は多く來らざるに至らん。故に人々が其意味を全く了解するまで、日曜學校の定義をして正しく又屢々教ふるを要す。

- 一、日曜學校は教會の教育事業にして、人を基督に導き、且基督の爲めに働かしむべく訓練する所なり。
- (一) 教ふる所なり。

- (二) 教會の事業なり。
- (三) 人を基督に導く所なり。
- (四) 人をして基督の爲めに働かしむべく訓練する所なり。
- 一、以上の定義に従つて起る事

- (一) 日曜學校は教會の事業なるが故に信者は總て入學すべし。
- (二) 日曜學校は教會の事業なるが故に教會の首腦者たる牧師は此事業の指導者たるべし。
- (三) 日曜學校は教會の事業なるが故に教授に適せる建物及び設備を必要とす
- (四) 日曜學校は教會の教育事業なるが故に、完全に訓練せられたる教師を要す
- (五) 日曜學校は一つの目的が人を基督に導くにあるを以て、適當なる時に兒童をして個人的に基督を告白せしむる様に養成すべし。
- (六) 日曜學校の又一の目的が人をして基督の爲めに働かしむべく訓練するにあるを以て完全なる基督者の性格を作る様に構成せざるべからず。

黑板練習

日曜學校は

一、教所
二、教事
三、人、基、導
四、人、基、働、訓

なり

一、總ての信者
二、牧師
三、建物
四、教師
五、告白
六、訓練

を要す

試問

1. 何故に日曜學校は教會の育兒所なりと定義すべからざるか？
2. 教會の幼稚園と呼ぶに何の異義あるか？
3. 日曜學校の定義を問ふ、
4. 牧師のなすべき事は何ぞ、
5. 教會の教育事業は如何なる種類の教師を要するか？如何にせば得らるべきか

第三十章 日曜學校と教會

日曜學校は教會の凡ての機關の働くべき基礎を作る、聖書を研究する教會は進歩、發達する教會なり、吾人は此章に於て教會と日曜學校とが相互の存在の必要を

精しく研究せんとす。

一、教會が日曜學校に要する四つの理由、

- (一) 教育部を要す。健全なる信徒を得んとせば、兒童、青年、成人に聖書の事實と教理とを教へざるべからず。
 - (二) 働く場所を要す。教會の内に日曜學校程凡ての信者を有効に働かしむる事業はあらず。
 - (三) 聖書教師を發達せしむる場所を要す。今や日曜學校は此事業を遺憾なくなしつゝあり。
 - (四) 傳道機關を要す。他の傳道法に就いて如何なる事が云はるゝとも、日曜學校は其正則なる方法を表はすと言はざるを得ず。日曜學校は兒童の生誕の時より成人に至るまで之を時代々々を追ふて教へ又發達せしむ。
- 二、日曜學校が教會を要する四つの理由、
- (一) 教會の役員の協力運動を要す。日曜學校が教會の教育事業なりとせば教會の主腦者は之が活動を助力せざるべからず。

- (二) 教會員の忠實なる援助を要す。日曜學校が教會員と全く異なる人を以て成立せる場合には有効なる働を望むべからず。日曜の集會に常に出席し得ざる人は家庭科に屬すを得べし。
- (三) 生徒を導くべき教會を要す。生ける日曜學校は直ちに人を基督に導くべし。然るときは其人の働くべき何等かの機關なかるべからず。日曜學校のみにして教會のあらざる地方は直ちに其必要を感ずるに至るは普通の事なり。
- (四) 興味を廣くせんが爲めに教會を要す。日曜學校は生徒を導びきて、教會の新會或は説教會或は聖晚餐其他教會生活の正則なる活動に關與せしめざるべからず。

黑板練習

教會は	一、教、部	日曜學校は	一、設備
	二、働、所		二、教會員の援助
	三、聖、教、發		三、導く場所
	四、傳、機		四、興味を廣うす
	を要す		を要す

1、日曜學校と教會内の諸機關との關係を問ふ。

- 2、教會が日曜學校を要する四つの理由をあげよ。
- 3、日曜學校が教會を要する四つの理由をあげよ。
- 4、日曜學校が凡のものを常に働かしめ得る二三の方法をあげよ。
- 5、日曜學校は正則傳道法を掲表すといふ、其理由如何。
- 6、日曜學校に働くものは何故に教會生活の活動に關與せざるべからざるか？

第三十一章 家庭科

一定義……家庭科は日曜學校の規定の集會に出席し得ざる人の爲に設けられたる日曜學校の普通の一文科なり。此科に入るべきものは醫師、警官、兵士、水夫、電車に務むるもの、鐵道員、馬丁、給仕人、馭者、旅館に務むるもの、藥店員、看護婦、消防夫、小使、小兒の母たる人、老人其他種々なる人なり。

二、此科に入るべき條件……唯一のみ、此科に入らんとするものは少くとも一週三十分、正科の日曜學課を研究せんことを契約すべし、而して是は總ての信者又多數の人の爲し得らるる事なり。

三、如何にして始むべきか……校長牧師の賛成を得て初むべし。又教職務員の賛助あれば更によし。最初は確に入學すべしと思はるゝ人をのみ歓迎せよ。而して彼等の勢力と奨励しやうれいとによりて熱心に勤めよ。加入に躊躇ちゆうちゆうする者あらば其人に斯く語るべし。

(一) 毎日五分以下の時を要するのふなる事。

(二) 何等の費用をも要せざる事。獻金けんきんは全く自由となすも費用を辨するに充分なるべき事。

(三) 若し好まざるならば何時にても止むるを得べき事。

四、幾人を入學せしむべきか……一人を得るあらば既に家庭科は設立せられたるなり。斯の如くして自己の受持區内の總ての人を得る迄働くべし。

五、利益

(一) 常に聖書研究を爲さざる多くの人は家庭科によりて規則的に其を爲しつゝあり。

(二) 家庭科は多くの家庭に最も必要なる家族祭壇かぞへまつだんを復興せしむ。

(三) 冷淡たんだんなる信者を熱心ならしむ。彼等の怠慢は活動に變すべし。

(四) 日曜學校の常集會の出席を増さしむ。

(五) 容易に全教會を日曜學校生徒となさしむ。

(六) 教役者を進歩せしむ。

(七) 財政上より見るも、社會上より見るも、智的方面より見るも、心靈上より見るも其勞力に報いて余あり。

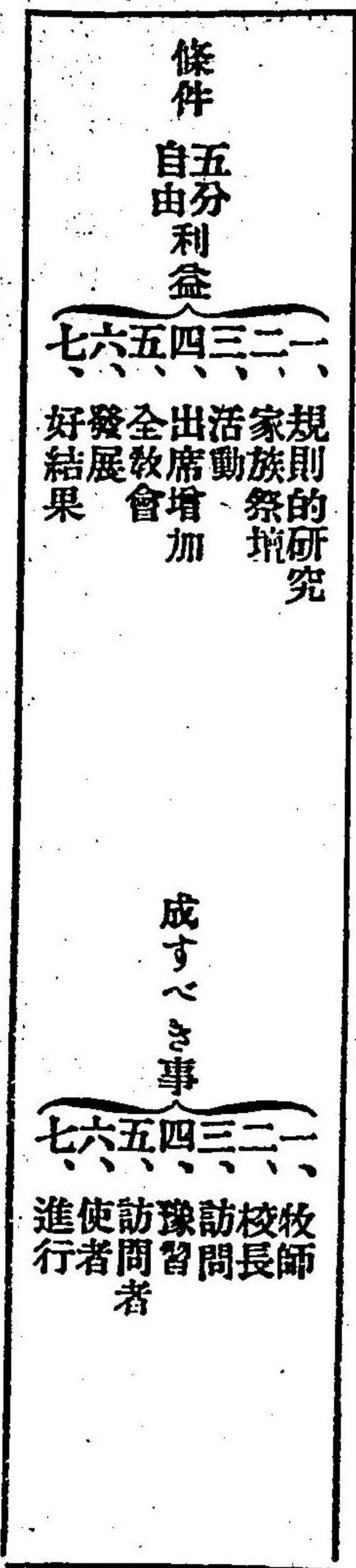
六、訪問者……家庭科主任は充分なるだけ訪問者を選びて働きを助けしむべし。訪問者は生徒を得んが爲に區内をあまねく尋ぬるを要す。而して又一期の終に生徒を訪問して新しき雜誌と記録袋きらくぶくろとを渡し、過ぎし三ヶ月間の報告と獻金とを受取るを要す。訪問者一人の受持は十人位が適當ならん。又訪問者は一期間の報告を家庭科主任に爲し、主任は是を全校に爲すべし。牧師にして自ら家庭科を設け、主任として有力なる活動を爲せしもの多し。

七、成すべき事、

(一) 此問題に就ては牧師の説教を乞ふべし。

- (一) 校長に講壇より報告を乞ふべし。
- (二) 各戸訪問を爲すべし。
- (三) 日曜の夜或は他の適當なる時に一期間の學課の豫習をせられん事を牧師に乞ふべし。
- (四) 訪問者と共に常集會を催すべし。
- (五) 使者及び日光隊を構成すべし(病氣見舞を主として慰藉等の凡て人を訪問して喜ばしむる務を爲すものなり)
- (六) 巧妙に又公明に事業を進ましむべし。

黑板練習



試問

- 1. 家庭科は如何なる人々に依りて形成せらるるか?
- 2. 家庭科に入らんとするものゝ守るべき條件を挙げよ。
- 3. 家庭科の七利益を挙げよ。
- 4. 成功せん爲になすべき事七個を挙げよ。
- 5. 家庭科を設けん爲に如何なる階段を踏むべきか?

第三十二章 階級制度

一、分級されたる學校の必要

- (一) 今日多數の日曜學校の最も必要とする所は組織の改良なり其場所を完全にせんか更に多くの生徒を集むるを得べく總ての點に儘に完成の域に進むを得べし構成は責任を分ち働く人を發達せしめ迅速と完全とを獲取せしむ。
- (二) 一級以上の級を有する學校にありては如何なる方法かによりて階級を附し、又如何なる學校に於ても年齢と教育とに依りて生徒を分つ或る種類の方法

あり。是れ階級制度の始めなり。即ち凡ての學校は或る意味に於て階級制度を有すと云ふべし。故に此の章に於ては完全なる階級方法に就て研究せんと欲す。

(三) 細密の注意を以て爲されたる學校の構成及び階級制度の必要を一層痛切に感せんが爲め、吾人は今是等の質問を讀者諸君に呈せんとす。諸君は其が特別に斯くせらるべく計畫せられたりてふ理由を以て、ある一定の期間に學ぶべきある學課に手を下し得るや、諸君は諸君の學校に於て十二月の三十一日に完成せらるべく何か特別の計畫を爲せしか。

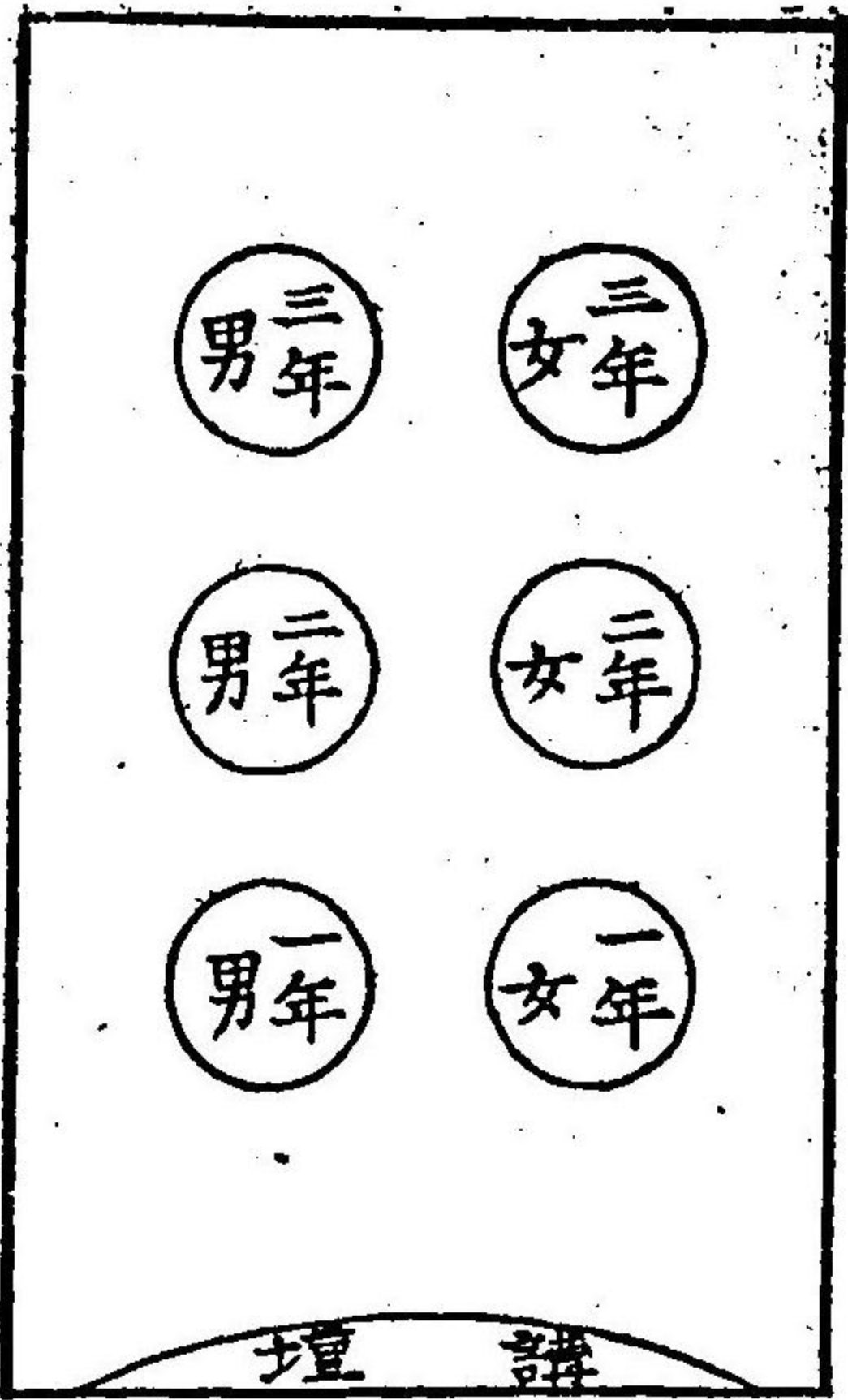
諸君は聖書、聖書地理、舊約歴史綱要、基督傳、パウロ傳の綱要等に就いて教ふべき時と所とを持つや、諸君は獎勵として生徒を進級せしむるや、諸君の周圍の人は諸君の學校の事業を目して表面的なりとなす。諸君は粗雑なる方法を用ゆる事なきや、諸君は如何にして人を基督に導くべきかを知るか、諸君の學校は高き理想を有するか、教師は彼のテニソンの如く善かれ悪かれ永遠に流るといふ不文律ありや、緩慢を以て不名譽なりと爲すや、諸君の學校は

實質を有するや、はた有名無實なりや、諸君の學校は巧に追求せる組織を有するや、諸君の學校の教師は各々分科分科に於て専門家に成りつゝありや、正しく分級せられたる學校は是等の質問否、是以上の種々なる質問に正しく答ふるを得べし。

(四) 階級的日曜學校は聖書を生徒の年に應じ、時代に應じて適當に注入するにあるなり。

二階級的日曜學校の七要素

(一) 分科及び分級：科を分ちて嬰兒科、幼稚科、初等科、少年科、中年科、成人科、家庭科となす。又十六才以上の者を青年科、成人科の二に分つ學校も、多し分級とは分科を更に分つものを云ふ。譬へば初等科には三分級あり、即ち進級日に於て七才に達すべきもの、八才に達すべきもの、九才に達すべきもの、級なり。此分級は公立學校の一年級、二年級に比するを得べし。又各分科の最上級を卒業級と呼ぶ。故に各學校には初等卒業級、少年卒業級、中年卒業級等あるべし。此表は三級六組を有する少年科に於ける排列を示す。初等科に於ても之にな



適ふ様に計畫さる。

(二) 構成されたる分科…各分科には主任書記及び生徒の數に應じて幾人かの教師あり、分科副主任、副書記、オルガン係等のある所もあり、斯の如き學校にありては校長の職は一層困難となる。然れども又一層有効となる。彼は實に行政長官なり。

(三) 登記書記…新らしき生徒の入校を許し、且つ其生徒を適當なる科級に編入するを務とす。此處に登記書記のカードの雛形をかゝく。

姓	名	住	所	生	年	月
入	校	日	以前に居りし學校	何	科	何
進	級	何	科	何	年	月
進	級	何	科	何	年	月
父	の	姓	名	何	科	何
母	の	姓	名	何	科	何

登録書記は階級に關する一般の事務を掌り、學校を適當に分級す。

(四) 教師の適選…成切せる學校の一要素は生徒に適當なる教師なり、即ち兒童を教ふるに最も巧なるものは兒童を教へ、成人を教ふるに最も巧なるものは成人を教ふべし。

(五) 學課の適用…總ての學課は生徒に適する様に教ふべし、故に初等科に教ふる

方法と高等科に教ふる方法とは全く異らざるべからず、而して或る教師が或る分科を教ふるに巧妙となりしならば、其分科を去るべからず、其教師は其級が其分科を終ふるまで進むべし、其級が卒業せば其分科に来る一年級を擔當すべし、斯の如く繰り返し、爲す内に、其分科の専門家となる。此方法によれば一人の教師は一の級分科ならば、或は三年、或は四年を教ふる事と成る、成人科に於ては教師は其級と共に何時までも留るべし。

(六) 補充學課……是は階級的日曜學校の七要素の中最も重要なものの一にして、其根本を爲すものなり、此學課を用ふる中は、此學課を用ゐざる學校の教ふる能はざる多くの事を教ふるを得べし。又生徒自身をして、彼等が年々に智識に、品性適當なる發達を爲しつゝある事を感じしめ、又其に依りて卒業證書を得るものなる事を知らしむるを得べし。

(七) 規定の進級日……生徒が規定の學課を期定の期間に終りたるときは、其を承認し、且十六歳以下の生徒をして進級せしむる規定の日あらざるべからず、満足に其業を終へし者には卒業或は進級證書を與へ、然らざるものには證書を與

へずして進級せしむべし、而して又特に秀でたるものには其卒業或は進級證書に優等と記して與ふべし、進級は此方法を採小學校に於ては重大なる時なり、此日に學校は其周圍の人々に他の方法によりては與へ得ざる印象を與ふるを得べし。

進級を何時頃に定むべきやに就ては特別の意見を有せざれど、一月か六月が可ならん

三、階級的日曜學校の利益

- (一) 智識欲を起さしむ。
- (二) 教授を確定せしむ。
- (三) 教授の標準を高め。
- (四) 聖書の實用的智識を與ふ。
- (五) 進級或は卒業の價值を利用す。
- (六) 完全なる印象を與ふ、教授が聖書的教育的、合理的、實用的にして又靈感(インスピレーション)を起さしむるものなりて、印象を只に生徒のみならず、一般公衆に與ふるを得べし。

七要素

- 一、科—搖、幼、初、少、中、成、家級—初等三、少年三、中年四、
- 二、構成—分科—主、青、教等
- 三、登齊—入校編入、
- 四、教適—生徒に適當なる教師、
- 五、學適—科に應ず、
- 六、補學—根本的、
- 七、規進—日—名譽日、

試問

1. 日曜學校の最も必要とするものを挙げよ。
2. 階級的日曜學校の定義を問ふ。
3. 階級的日曜學校の七要素をあげよ。
4. 完全に構成せられたる學校の分科をあげよ。
5. 嬰兒は何年間搖籃科に屬すべきか？
6. 幼稚科生は何歳にして初等科へ進級せしむべきか？
6. 初等科生は何歳にして少年科へ進級せしむべきか？

8. 少年科生は何時、中年科生は何時進級せしむべきか？
9. 階級的日曜學校の利益を問ふ。

第三十三章 階級的補充學課

一、目的…此學課は萬國日曜學校或は他の學課制度の代用として用ふべき性質のものにあらず、其等の學課制度をして一層完全に且つ有効ならしめんが爲めのものなり。

二、必要…今日の日曜學校が組織的、連續的なる聖書の智識を與へずとの事實は吾人の認めざるべからざる事なり。然し其罪を萬國日曜學課或は他の學課制度に課するは過てり。吾人が一寸或る學課の課程を準備せんとするに際しても知らるゝが如く、其等の學課制度は皆適當なる改良を要す。即ち何か其以上に或る學課を課せざるべからず。

- (一) 暗誦すべき金言を各級に適せしめざるべからず。
- (二) 聖書の書冊或は内容を表すべき要語を生徒に熟知せしめざるべからず。

- (三) 舊約歴史及び新約歴史綱要を教授するために日曜毎に學ぶべき學課の入るべき適當なる場所を知らしめざるべからず。
 - (四) 最良の教會讚美歌を教へざるべからず。
 - (五) 聖書地理を教へざるべからず。
 - (六) 進級或は卒業の根底となるべきものを作らざるべからず。
- 三、總ての人一致す…聖書の組織的、連續的、智識の貴重なることは總ての人の一致する所なり。斯の如き研究法は聖書研究に新らしき興味を興し、教師は今迄よりも良く教ふるを得るのみならず、より多くを容易に教ふるを得べし。目下の日曜學校が有する教授時間に於て、外の學課を併せて課する事は困難なりといふ人あれど、此事業は永く続け行くうちには時を節し得るのみならず、聖書研究に就いて智識と興味とを増すべしと吾人は答へん。
- 四、計劃…補充學課は大凡の所を一ヶ月間づゝに區分すべし。此區分は勿論適當に變更するを得。一ヶ月づゝの區分を爲さずして教ふる學校にありては、年の終に至るまで等閑に附し急に試験を爲す等、面白からぬ傾向多し。

- 五、如何にして始むべきか…如何なる學校にても完全なる分級は一夜に成し得べきものにあらず。故に先づ十二才以下の生徒を分級するによりて始むるを可とす。即ち幼稚科、初等科の三級、少年課の三級なり。十二才以上の者は之を一纏めとして分科を作るべし。譬へば諸君の學校に十二才より十六才に至る四級の生徒ありとせば之を中等科と呼ぶべし。始めより是等の生徒を以て種々なる學科を作るは宜しからず。除々に又自然に作る事を待つべし。十六才以上のものは總てを青年科に置くべし。而して生徒はすべて科に應じ級に應じて各々補充分科教科書を持つを要す。最初の一年間は十二才以上の者總てに同一の教科書を持たしむるをよしとす。
- 六、時間…初等科にありては大凡十分より二十分以上の分科にありては五分より十分を補充學課に用ふべし。此時間を作んが爲に規定の學課を教ふる時間を縮めんより、開校閉校の時間を縮むる方勝れり。校長又は教師は勉強中の學科に就いて時々二分練習を試むべし。二分練習は又規定の時間中に組み入れ置かざるべからず。

七、小さき學校……學校によりては各級が一室を持つ能はざることあり、又初等科が十二人の生徒、一人の教師より成ることあり、従つて如何せば一人にて三級を同時に教へ得るやとの問題起り來る。然しながら是は容易に解決せらるべき問題なり。十二人が進級日に於て七才に達すべきもの四人、八才に達すべきもの四人、九才に達すべきもの四人にて成立つ場合を想像せよ。九才に達すべきものを卒業級生徒と呼べ、而して他に二人の助手を撰べ。十五六才の女子あらば最も適當なる助手となすを得べし。二人の助手をして各々一級と二級とに補充學課を教へしめ、教師は卒業級に補充學課を教へよ、而して後、教師は又全科及び二人の助手に規定の日曜學科を教ふべし。

八、如何なる學校にても此學課を用ひ得……階級的日曜學校たるを否とを問はず、凡の學校に於て此學課を用ふるを得べし、然れども善き結果は補充學科が年齢に伴ひて進級の基礎をなす階級的日曜學校に於いて求めざるべからず。此學課を用ひざりし學校に於ては先づ容易きものを採用して練習するを得べし。

九、困難……多少の困難は免れざるべければ、思慮と忍耐とを常に要すべきは論を俟

たす直ちに總てを完成せんと企つるは不可なり、大なる事業は一日に成すべからず、理想を持ち、而して其に向つて進め宜しく現在の組を次第に整頓し、新しく入り來る生徒を適當に所理すべし、細心事に従へ、而して何時か最高の理想に達する様務むべし。

黑板練習

補充學課は斯の如きものを要す

一、	其程度に應じたる暗誦句
二、	聖書の書冊及區分
三、	新舊歴史の綱要
四、	最良の教會讚美歌
五、	聖書地理綱要

補充學課 大體に於て進級卒業の基礎たる用をなす。

試問

1. 補充學課の目的を問ふ。
2. 補充學課によりて教へらるべき四のものを挙げよ。
3. 時間を有せずとの反對に答へよ。

4. 階級制度及び補充學課を採用するには先づ如何にすべきや？
5. 補充學課は分級に如何なる用をなすや？

第三十四章 日曜學校に就いての復習

練習問題二一二より二二四迄を用うべし、又最初より二一一迄をも併用すべし

第八篇 教師と其事業

第三十五章 教師の資格

第三十六章 教師の準備

第三十七章 教授の原理

第三十八章 教授に於ける形式的の階梯

第三十九章 心理の研究

第四十章 質問法

第四十一章 説明法

第四十二章 復習

第三十五章 教師の資格

一、吾人をして最も嚴格に此問題を諸君に呈せしめよ、日曜學校を成功せしむるものは何ぞや、答は「教師なり」とあるのみ、マガレット、スラッテリーは教師養成の組課に語りて曰く「思想の廣く材料の豊にして各種なる生徒の要求を満たし得べき學程は絶體的に必要とする所なり、適當なる教室、音樂、地圖、幻燈、掛圖、圖書、其他最新式日曜學校用具は皆日曜學校問題を解決すべく缺らべからざるものなり、然しながら是等の事によりて日曜學校を成功せしめんとするは不可能の事に屬す、或は精密に計畫されし階級的制度、試験的制度を以てするも、進級式、卒業證書等の手段を以てするも、多數の生徒を以てするも、全然不可能なり、只是等の手段を話用する適當なる教師のみが日曜學校を成功せしめ得べし。

二、適當なる教師は種々なる資格を有せざるべからず、此處に其二をあげん。

(一) 信者……純粹なる生活最善の生活最高の生活は勿論内的生活なり、教師の事業人を基督に導き基督の爲に働かしむる事にあれど、教師は自ら至らざる所に生徒を導くべくもあらず、故に其第一資格は、信者なり、而して又斯の如きものたるを要す。

其一、目的とするもの……吾人の人格の價値は抱く所の理想によりて定るものなり、適當なる教師は何か爲めに聖書を教ふるか、其内にある事實を教へんが爲か、然れども其處にて止まるべきものにあらず、教師は自ら教へつゝある學課が生徒に對して、直接或は間接に感化を及ぼすべきことを知覺せざるべからず、模範的教師の理想は生徒の生涯を開發することに全力を盡して役ふることに、即ち教師の理想は、奉仕なり、吾人の師基督は人を役ふる爲めに非ず、反て人に役はれ、多くの人に代りて生命を與へ、其贖とならんとの爲に來れり(太二十〇二十八)

成功の量は富に非ず、快樂にあらず、奉仕なり。

其二、實行するもの、教會に二種の人あり、働く人徒らに暮す人、運ぶ人運ばる人、是なり、教師は自ら表す所を實行する人ならざるべからず、冷淡なる信者は冷淡なる教師たらん。

(二) 生徒……第一に彼は聖書を學ぶものたらざるべからず、而して又斯の如きものたるを要す。

其一、喜こんで教を受くるもの……即ち吾人は此事實は吾人の知る所にし、て又必要に迫られて嚴格にする所なり。

曰く吾人は吾人の發達に有益なるあらゆるものを受納するものにより、自由なり、勿論真正の教師は前者を取らざるべからず、教を受くるを欲せざる教師は改むるに非ずんば辭職すべきものなり。

其二、全備なるべし……或る人曰く新聞の發行と日曜學校教授とは多くの人が準備なくして爲し得ることの二なりと、よし新聞に關しては如何なるにもせよ、日曜學校は(一)聖書に關する智識(二)生徒に關する智識(三)教授の原理及び方法に關する智識の全備せる教師を要す。

(三) 友……教師は生徒に對して教師たると共に友たる事を要す。

其一、同情あるもの……生徒に同情せんには、生徒の立場に立ち得ざるべからず。而して生徒を愛し、心を打ち明けて生徒と交はらるべからず。

其二、犠牲をなすもの……多くの教師の失敗する原因は彼等が生徒を引付けんが爲に何等の犠牲をも拂はざるにあり、教師は職業に於ても、家族に於ても社會に於ても、生徒に善き感化を興ふる様に生活せざるべからず。故に犠牲を要す。然しながら斯の如きは幸福なる犠牲なり。

其三、役ふるもの……友情は行爲と成つて現はれざるべからず。生徒に有益なる書籍を興へんが爲めに特別なる事をなす、病める生徒を見舞はんが爲めに二里の道を行く、出席せざりし生徒に手紙を送る、是等は奉仕の二三の例なり。

黒板練習

信者	1、目的	生徒	1、喜んで教を受くるもの	2、1、同 3、2、同 仕性情
	2、實行		2、全備	

試問

- 1、日曜學校成功の原因を問ふ、
- 2、教師の第一にし又最要たる資格となるべきものは何ぞや？
- 3、教師は少くとも或る二つの點に於て信者たるを要す、而して二つの點とは何ぞや？
- 4、教師の他の二資格を問ふ、
- 5、教師の生徒たるべき二つの點をあげよ、
- 6、友たるべき三つの點をあげよ、
- 7、教師は如何にして生徒の爲めに犠牲を拂ひ得べきか？
- 8、如何にして生徒に役へ得べきか？

第三十六章 教師の準備

事業に對する準備は其事業の價値に比較すべし、車に泥上を積む事を學ぶは容易なれど、會堂建築の設計法を學ぶには數年を要す、更に人格を建設する事に至りて

は其價値は會堂建築の其と同日の論にあらず。此課に於て吾人は教師の自身に關する準備學課に關する準備生徒に關する準備に就て學ばんとす。

一、教師自身に關する準備：。教師の語るべき問題に關して、完全なる準備をなす事を重大なりとせば、自身に關して完全なる準備をなすことも是に劣らざるべし以下其助となるべき點を論せん。

(一) 祈禱：。祈禱は最高の特權なり。亦偉大なる力なり。祈禱は教師の長を教師の心たる基督の心を一に結合せしむ。毎日生徒の爲に祈り、彼等の精神上の問題に就いて熱心に絶えず思ふ習慣を養成せよ。

(二) 研究：。單に次の學課を研究するに止らず、聖書全體を組織的に研究せよ。諸君が教へんとする事以上に知る事を心掛けよ。語る言葉に力を與ふるものは語らずして心にあることなり。

(三) 會話：。最善なる男女と語る習慣を養成せよ。諸君の境遇が許す範圍に於て是廣の教養を得んことを求めよ。

二、教師の學課に關する準備。

(一) 學課準備の三階梯：。學課準備に就いて教師の常に心を置くべき三階梯あり

其一、 第一步は學課の事實及び關係せる總てのものを學ぶにあり。己の考を先にして聖書を読むべからず。己を卑して聖書の告ぐる所を受けよ。此第一系に於ては能ふ生徒の事を忘るべし。初等科教師にして初等學課注釋より拾ひ上げの準備をなすあらば全く過れる方面より準備するものと云ふべし

其二、 事實を己に適用せよ：。事實を能く學びたる後、己に適用する目的にて再び研究せよ。第一步に於ては諸君が學課を我がものとする迄研究し第二步に於ては諸君が學課に全く捕はるゝ迄研究すべし。

其三、 事實を生徒に適用せよ：。諸君が學課を全く我がものとし、學課が諸君の靈的生活と同化するに至らば、次に爲すべきことは一般的に又個人的に生徒の要求に應ずることを目的として更に學課を研究することなり。

(二) 學課準備の方法

其一、 七要素の方法：。如何なる學課に於ても以下の七要素を見出し得べし

其一、 場所：。本文に記されたる、或は暗示されたる二三の場所。

其三、人物：誰なりしか、又如何なる事が其人に就いて知られてあるか。

其四、時日：年及び歴史上の時代。

其五、事蹟：何をなし、何を云ひしか。

其六、困難：明らかならざる言葉、各種の習慣。

其七、教理：直接或は間接に學課より取りたる一般の教理。

其八、本分：全問題を通じて教へらるべき實際教訓。

(二) 角法：是は教師會に於て廣く用ゐらるゝ方法にして個人の研究を指導するに甚有益なるものなり。

角一、接近：前の學課の問題、今日の學課に至る簡單なる歴史、周圍の事狀等を語れ、此際學課の本文を讀ましむべし。

角二、學課物語：簡單に自己の作りたる學課物語を語れ。

角三、分解：學課教授及び研究の助けとなるべき一二の簡單なる分解となすべし、能ふべくんば黑板を用ひよ。

角四、傳記：學課に關係せる總ての人物、階級、國民の名をあぐべし。

角五、風俗習慣の智識：學課に現はれたる特殊の習慣をあぐべし。

角六、質問：思想を連絡せしむべき二三の質問を爲すべし。

角七、主要なる思想：一二の主なる思想をあぐ、其を撰びし理由を説明すべし。

角八、接近：始めより生徒の注意を引くべき始め方をあぐべし。

角九、幼稚科、初等科、少年軍、中等科、成人科、此學科のうちにて諸君の分科に適應せる特殊の教訓をあぐべし。

角十、説明：一二の適當なる説明をあぐべし。

角十一、實際教訓：學課の事實より自然的に得らるべき實際教訓をあぐべし。

(三) 教師の生徒に關する準備：如何にせば生徒をして學科を受入れ得る様に準備せしめ得べきやといふ質問をなす教師もあるべし、是れに就いては多くの方法あれども、此處に二つの方法をあげん。

其一、信用を得べし：單に日曜に於てのみならず、常に生徒各自と個人的關

係を作る様にすべし。而して彼等をして諸君の判断に又生活に信用を抱かしむる様に務むべし。

其二、仕事を判與へよ。如何にせば家庭の研究を爲し得べきや」とは屢々聞く所なるが吾人は斯く答へん。

- (1) 判與へよ。
- (2) 待期せよ。
- (3) 尋ねよ。
- (4) 勧めよ。
- (5) 用ゐよ。

(四) 學課準備に就いての注意

- 其一、早くより始むべし。
- 其二、歴史の連絡線を常に心に置くべし。
- 其三、最初に聖書を用ひよ、註釋を用ふるは後にすべし。
- 其四、學課の分解を書き出せ、最初は困難に感ずれども直ちに熟達し得べし。

- 其五、自ら考へよ、思人の思想を用ゆるは可なれど己の思想を棄て、其を取らべからず、只参考とせよ。
- 其六、人に與へんが爲め、又自も得んが爲めに教師會に出席せよ。
- 其七、學課に就いて人と語るべし。

黒板練習

<p>自己の準備</p> <p>一、祈禱 二、研究 三、會話</p>	<p>學課の準備</p> <p>一、事、實 二、事、已 三、事、生</p>
<p>七 元素</p> <p>一、人、場 二、時、事 三、困、事 四、本、教 五、本、教 六、本、教 七、本、教</p>	<p>家庭研究</p> <p>一、判與へよ 二、期待せよ 三、尋ねよ 四、勧めよ 五、用ゐよ</p>
	<p>生徒の準備</p> <p>一、信、得 二、仕、與</p>

試問

教師自身に關する準備に就いての三要素を擧げよ。

2. 學課に關する準備に就いての三段階をあげよ。
3. 何れの學課にも見出され得べき三要素をあげよ。
4. 學課を受入れる様に生徒をして準備せしむる二の方法を問ふ。
5. 如何にせば家庭研究をなし得べきや。
6. 學課準備に關する五の注意をあげよ。

第三十七章 教授の原理

一、原理は總ての事業の基礎にして、方法は原理に基づきて成りたる計劃なり。
方法は多く、原理は少し。

方法は變ずれど、原理は變らず。

二、すべて人類の活動は必ず或る固定せる方則、或は原理にも従ふべきものなるを以て、教授も眞正なる教授原理に従ふべきは論を俟たざるなり。吾人は此處に其原理六をあげん。

(一) 新らしきものを古きものに結びつけよ。是は彼の古き方則なる、既知より未

知に進めんと云ふに同じ、生徒をして教師の至れる所に達せしめん爲めに、教師は生徒の至れる所迄下らざるべからず。新らしきものは生徒が既に經驗せるに似通へる事を通じて受け入れられ、又了解せらるゝものなり。此原理は更に以下の小則を要す。

其一、教師は學課に就いて生徒の知る所のものと知らざる所のものを見出さざるべからず。

其二、知れるものより知らざるものに進むには、單一の堅き階梯にすべし。材料は組織的に排列して、一つの觀念が次の觀念に連結さるゝ様にすべし。

(二) 教師と生徒が同じ意味に取る言葉を用ふべし。

其一、教師は生徒一般或は個々が用ゆる言葉を知らざるべからず。

其二、必要に迫られて用ふる新らしき言葉を説明せざるべからず。

(三) 生徒の要求に適應する様に教ふべし……各自が如何なる眞理を要求するか、又受け入れ得るかを知るには、各自の内的生活及び日常の感化に於ける關係に着目せざるべからず。

其一、内的生活

1. 智識
2. 性質
3. 精神状態

其二、日常の感化

1. 家庭
2. 學校
3. 街路
4. 讀書
5. 遊戯
6. 朋友
7. 職業

(四) 共働……教師は生徒と共に働くべし。

其一、生徒の感興に應ずる注意

其二、生徒を指導して真理を追求せしむべし。

其三、絶えず生徒をして働かしむべし、全級を絶えず (All the class all the time) とは吾人の標語なり。

其四、生徒をして毎日研究又は他の仕事に従事せしむべし。

(五) 問題の發展に伴ふて絶えず感興を起すべき新らしき點を提供すべし。是を感興維持の法則と呼ぶ。

其一、生徒の生理的智的兩方面の活動を利用せよ。

其二、新らしきものを古きものに結び付けよ。成人も兒童も既に熟知せるものに新らしきものを連結せらるゝを喜ぶものなり。

其三、好奇心と疑惑とを利用せよ。

其四、教師自身が感興を維持すべし。

(六) 觀念を生徒の心に留まらしむる爲めに繰返すべし。

其一、記憶を要すべきものは屢々復習せざるべからず。

其二、教師も生徒も何物かを完全に知ることを樂まざるべからず。

其三、毎日曜迅速に復習をなすべし。

其四、毎月四季毎、年毎に行ふべき復習を怠るべからず。

教授上に注意すべき實際的十二點。

- (一) 注意——精密に研究すべし、然れども暗誦するに及ばず。
- (二) 一物語を有力ならしめんことを期せよ。
- (三) 説明を自由に用ひよ、されど恐に用ひざれ。
- (四) 自の生活が教ふる事の説明ならざるべからず。
- (五) 自ら受くる印象によりて與ふる印象を知るべし。
- (六) 五人が學ばんと欲することに注意せよ、さらば人は汝が教へんとすることに注意すべし。
- (七) 吾人皆異なる個人なり、是を考へて人を研究すべし。
- (八) 七教授の目的は第一に成長しつゝある個人、次に問題なり。
- (九) 生徒に單に善人なれと教ふるのみならず、善なる何物かをせよと教ふべし。
- (十) 九生徒の知れることに就いて精確に知れ、さらば生徒は自の知らざる事に就い

て汝が精確に知れることを信すべし。

(十) 教授を始むる時に自ら何處に向つて進むかを知れ、されば生徒は教授の終りし時に汝が何處にあるかを知るべし。

(十一) 常に充分なる豫備を貯へよ、汝が知る處をすべて教ふるは、危険なり。

(十二) 教師の三則。

なるべきこと三、眞實、完全、思慮。

支配すべきもの三、時、怒、舌。

持つべきもの三、愛、自由、生命。

愛すべきもの三、名譽、家庭、天國。

教育すべきもの三、手、頭、腦、心。

考ふべきこと三、本分、死、運命。

黑板練習

一、新古

二、一歩一歩

第八編 第三十章 教授の原理

一、用語

二、説明

三、適應 一、智性、精 二、日常の感化 五、秋らしき點 一、新生活 二、新古今 三、好疑 四、感興	四、共備 一、感 二、指 三、全 四、每 六、繰返し 一、屢々 二、樂々 三、毎日 四、月、季、年
--	--

試問

1. 教授に於ける原理と方法の相違を問ふ、
2. 教授の六原理をあげよ、
3. 生徒の周圍にある日常の六感化をあげよ、
4. 學課の發達に際し、感興を維持する四の方法を問ふ、
5. 級の用語とは如何なる意味か？
6. 何故に復習が必要なるか？

第三十八章 教授に於ける形式的段階

前課に於ては教授の一般的原理を學びたるが、此處にては事實學課は如何にして教ふべきやを論ずるは適當の事なるべし、成功せる教師は皆如何なる學課に於ても用ひらるべき、ある一般的なる計畫を採用することは少なからぬ便利なりと感ず、抑も記憶を助け、時間と精力の消費を少くし、教授を一層確實に又有効ならしめ如何なる學課も共通の形式をなす部分と學課々々によりて異なる部分との二つよりなる形式をなす部分は學課の内容よりむしろ形式に關するものなるが故に、是を形式的部分と呼ぶ、而して此形式的部分は教授上、或る形式的階梯に分たる、此處に其五をあげん。

(一) 試験…既に持てる智識は次に教ふべき學課の準備をなすものなるが故に、學課教授に際しては、學ぶべき問題に關し、生徒の智識が如何なる所に位するやを知るは教師の絶體に必要とする所なり、試験とは生徒の心中にある如何なる觀念が現在の學課に如何なる關係を有するかを見出すことを學び、生徒の觀念庫中より、何か用ひらるべきものを取出すことに存す、試験をなすことは最初には困難なるべけれど、賢明なる教師は直ちに生徒の有する如何なる觀念に依賴し

得るやを知るに至るべし。

其一、断片的なるべからず……巧に生徒を試み得る教師は断片的の教授をなすべからず。前の日曜、次の日曜の學課を知るに止らず、全期、全年にわたりの歴史的事情に明らかなるを要す。殆んど凡ての學課は相互間に密接なる關係を有するものにして、完全に生徒を試みんには必ず此關係を知るべきなり。

其二、心の法則……此形式的階梯は次の法則と基礎とす。心は既知類似の觀念を通じてのみ新らしき智識を受くるを得。

其三、一の質問……此處に於て教師は自ら心に問ふべし。現在の問題に就いて生徒は何を知るや。

(二)……教授……試験は基礎をおくとして、教授は其上に建築する事也。教授は生徒の居る所に於て始めざるべからず。然れども現在の學課に始むるを必要とするにはあらず。ある小供が關連せる數個の質問を受けて皆速かに答へたりしが最後に教師が彼が知らざる事を聞きし。彼時は曰く「私の考ふる者は此處迄行き得るのみ」と。此處なり。教授は實に此處に始まる。生徒が居る處に始めよ。而して問

の事實を語り、其日の學課に導け、斯の如くして教授の断片的なるを免れ得べし。

其一、方法……初等科生には物語法、小年科生、中等科生には質問法、青年科生成人科生には質問法と講義法を混用ゆべし。

其二、二要素、新思想を教授するには、次の要素を必要とす。

1、適當なる順序……物語に拙劣なる人は時としては斯く云ふことあり。けれども私は斯々云ふを忘れたり」と。斯の如き詞句の挿入は我が物語に或る事實の欠け居るを氣付きし時に起るものにして、事實の順序を不秩序ならしむる事は單に混雜を生ずるに止まらず、屢々全體を失はしむる如き結果を生ず。

2、共働……有効なる教授は、教師と生徒との快き共働を俟ちてなさるべきものなり。

注意、歴史上の順序を定むること、困難の點を注意すること、事實を明らかにする事は必ず此段階に屬すべきものとす。

(三) 組合せ……生徒の既に持てる智識に新らしき觀念を織り込むことを觀念聯合

と學ぶ新らしき觀念を心に留めんが爲めには古き觀念に聯合せしめざるべからず。

其一、觀念聯合律は左の如し。

1. 相似たる觀念を集むること。

2. 異なる觀念を集めて比較すること。

注意、此段階に於て聖書より取たる説明は最も有効に用ひらるべし。

(四) 概括…聯合せの項に於て云ひし如き觀念の比較は自然の結果として概念に至るべし。多くの基本事實を集むるや、生徒は直ちに其より推論して或る廣義なる敘述に至らんとす。是を概念といふ。故に概念とは研究せる多くの事實より推論せる廣義なる敘述なり。若し思想の組合せを適當なる注意を以て賢くなしたらんには甚だしく過れる概念をなし能はざるべし。

説明…例へばアブラハムの石を學びつゝあるとせよ、其をモーセ、或はパウロの石に就いて異同の點を比較し而して斯く概括す、偉大なる信仰を持つて人は偉大なる未來を持ち能ふ。又は神の石に服従せる務めは確實なる成功に達す。

(五) 應用…應用は適切なる最後の形式的段階なり。印象を導きて發展とならしめざるべからずとは教授の一方則なるが、若し始めの四段階によりて與へられたる印象が、生徒を導びぎて學課中の眞理が、自己の生涯に及ぼす實際的の効力を感ずるに至らしむるに非ざれば、其學課は失敗せりといふべし。應用は理論を智識に移し、枝葉を活動に移す。應用は簡單に又鋭く、又誘引的なるべく、級にありては一般的に私の場合に於ては個人的なるべし。以上は形式的五階級なるが、完全に解せんには忠實に使用せざるべからず。總ての學課教授上に研究せる計畫ありとの自覺は教師をして愉快ならしめ、且力を得しむ。

黑板練習

定義	斷片的	試驗
法則	一つの質問	
定義	方法	教授
適當なる順序	共働	

組合せ	定義
集合	集類
聖書	

概括	應用
說明	教則
	方法
	定義

試問

1. 教授上の形式的五段階をあげよ。
2. 生徒を試むるとは如何なる意味か？
3. 試験は如何なる心の法則を基礎となすや？
4. 第一段階に於て教師の自問すべき事如何？
5. 試験と教授との區別を問ふ。
6. 初等科教授の方法を問ふ。
7. 觀念教授の二法則を問ふ。
8. 觀念聯合と名づくる段階の定義を問ふ。
9. 二箇の觀念聯合律をあげよ。

10. 概括と名づくる段階の定義を問ふ。
11. 最後の段階は何と名づくるか、又其定義如何？
12. 應用は如何になすべきか？

第三十九章 心理の研究

此課に於ては單に心理研究に用ひられたる普通の用語を熟知せしむるを目的とす。ルーリック、エヌ、ロールク曰く「教師は即マター(實質)マインド(心)メソッド(方法)なる三つのエムを知るを要す」と。吾人は今迄第一のエムに就いて多く學びたりしが、今や第二のエムに就て學ばんとす。

(一) 注意…注意とは集中されたる意識なり。即ち意識が或る一物を中心として集り來る時は吾人は注意すといふ。ゼームスサリー曰く注意とは「心の前に物を保留する能力なり」と。

注意を起さしむるといふ事は、最も重要な問題なり。注意なくしては教授あるべからず。注意を起さしめずして教へんとするより、口を塞げる瓶に油を入れん

とする方途に勝れり。

注意を起さしむる方法のうち、吾人は此處にシー(c)を頭字とせるもの五をあげん。

其一、接觸(Contact)教師が新らしき觀念を授けんとするには、生徒の智識中授けんとする觀念に最も近き一點に於て始むべし。是即ち接觸點なり。

其二、好奇心(Curiosity)教授の一方は満足され得べき好奇心を起さしむるにあり。週を追ふて語りつゝある物語を常に生徒の好奇心の頂上にある時に止むるを可とす。斯の計畫によりて注意を起さしめ且留らしめよ。

其三、具體的なること(Concreteness)一般的なるものは如何に光輝ありとも、注目を引くこと稀なり。只一般に人が成せしこと、成し得べきこと或ひは成すべきことは特殊の感興を引き難しと雖も、アブラハム、リンコルン或ひはウィリアムマッキンレーが爲せしことは大なる感興を起す。觀念を生ずる人格に入れよ、然らば注意を起し得べく又成功し得べし。

其四、共働。生徒が或る部分の仕事をなす様に導かるゝにあらずんば長く

感興を持続し難し。正しき教師は屢々教へすこと事あり。如何なる程度の組なりとも常に何事かを爲さしむるにあらずんば、大なる感興を持続し得ざるべし。生徒の注意を引くに巧なる教師は常に何事かを故と生徒の考案に任す。

其五、傳染。生徒に感興を起さしめんとする教師は自ら感興を起さざるべからず。若し汝が眞に感興を起さば生徒は汝より其を得べし。

(二) 感覺、知覺、統覺

其一、感覺とは或る外部の刺激が心に與ふる印象をいふ。感覺を受くる機關なるものも覺官といふ、即ち味、臭、觸、聽、視なり。

其二、知覺とは感覺を認むることなり。

其三、統覺とは新らしきものを既に知れる詞に翻譯することなり。即ち既に有せる智識によりて認識を結びつける事なり。或ひは其に依りて新らしき觀念を類別し得べき或物を觀念庫中に直ちに求むる心の自然的働なり。

説明、ピンを指端に觸るゝ時は、或る印象が神經を通じて心に傳はる。此印象は即ち感覺なり。此印象がピンによりて生せられたるものと認めらるゝ時は

之れ知覺なり。統覺とは此知覺を既知の相似たる知覺に結びつけて、類別する働なり。統覺は又類化ともいふ。

(三) 記憶、想像

其一、記憶……記憶は保留し、回想し、認識する心の力なり。(一)反覆(二)聯合を其二助とす。

其二、想像……想像は畫を作る心の力なり。教授ホワイトは定義して曰く「想像は表示し、改作し、復合する心の力なり」と賢明なる教師は小なからず想像を利用す。教授ロールク曰く「世界に想像を用ひて改良し得ざる職業はあらず。未だ爲さざる前に次の打撃の結果を見得る溝堀り、積まざる前に穴の練瓦の適當なる位置にあるを見る煉瓦積み、鐵砧の上に作りし理想の如くに鐵條をなし得る鍛冶、是等は皆只想像記憶或は現在目前にある所以外に何も是得ざるもの以上に良き働を爲し得るものなり。歴史を研究するに當りて生徒は想像によりて研究しつゝある生活中に自己を移すべきなり。理想は吾人の行爲の標準として、想像が作る所のものなり。」

(四) 感情、意志

其一、感情……感情は快き或は苦き心の状態なり(ロールク)

教師は生徒を助けて感情を(一)指導し、(二)發育せしむべし。吾人の行動中に感情の占むる重大なる位置はバターソン、ブボイスによりて大に發表せられたり。彼は確言して曰く「感情は世界を支配す、パウロ、サボナローラ、ルーテル、ノックス、バンヤン、フローベル、ウオルバーク、フォース、ウァシントン、ストー夫人、ホイッテメル、リンコルンの智的自信一ツが彼等の改革を示せしものにあらず。寧ろ彼等の力は發憤熱心、勇氣、同情、愛憎、希望、恐懼にありといふべし。原動力の依りて來る所は意志の直ぐ後に行爲の信任狀として、又刺針として存する所の靈の發動なり。」

其二、意志は心の自決力なり。意志は撰擇自由なり。而して吾人の發育は多く吾人の撰擇にする。品性は定義して吾人の撰擇の和となすを得。教師は生徒の意志を破るべからず。生徒を助けて意志を訓練せしめ、發育せしむべし。

(五) 習慣、習慣は第二の天性なり。教授ロールクは曰く「習慣は行爲或は状態を無意

識に反覆する傾向として現はれたる心の状態なり」と思想行為習慣品性運命の
 關係は吾人の熟知せる次の句により現はれたり。
 思想を蒔けば行為を刈り、
 行為を蒔けば習慣を刈り、
 習慣を蒔けば品性を刈り、
 品性を蒔けば運命を刈る。

黑板練習

注意—中集活たる意識	一、接觸
	二、好奇心
	三、具體的
	四、共働
	五、傳染
知覺………印象	想像………畫作力
感情………心状態	統覺………認結
記憶………保、回、認	認識………知、認
	意志………自決力

試問

- 1、教師の知るべき三エム(直)とは何ぞや？
- 2、注意とは何ぞや？
- 3、注意を引く五方法を問ふ、
- 4、知覺とは何ぞや？
- 5、知覺と認識との關係を問ふ、
- 6、統覺の定義を問ふ、
- 7、記憶とは何ぞや、記憶の二助をあげよ、
- 8、想像とは何ぞや？
- 9、想像は歴史研究を如何に助くるや？
- 10、吾人の理想と想像との關係如何？
- 11、感情の定義を問ふ、
- 12、意志の定義を問ふ、品性とは何ぞや？

第四十章 質問法

一、教授の好果は質問の巧妙なると完全なるとに依ること大なり。智識を興ふる方法を大別すれば、講義法と質問法との二つなるが、成人教授に當りては兩者を連結したるものを可とし、兒童教授にありては後者を可とす。質問法は屢々ソクラテス流と呼ばれる蓋し此方法がソクラテスによりて著しく用ひられたるが故なり。

二、吾人が此課を質問法と呼ぶは論ずるよりは成すによりて學ぶべきものなるが故なり。是に熟達せんとせば、只堅忍的に練習を續くる外はあらず。汝の級に行き質問を爲せ、而して質問の法を學べよ。然れども質問法は全く練習のみにして學理を包まずと云ふにあらず。故に質問の際に心に置くべき一般なる原理を研究し、又成功せる教師に質問する方法、及び何故に或る一つが良法にして他が否らざるの理由に就いて知るは賢きことなるべし。

(一) 注意して爲すべき質問の種類

其一、修辭學的……修辭學的質問とは答を要せざるものをいふ。説教者が誰か神の愛を量り得るやと質問することあらんに、其答は明白にして、誰も能はざるべけれども、若し聽衆のうちの一人が聲をあげて答ふるものあらば説教

者は大に驚くならん。修辭學的質問は教授に於て用ひらるゝこと稀なり。

其二、省略的……省略的質問とは答の或る部分を質問者がなして、或部を生徒に爲さしむることをいふ。此種類の質問は易きに過ぎて有害なることあるが故に、大なる注意を以て爲さるべからず。ジョン・アダムス曰く「省略法は愚鈍なる又臆病なる兒童には大なる助となれど、その習慣を作るべからず」と。

其三、然り又否……單に然り又否と答へ得べき質問は一般によろしからず。唯二つの答あるのみなることを以て、生徒が想像して答ふるも、偶然に適中し得べし。アダムス曰く「此非難は或る種類の質問には當れりと雖、生徒を試みつゝあるに非ざることを自覺せるとき、生徒をして教師の意見に賛同せしめんとする場合には此種類の質問は望まじきことなり。生徒が問者の話を知るや否やを知らんとするときに、『ヨシアはカナンに入る事を絶望せしや』と問ふは悪しけれど、生徒が其始を既に知れる時、應用をなしつゝある場合に、臆病なる問者と勇敢なる問者との對照を印象せんとして、斯く質問するは全く適當のことなり。凡の法則は除外例を有す。吾人は法則によりて助けらるゝはよし、束

縛さるゝは不可なり。

(二) 爲すべき質問の種類

其一、明確に答を爲し得ると否とに關らず、質問の意味を生徒が能く知り得る様に問はざるべからず、生徒は事實を知らざるにあらずして、質問の意味が不明瞭なるが爲めに屢々答を爲すに躊躇することあり。

其二、建設的…復習に用ゆるは不規則なる質問なれど、教授に用ゆるには組織的進歩的の質問ならざるべからず。ソクラテスの偉大なる力は、彼が決して問題の要點を見失はず、又聽く者を問題に連結し、不秩序なる議論に流れしめざるにありき。教師は第一に彼が教師たること、而して質問は單に教師としての彼の事業を助くるものなることを記憶せざるべからず。教授に於て建設的なりとせば質問に於ても又建設的ならざるべからず。

其三、創船的…學課註釋に載せられたる質問は學課準備に於ける教師の助けなり。其を以て生徒を試むべからず、教師が自己の目前に聖書以外何物も置かずして教へ得る迄に完全なる準備をなすに於ては彼は速かに創始的の質問を爲し得るに至るべし。

問を爲し得るに至るべし。

其四、暗示的…質問は生徒に思想の野を暗示し、心的活動を起さしむるを要す。其一例をあげんに「何故にモーセはエジプトよりカナンに至る眞直の道を撰ばずして遠き道を探りしや」と尋ぬる時は、エジプトとカナン間の地形研究に生徒を導びくべし。

其五、靈的…生徒の良心を刺戟し且品性上に影響を及ぼすべき質問は靈的なり。質問は靈的及び心的の活動を起さしむるものならざるべからず。

(三) 質問の用途

其一、感興を惹起するため…適當に爲されたる質問にまして、多くの人の心に感興と注意とを惹起し且保留するものはあらず。グレゴリーの斯く云へるも宜なり、眞に人心を刺戟するものは質問なり。多くの級は過多の話、過少の質問によりて破壊されつゝあり。

其二、記憶を助けんが爲め…質問は生徒を助けて授けられたる思想を保留せしむ。質問によりて受取りたる智識は粘着す。

其三、生徒の智識を試むるため、講義法にありては生徒は智識の有無を隠し得べしと雖も、巧妙なる質問は直ちに生徒の假面を剥ぎ其無智を暴露せしむ。故に生徒の發展は教師の質明なる質問に負ふなり。

其四、生徒の良心を刺戟する爲め、教師の長なる耶蘇は屢々此方法を用ひ給ひき、多くの人彼を棄てたりしとき、耶蘇は十二の弟子に向ひ給ひて「汝等も亦去らんと思ふや」(約六〇六十六—六十八)此質問は彼得の良心を刺戟し、彼をして斯く答へしめぬ、主よ我等は誰に行んや、永生の言を有するものは汝なり尙馬太十六〇二十六に若し人全世界を得るも其生命を失は、何の益あらんや、また人何を持つて其生命に易んや」と質問し給へるも他の一例なり。

其五、教師の事業を試むるため、或る有名なる教師が質問法の用途に就いて語りて曰く最初に質問によりて智識を生徒に注入し、後に質問によりて智識を生徒より汲出すと、汲出し能ふ量は注入し得たる量を語る。教師は復習の質問を自己の事業試験に用ふべし。

質問が又他の方面に教師の事業を試むるといふも不可なかるべし。教師は質

問により又其方法により自己が全く學理を捕え得るや否やを知ることを得生徒も亦講義法よりも質問法に於て教師の準備如何を發見し得べし。

(四) 爲すべからざる質問、

其一、愚なるもの、愚なる質問とは漸く何物かを意味する、又は全く何等の意味もなきもの無益なる問題に關れるもの、滑稽なる答を得べきものをいふ、蒸氣機關期に生徒の級を持てる教師「テグラテレビセルの事に就て何か知つて居ますか」と尋ねたりしに「何も知りません」と一人の生徒は速かに答へぬ、生徒に滑稽を感せしむるが如き機會を決して與ふべからず、如何なる階級の生徒を教へつゝありとも質問は何等かの要領あるを要す。

其二、捕獲的なるもの、生徒を狼狽せしめ、又抑壓せしむるが如き捕獲的質問は日曜學校に於ては殆んど無用なり、生徒を惑はす目的の質問には吾人の事業中に何等の位置を有せざるなり、質問には宜しく目的に適ひて意義明白なるべく直進的なるべし。

其三、長き答を要するもの、長き答をよむ質問を爲すは過なり、殊に幼年